

平成31年度

島根大学大学院医学系研究科
看護学専攻

シラバス

島根大学大学院医学系研究科

目 次

【博士前期課程】

1. 目的	1
2. 目標	1
3. ディプロマ・ポリシー	1
4. カリキュラム・ポリシー	1
5. 看護学専攻の構成	2
(1) 看護援助学コース	
(2) 看護管理学コース	
(3) 地域・在宅看護学コース	
(4) 母子看護学コース	
(5) がん・成人看護学コース	
(6) がん看護CNSコース	
(7) 高齢者看護学コース	
(8) 老人看護CNSコース	
6. 履修方法	4
7. 履修モデル	5
8. 修了の要件	6
9. 学位授与	6
10. 長期履修制度と修業年限	6
11. 入学科・授業料の免除及び徴収猶予制度	6
12. 奨学金制度	6
13. 学生教育研究災害傷害保険	6
14. 教育課程表：平成31年度入学者用	7
15. 教育課程表：平成30年度入学者用	11
16. 教育課程表：平成28・29年度以前入学者用	13
17. 平成31年度：大学院授業科目担当者一覧	15
18. 科目解説	
(専門必修科目)	

看護援助学特論	16
看護援助学演習	18
看護管理学特論	20
看護管理学演習	22
地域・在宅看護学特論	24
地域・在宅看護学演習	26
母子看護学特論	28
母子看護学演習	30
がん看護学特論	32
がん看護学演習	34
高齢者看護学特論	36
高齢者看護学演習	38
高齢者看護援助論	40
高齢者看護学実習	42
がん薬物療法看護援助論	44
緩和ケア演習	46
がん看護学実習Ⅰ	50
がん看護学実習Ⅱ	52
がん看護学実習Ⅲ	54
がん看護学実習Ⅳ	56
がん看護学実習Ⅴ	58
(専門選択科目)	
リスクマネジメント論	62
看護人材育成論	64
看護情報管理論	66
保健医療福祉政策論	68
母子フィジカルアセスメント方法論	70
重症者フィジカルアセスメント方法論	72
高齢者看護実践論	74

認知症看護論	76
高齢者在宅ケアシステム論	78
がん看護病態生理治療学	80
がん看護学援助論	82
がん薬物療法看護論	84
緩和ケア論	86
フィジカルアセスメント	88
病態生理学	90
臨床薬理学	92
(基盤科目)	
家族看護援助論	96
看護理論	98
看護倫理	100
コンサルテーション論	102
看護研究方法演習	104
(大学院選択科目)	
研究と倫理	106
学際プレゼンテーション入門	108
研究力とキャリアデザイン	109
(専門必修科目：修士論文関連)	
看護学特別研究	110
看護学課題研究	110
修士論文作成の目安と審査スケジュール	111
【博士後期課程】	
1. 目的	112
2. 目標	112
3. ディプロマ・ポリシー	112
4. カリキュラム・ポリシー	112

5. 履修方法	113
6. 学位論文審査	114
7. 修了の要件	114
8. 学位授与	114
9. 学位論文の公表	114
10. 長期履修制度と修業年限	114
11. 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度	114
12. 奨学金制度	115
13. 学生教育研究災害傷害保険	115
14. 看護学専攻博士後期課程カリキュラム	116
15. 平成 31 年度：専門科目担当者一覧	117
16. 履修モデル	118
17. 入学から修了までのスケジュール	119
18. 研究指導の標準的なスケジュール	120
19. 科目解説	
(専門科目)	
超高齢看護開発特講	121
安全ケアシステム開発特講	123
研究方法特講	125
超高齢看護学研究演習	127
超高齢看護学特別研究	131
(関連科目)	
地域がん治療学	135
がん医療社会学	137
緩和ケア学	139
環境医学Ⅰ	141
環境医学Ⅱ	143
医学・医療情報学Ⅰ	145
地域医療学Ⅰ	147
地域医療学Ⅱ	149
総合診療学Ⅰ	151
総合診療学Ⅱ	153
臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用	155

知的財産と社会連携	157
機能性物質・食品の医療応用と環境影響	159

【共通事項】

平成31年度時間割	162
平成31年度学年暦	163

博士前期課程

1. 目的

近年、科学技術の発展はめざましく、医療分野においても先端技術の高度化、関連職種の専門分化が進展し、保健医療を取り巻く社会情勢は大きく変化した。特に、高齢社会の到来に伴って疾病構造が変化した結果、病気や障害を抱えながら地域社会の中で日常生活を営む人々が急増し、在宅看護や介護など、保健・福祉・医療にかかわる看護ニーズが拡大し、多様化してきている。また、心身症や自殺者の増加など、心のケアを必要とする健康問題への支援が求められている。

とりわけ島根県は老年人口比率が高く、わが国の高齢社会の抱える問題を先行して体験していることに加え過疎化が進行する離島や中山間地域を抱えているところから、住民に豊かな保健・医療・福祉サービスを提供するためのシステムを模索している現状にある。

こうした健康問題の社会的・地域的要請に応えていくためには、高度な看護実践能力を持ち、保健・医療・福祉の有機的連携を調整する役割を果たせる看護専門職者と看護学研究者の育成が必須である。

本研究科は、豊かな人間性と幅広い視野をもち、科学的な視点と看護学の理論に支えられた卓越した看護実践能力と、創造的な教育・研究能力を持つ人材を育成し、看護学の発展と地域の保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的とする。

2. 目標

各種医療機関、保健・福祉施設、教育・研究機関等で活躍する看護学分野における専門性の高い人材の育成を行う。

1) 高度な専門職業人の育成

看護の対象となる人々の QOL の向上や看護ケアの質の向上を図るために、深い人間理解と高度で専門的な知識と技術を有し、専門領域の分野で卓越した看護を提供できる能力を持つ人材を育成する。広い視野で保健・医療・福祉の資源を有効に活用し、一般看護職者のケアの質を向上させるための教育的機能を果たすとともに、専門分野の看護実践の場における研究活動を推進し、看護学の発展に寄与することのできる人材を育成する。

2) 教育者・研究者の育成

学部教育で修得した専門的知識と技術を基盤にさらに学識を深め、看護学の体系化と看護技術の開発を積極的に推進していく能力を育成する。看護学の最先端の理論と知識、方法を学び、急速に進展している看護学の高等教育を担う人材を育成するとともに、博士後期課程へ進学し研究者として自立できる能力を有する人材を育成する。

3. ディプロマ・ポリシー

原則として2年以上在学し、所定の単位（30 単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて修士論文を提出し、その審査に合格することにより修士（看護学）の学位が授与される。そのためには、以下の学習成果を上げることが求められる。

1. 修士論文の作成をとおして、体系的な研究方法を身につけていること
2. 専攻した看護学専門分野の高度な知識と技術を身につけていること
3. 組織的に問題解決を図るための総合的な判断力と行動力を身につけていること

4. カリキュラム・ポリシー

1) 専門教育のあり方

看護学全般において多様な選択ができるよう、看護学の全領域を網羅的にカバーした、「看護援助学」、「看護管理学」、「地域・在宅看護学」、「母子看護学」、「がん・成人看護学」、「がん看護 CNS」、「高齢者看護学」、「老人看護 CNS」の8 コースを設置している。

2) 教育課程の構造と教育方法

1. 専門分野の看護学を系統的に学び、研究課題を見出し、修士論文に繋げられるよう、専門分野の「特論 2 単位」「演習 2 単位」「看護学特別研究 8 単位（CNS コースは「看護学課題研

究4単位)」を1セットで必修としている。

2. 看護学の基盤を成す「看護倫理」「コンサルテーション論」等の科目を「基盤科目」とし、専攻分野に関わらず選択必修8単位を課している。
3. 専攻した分野以外にも、幅広い看護学の知見を学べるよう、『専門選択科目』16科目と各専門分野の「特論」6科目を設定している。
4. 研究能力の向上をめざし、全員が「看護研究方法演習」で多様な研究方法の基本を学んだ後に修士論文に取り組めるようにしている。

5. 看護学専攻の構成

看護援助学コース、看護管理学コース、地域・在宅看護学コース、母子看護学コース、がん・成人看護学コース、がん看護CNSコース、高齢者看護学コース、老人看護CNSコースの8コースで構成されている。

1) 看護援助学コース

ヒューマンケアと看護の質の向上という観点から看護援助に関する理解を深め、様々な看護領域の実践の基盤となる対人関係および看護援助技術に関する理論・技術・教育方法について教育・研究を行う。

2) 看護管理学コース

社会のヘルス・ニーズに対応して、最良の看護を組織的に提供し、計画・組織化・支持・調整・統制といった諸活動を展開するために必要な看護管理の理論と方法を修得し、看護管理実践における看護管理技術の検証と更なる開発をめざして教育・研究を行う。

このコースを修了して修士号を取得し、かつ、日本看護協会認定看護管理者規則第19条に定める実務経験を有する者は、認定看護管理者認定審査の受験資格を得られる。

3) 地域・在宅看護学コース

地域の地理的、文化的、社会的環境と密接に関係する人々の健康的な生活を維持するため、個人や家族、学校、職域および集団を対象として、保健・医療・福祉の効果的・効率的連携を可能にする看護と方策について教育・研究を行う。また、一般住民や在宅療養者の生活の質向上に向けて、専門的看護の実践における教育・研究を行う。

4) 母子看護学コース

ライフサイクルと生涯発達の見点に立って、母子関係や家族関係に関連する理論を学び、様々な健康状態にある小児の特性、妊産婦や子どもの健康問題に関する最新の知見や母子保健施策を通して、母子や家族の健全な発達を支援する方策について教育・研究を行う。

5) がん・成人看護学コース

成人期を生きる視点から、生命、生活および健康にとって重大な課題であるがんや今日的な健康課題・健康障害について理解を深め、社会に生き世代をつなぐ成人期にある人への看護に関連した理論と方法を学び、患者・家族のQOL向上をめざした看護実践を探究する教育・研究を行う。

6) がん看護CNSコース

卓越したがん看護実践に向けて、高度で複雑な課題を解決するための看護援助諸理論を修得するとともに専門看護師としての機能と役割を開発する諸理論や方法を学びます。そして、ケアとケアを統合し、がん患者とその家族のQOL向上を目指した高度ながん看護実践能力・適切な倫理的判断力・研究的視点を備えた看護専門職者の育成を目指します。

※本コースでは、必須科目に加えて、専門看護師の各分野に対応する領域の科目、ならびに指定の科目を履修することにより、博士前期課程終了後ながん看護専門看護師認定試験受験につながる単位を取得できます。

7)高齢者看護学コース

加齢による変化や疾病・障害を持つ高齢者の健康上の問題と日常生活との関係をアセスメントし、健康的な老年期の生活を維持できる看護の理論と方法について学び、高齢者や家族へのケアをコーディネートすることのできるマネジメント能力やケア開発のための教育・研究を行う。

8)老人看護CNSコース

老人看護分野において、総合的な判断力と組織的な問題解決力を持って活動し、老人看護実践の発展に貢献できる専門看護師（CNS）の育成を目指す。

6. 履修方法

がん看護 CNS コースおよび、老人看護 CNS コース専攻者以外は、下記の修了要件を満たすよう、別紙「履修モデル」より必要となる科目を履修する。

区 分		履 修 科 目	単位数
必修	専門必修科目	専攻するコースの特論 : 2 単位 専攻するコースの演習 : 2 単位 看護学特別研究 : 8 単位	12 単位
選択	専門必修科目 専門選択科目	専攻するコース以外の特論及び 専門選択科目	10 単位以上
	基盤科目		8 単位以上
		合 計	30 単位以上

※がん看護 CNS コース

がん看護 CNS コースは、専門看護師教育課程として認定されている。

下記の修了要件をみたすよう、別紙「履修モデル」よりがん看護 CNS 受験資格に必要となる科目を履修する。

区 分		履 修 科 目	単位数
必修	専門必修科目	がん看護学特論 : 2 単位 がん看護学演習 : 2 単位 がん薬物療法看護援助論 : 2 単位 緩和ケア演習 : 2 単位 がん看護学実習 I ~ V : 各 2 単位 看護学課題研究 : 4 単位	22 単位
選択	専門必修科目 専門選択科目	がん看護病態生理治療学 : 2 単位 がん看護援助論 : 2 単位 がん薬物療法看護論 : 2 単位 緩和ケア論 : 2 単位 フィジカルアセスメント : 2 単位 病態生理学 : 2 単位 臨床薬理学 : 2 単位 専攻するコース以外の特論及び 専門選択科目	14 単位以上
	基盤科目		8 単位以上
		合 計	44 単位以上

※老人看護 CNS コース

老人看護 CNS コースは、専門看護師教育課程（老年看護）として認定されている。

下記の修了要件を満たすよう、別紙「履修モデル」より老人看護 CNS 受験資格に必要となる科目を履修する。

区 分		履 修 科 目	単位数
必修	専門必修科目	高齢者看護学特論 : 2 単位 高齢者看護学演習 : 2 単位 高齢者看護援助論 : 2 単位 高齢者看護学実習 : 6 単位 看護学課題研究 : 4 単位	16 単位
選択	専門必修科目 専門選択科目	専攻するコース以外の特論及び 専門選択科目	12 単位以上
	基盤科目		8 単位以上
		合 計	36 単位以上

7. 履修モデル

授業科目	開講年次	単位数			看護援助学コース	看護管理学コース	地域・在宅看護学コース	母子看護学コース	がん・成人看護学コース	がん看護CNSコース	高齢者看護学コース	老人看護CNSコース
		講義	演習	実習								
専門必修科目	看護援助学特論	1	2		●							
	看護援助学演習	1	2		●							
	看護管理学特論	1	2			●				☆		☆
	看護管理学演習	1	2			●						
	地域・在宅看護学特論	1	2				●					
	地域・在宅看護学演習	1	2				●					
	母子看護学特論	1	2					●				
	母子看護学演習	1	2					●				
	がん看護学特論	1	2						●	●	☆	
	がん看護学演習	1	2						●	●		
	高齢者看護学特論	1	2								●	●
	高齢者看護学演習	1	2								●	●
	高齢者看護学援助論	1・2	2									●
	高齢者看護学実習	1・2		6								●
	がん薬物療法看護援助論	1・2	2							●		
	緩和ケア演習	1	2							●		
	がん看護学実習Ⅰ,Ⅱ	1		2						●		
がん看護学実習Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ	2		2						●			
看護学課題研究	2	4							●		●	
看護学特別研究	2	8		●	●	●	●	●		●		
専門選択科目	リスクマネジメント論	1・2	2			◎						
	看護人材育成論	1・2	2			◎						☆
	看護情報管理論	1・2	2			◎						
	保健医療福祉政策論	1・2	2			◎	○					●
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2	2					○				
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2	2									●
	高齢者看護実践論	1・2	2								○	●
	認知症看護論	1・2	2								○	●
	高齢者在宅ケアシステム論	1・2	2				○				○	●
	がん看護病態生理治療学	1・2							○	●		
	がん看護学援助論	1・2							○	●		
	がん薬物療法看護論	1・2							○	●		
	緩和ケア論	1・2							○	●		
	フィジカルアセスメント	1・2								★		○
	病態生理学	1・2								★		○
臨床薬理学	1・2								★		○	
基盤科目	家族看護援助論	1・2	2									●
	看護理論	1・2	2							☆		☆
	看護倫理	1・2	2							☆		☆
	コンサルテーション論	1・2	2							☆		☆
	看護研究方法演習	1・2	2							☆		☆
大学院選択科目	研究と倫理	1・2	1									
	学際プレゼンテーション入門	1・2	1									
	研究力とキャリアデザイン	1・2	1									
	大学院連携科目	1・2										

●必修 ◎認定看護管理者認定審査受験者必修 ☆CNSコース選択必修 ★がん看護CNSコース必修 ○推奨

(備考)

基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位(CNSコースは課題研究4単位)、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。なお、CNSコースの履修については、指導教員の指導を受けること。

8. 修了の要件

本課程に原則として2年以上在学し、所定の単位（30単位以上、老人看護CNSコースにあっては36単位以上、がん看護CNSコースにあっては44単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することとする。

9. 学位授与

修士（看護学）

10. 長期履修制度と修業年限

修業年限は2年であるが、社会人学生の就学を支援するために、島根大学学則第29条に則り、長期履修制度を導入する。

申請により当該制度の利用許可を得た学生は、修業年限の2倍の年限まで修業することができる。

11. 入学金・授業料の免除及び徴収猶予制度

入学金については、経済的理由によって納付が困難であり、かつ学業優秀であると認められる者、あるいは、特別の事情（入学前1年以内に、入学する者の学資負担者が死亡、または、入学する者もしくは学資負担者が風水害等の被害を受けた場合等）により納付が困難であると認められる者に対して、その全額または半額が免除される制度及び徴収を猶予される制度がある。授業料については、全額または半額が免除される制度がある。

12. 奨学金制度

日本学生支援機構奨学金

学業成績、人物とも優れた学生で、経済的理由により修学困難な者には、選考のうえ奨学金が貸与される。（平成30年度貸与月額 第一種：無利子 50,000円または88,000円、第二種：有利子 50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円）

13. 学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険

教育研究活動中に万一事故等により、身体等に損害を被った場合あるいは他人に対する賠償責任が発生した場合に保険金を支払う制度である。財団法人日本国際教育支援協会が実施し、学生全員が加入する保険である。

14. 教育課程表:平成31年度入学者用

- (1) 看護援助学コース、看護管理学コース、地域・在宅看護学コース、母子看護学コース、がん・成人看護学コース、高齢者看護学コース

授業科目		開講 年次	単位数		摘 要
			講義	演習	
専門必修 科目	看護援助学特論	1	2		看護援助学コース必修
	看護援助学演習	1		2	
	看護管理学特論	1	2		看護管理学コース必修
	看護管理学演習	1		2	
	地域・在宅看護学特論	1	2		地域・在宅看護学コース必修
	地域・在宅看護学演習	1		2	
	母子看護学特論	1	2		母子看護学コース必修
	母子看護学演習	1		2	
	がん・成人看護学特論	1	2		がん・成人看護学 コース必修
	がん・成人看護学演習	1		2	
高齢者看護学特論	1	2		高齢者看護学コース	
高齢者看護学演習	1		2		
	看護学特別研究	2		8	全コース必修
専門選択 科目	リスクマネジメント論	1・2	2		
	看護人材育成論	1・2	2		
	看護情報管理論	1・2	2		
	保健医療福祉政策論	1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2	2		
	高齢者看護実践論	1・2	2		
	認知症看護論	1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論	1・2	2		
	がん看護病態生理治療学	1・2	2		
	がん看護学援助論	1・2	2		
	がん薬物療法看護論	1・2	2		
	緩和ケア論	1・2	2		
	フィジカルアセスメント	1・2	2		
	病態生理学	1・2	2		
臨床薬理学	1・2	2			
基盤科目	家族看護援助論	1・2	2		
	看護理論	1・2	2		
	看護倫理	1・2	2		
	コンサルテーション論	1・2	2		
	看護研究方法演習	1・2		2	
大学院 選択科目	★研究と倫理	1・2	1		大学院共通科目
	★学際プレゼンテーション入門	1・2	1		
	★研究とキャリアデザイン	1・2	1		
	★大学院連携科目(別に定める)	1・2			
(備考)					
基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位の計 12 単位、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。					

(2) がん看護CNSコース

授業科目	必修	選択	開講年次	単位数			摘 要
				講義	演習	実習	
専門必修科目	看護援助学特論		1	2			
	看護管理学特論		1	2			
	地域・在宅看護学特論		1	2			
	母子看護学特論		1	2			
	高齢者看護学特論		1	2			
	がん看護学特論	○		1	2		
	がん看護学演習	○		1		2	
	がん薬物療法看護援助論	○		1・2	2		
	緩和ケア演習	○		1		2	
	がん看護学実習Ⅰ	○		1			2
	がん看護学実習Ⅱ	○		1			2
	がん看護学実習Ⅲ	○		2			2
	がん看護学実習Ⅳ	○		2			2
	がん看護学実習Ⅴ	○		2			2
看護学課題研究	○				4		
専門選択科目	リスクマネジメント論		1・2	2			
	看護人材育成論		1・2	2			
	看護情報管理論		1・2	2			
	保健医療福祉政策論		1・2	2			
	母子フィジカルアセスメント方法論		1・2	2			
	重症者フィジカルアセスメント方法論		1・2	2			
	高齢者看護実践論		1・2	2			
	認知症看護論		1・2	2			
	高齢者在宅ケアシステム論		1・2	2			
	がん看護病態生理治療学	○		1・2	2		
	がん看護学援助論	○		1・2	2		
	がん薬物療法看護論	○		1・2	2		
	緩和ケア論	○		1・2	2		
	フィジカルアセスメント	○		1・2	2		
	病態生理学	○		1・2	2		
臨床薬理学	○		1・2	2			
基盤科目	家族看護援助論		1・2	2			
	看護理論		1・2	2			
	看護倫理	○	1・2	2			
	コンサルテーション論	○	1・2	2			
	看護研究方法演習	○	1・2		2		
大学院 選択科目	*研究と倫理		1・2	1			大学院 共通科目
	*学際プレゼンテーション入門		1・2	1			
	*研究とキャリアデザイン		1・2	1			
	*大学院連携科目(別に定める)		1・2				
(備考) 必修科目36単位及び選択必修科目8単位以上、合計44単位以上を修得しなければならない。							

(3) 老人看護CNSコース

授業科目		必修	選択	開講年次	単位数			摘要
					講義	演習	実習	
専門必修科目	看護援助学特論			1	2			
	看護管理学特論		○	1	2			
	地域・在宅看護学特論			1	2			
	母子看護学特論			1	2			
	がん看護学特論			1	2			
	高齢者看護学特論	○		1	2			
	高齢者看護学演習	○		1	2	2		
	高齢者看護援助論	○		1	2			
	高齢者看護学実習	○		1・2			6	
看護学課題研究	○		2		4			
専門選択科目	リスクマネジメント論			1・2	2			
	看護人材育成論		○	1・2	2			
	看護情報管理論			1・2	2			
	保健医療福祉政策論	○		1・2	2			
	母子フィジカルアセスメント方法論			1・2	2			
	重症者フィジカルアセスメント方法論	○		1・2	2			
	高齢者看護実践論	○		1・2	2			
	認知症看護論	○		1・2	2			
	高齢者在宅ケアシステム論	○		1・2	2			
	がん看護病態生理学			1・2	2			
	がん看護学援助論			1・2	2			
	がん薬物療法看護論			1・2	2			
	緩和ケア論			1・2	2			
	フィジカルアセスメント			1・2	2			
	病態生理学			1・2	2			
臨床薬理学			1・2	2				
基盤科目	家族看護援助論	○		1・2	2			
	看護理論		○	1・2	2			
	看護倫理		○	1・2	2			
	コンサルテーション論		○	1・2	2			
	看護研究方法演習		○	1・2	2	2		
大学院 選択科目	★研究と倫理			1・2	1			
	★学際プレゼンテーション入門			1・2	1			
	★研究とキャリアデザイン			1・2	1			
	大学院連携科目(別に定める)			1・2				
(備考) 必修科目28単位及び選択必修科目8単位以上、合計36単位以上を修得しなければならない。								

《CNS 認定科目との対比表》

専門看護師認定に必要な共通科目

CNS 共通科目	本大学院該当科目	履修単位	CNS 認定単位
看護教育論	看護人材育成論	2	2
看護管理論	看護管理学特論	2	2
看護理論	看護理論	2	2
看護研究	看護研究方法演習	2	2
コンサルテーション論	コンサルテーション論	2	2
看護倫理	看護倫理	2	2
看護政策論			

専門看護師認定に必要な専門科目【老年看護】

	CNS 科目	本大学院該当科目	履修単位	CNS 認定単位
専攻分野 共通科目	1. 老年健康生活評価に関する科目	高齢者看護学特論	2	2
		重症者フィジカルアセスメント方法論	2	1
	2. 老年と家族の看護に関する科目	高齢者看護実践論	2	1
		家族看護援助論	2	1
3. 老年サポートシステムに関する科目	高齢者在宅ケアシステム論	2	2	
4. 老年保健福祉政策に関する科目	保健医療福祉政策論	2	1	
専攻分野 専門科目	1. 病院・施設における老年看護に関する科目	高齢者看護援助論	2	2
	2. 認知症老年看護に関する科目	認知症看護論	2	2
実習科目	実習	高齢者看護学実習	6	6

15. 教育課程表:平成30年度入学者用

(1)看護援助学コース、看護管理学コース、地域・在宅看護学コース、母子看護学コース、成人(急性・慢性)看護学コース、高齢者看護学コース

授業科目	開講年次	単位数			摘 要
		講義	演習	実習	
専門必修科目	看護援助学特論	1	2		看護援助学コース必修
	看護援助学演習	1		2	
	看護管理学特論	1	2		看護管理学コース必修
	看護管理学演習	1		2	
	地域・在宅看護学特論	1	2		地域・在宅看護学コース必修
	地域・在宅看護学演習	1		2	
	母子看護学特論	1	2		母子看護学コース必修
	母子看護学演習	1		2	
	成人(急性・慢性)看護学特論	1	2		成人(急性・慢性)看護学コース必修
成人(急性・慢性)看護学演習	1		2		
高齢者看護学特論	1	2		高齢者看護学コース	
高齢者看護学演習	1		2		
看護学特別研究	2		8		全コース必修
専門選択科目	リスクマネジメント論	1・2	2		
	看護人材育成論	1・2	2		
	看護情報管理論	1・2	2		
	保健医療福祉政策論	1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2	2		
	臨床薬理・薬剤学	1・2	2		
	高齢者看護実践論	1・2	2		
	高齢者看護援助論	1・2	2		
	認知症看護論	1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論	1・2	2		
基盤科目	家族看護援助論	1・2	2		
	看護理論	1・2	2		
	看護倫理	1・2	2		
	コンサルテーション論	1・2	2		
	看護研究方法演習	1・2		2	
大学院選択科目	研究と倫理	1・2	1		大学院共通科目
	学際プレゼンテーション入門	1・2	1		
	研究力とキャリアデザイン	1・2	1		
	大学院連携科目 http://www.shimane-u.ac.jp/education/school_info/master_collabo_courses/	1・2			
(備考)					
基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位(CNS コースは課題研究4単位)、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。					

(2) 老人看護CNSコース

授業科目		必修	選択必修	開講年次	単位数		
					講義	演習	実習
専門必修科目	看護援助学特論				2		
	看護援助学演習					2	
	看護管理学特論		○		2		
	看護管理学演習					2	
	地域・在宅看護学特論				2		
	地域・在宅看護学演習					2	
	母子看護学特論				2		
	母子看護学演習					2	
	成人(急性・慢性)看護学特論				2		
	成人(急性・慢性)看護学演習					2	
	高齢者看護学特論	○			2		
高齢者看護学演習	○				2		
高齢者看護学実習	○		1・2			6	
看護学課題研究	○				4		
専門選択科目	リスクマネジメント論			1・2	2		
	看護人材育成論		○	1・2	2		
	看護情報管理論			1・2	2		
	保健医療福祉政策論	○		1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論			1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論	○		1・2	2		
	臨床薬理・薬剤学			1・2	2		
	高齢者看護実践論	○		1・2	2		
	高齢者看護援助論	○		1・2	2		
	認知症看護論	○		1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論	○		1・2	2		
基盤科目	家族看護援助論	○		1・2	2		
	看護理論		○	1・2	2		
	看護倫理		○	1・2	2		
	コンサルテーション論		○	1・2	2		
	看護研究方法演習		○	1・2		2	
大学院 選択科目	研究と倫理			1・2	1		
	学際プレゼンテーション入門			1・2	1		
	研究力とキャリアデザイン			1・2	1		
	大学院連携科目 http://www.shimane-u.ac.jp/education/school_info/master_collabo_courses/			1・2			
(備考) 必修科目28単位及び選択必修科目8単位以上、合計36単位以上を修得しなければならない。							

16. 教育課程表:平成28・29年度入学者用

(1)看護援助学コース、看護管理学コース、地域・在宅看護学コース、母子看護学コース、成人（急性・慢性）看護学コース、高齢者看護学コース

授業科目	開講年次	単位数			摘 要
		講義	演習	実習	
専門必修科目	看護援助学特論	1	2		看護援助学コース必修
	看護援助学演習	1		2	
	看護管理学特論	1	2		看護管理学コース必修
	看護管理学演習	1		2	
	地域・在宅看護学特論	1	2		地域・在宅看護学コース必修
	地域・在宅看護学演習	1		2	
	母子看護学特論	1	2		母子看護学コース必修
	母子看護学演習	1		2	
	成人(急性・慢性)看護学特論	1	2		成人(急性・慢性)看護学コース必修
成人(急性・慢性)看護学演習	1		2		
高齢者看護学特論	1	2		高齢者看護学コース	
高齢者看護学演習	1		2		
看護学特別研究	2		8		全コース必修
専門選択科目	リスクマネジメント論	1・2	2		
	看護人材育成論	1・2	2		
	看護情報管理論	1・2	2		
	保健医療福祉政策論	1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2	2		
	臨床薬理・薬剤学	1・2	2		
	高齢者看護実践論	1・2	2		
	高齢者看護援助論	1・2	2		
	認知症看護論	1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論	1・2	2		
基盤科目	家族看護援助論	1・2	2		
	看護理論	1・2	2		
	看護倫理	1・2	2		
	コンサルテーション論	1・2	2		
	看護研究方法演習	1・2		2	
大学院 選択科目	*研究と倫理	1・2	1		大学院共通科目
	*学際プレゼンテーション入門	1・2	1		
	*研究力とキャリアデザイン	1・2	1		
	*大学院連携科目 http://www.shimane-u.ac.jp/education/school_info/master_collabo_courses/	1・2			
(備考)					
基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位(CNS コースは課題研究4単位)、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。					

(2) 老人看護CNSコース

授業科目		必修	選択 必修	開講 年次	単位数		
					講義	演習	実習
専門必修 科目	看護援助学特論				2		
	看護援助学演習					2	
	看護管理学特論		○		2		
	看護管理学演習					2	
	地域・在宅看護学特論				2		
	地域・在宅看護学演習					2	
	母子看護学特論				2		
	母子看護学演習					2	
	成人(急性・慢性)看護学特論				2		
	成人(急性・慢性)看護学演習					2	
	高齢者看護学特論	○			2		
高齢者看護学演習	○				2		
高齢者看護学実習	○		1・2			6	
看護学課題研究	○				4		
専門選択 科目	リスクマネジメント論			1・2	2		
	看護人材育成論		○	1・2	2		
	看護情報管理論			1・2	2		
	保健医療福祉政策論	○		1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論			1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論	○		1・2	2		
	臨床薬理・薬剤学			1・2	2		
	高齢者看護実践論	○		1・2	2		
	高齢者看護援助論	○		1・2	2		
	認知症看護論	○		1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論	○		1・2	2		
基盤科目	家族看護援助論	○		1・2	2		
	看護理論		○	1・2	2		
	看護倫理		○	1・2	2		
	コンサルテーション論		○	1・2	2		
	看護研究方法演習		○	1・2		2	
大学院 選択科目	*研究と倫理			1・2	1		
	*学際プレゼンテーション入門			1・2	1		
	*研究力とキャリアデザイン			1・2	1		
	*大学院連携科目 http://www.shimane-u.ac.jp/education/school_info/master_collabo_courses/			1・2			
(備考) 必修科目28単位及び選択必修科目8単位以上、合計36単位以上を修得しなければならない。							

附則

- この規則は、平成30年4月1日から施行する。
- 平成29年度以前の入学者(当該入学者と同学年に転入学、再入学する者を含む。)の履修については、この規則による改正後の島根大学大学院医学系研究科規則別表第1、別表第3及び別表第4の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 前項の規定によりなお従前の例によることとされる平成29年度以前に入学した者に係る授業科目には、改正後の島根大学大学院医学系研究科規則別表第3及び別表第4に規定する*印を付した授業科目を加えることができる。
- 前項の規定に基づき履修した別表第3及び別表第4の授業科目について修得した単位は、島根大学大学院医学系研究科規則第11条第1項に規定する単位としては認定しないものとする。

17. 平成31年度:大学院授業科目担当者一覧

区分	授業科目	担当教員 ○: 責任者
看護援助学コース 専門必修科目	看護援助学特論	○福間・草刈 (嘱託)
	看護援助学演習	○福間・宮本
看護管理学コース 専門必修科目	看護管理学特論	○津本・内田・草刈 (嘱託)
	看護管理学演習	○津本・内田
地域・在宅看護学コース 専門必修科目	地域・在宅看護学特論	○小笹・岡本 (嘱託)・神田
	地域・在宅看護学演習	○小笹・榊原
母子看護学コース 専門必修科目	母子看護学特論	○福田・秋鹿・橋本(美)
	母子看護学演習	○福田・秋鹿・橋本(美)・松浦
がん・成人看護学コース 専門必修科目	がん看護学特論	○若崎・宮下 (嘱託)
	がん看護学演習	○若崎・橋本(龍)
高齢者看護学コース 専門必修科目	高齢者看護学特論	○原
	高齢者看護学演習	○原・加藤・竹田
がん看護 CNS コース 専門必修科目	がん薬物療法看護援助論	○若崎・宮下 (嘱託)・坂井 (嘱託)・札埜 (嘱託)
	緩和ケア演習	○若崎・他 8 名 (学内 3 名、学外 5 名)
	がん看護学実習 I	○若崎・他 6 名 (学内 2 名、学外 4 名)
	がん看護学実習 II	○福田・他 7 名 (学内 4 名、学外 3 名)
	がん看護学実習 III	○秋鹿・他 6 名 (学内 2 名、学外 4 名)
	がん看護学実習 IV	○秋鹿・他 6 名 (学内 2 名、学外 4 名)
	がん看護学実習 V	○若崎・他 6 名 (学内 2 名、学外 4 名)
老人看護 CNS コース 専門必修科目	看護学課題研究	○若崎
	高齢者看護援助論	○原・加藤・吉岡 (嘱託)・塩川 (嘱託)
	高齢者看護学実習	○原・加藤
専門選択科目	看護学課題研究	○原・加藤
	リスクマネジメント論	○宮本・内田・川上
	看護人材育成論	○津本・任 (嘱託)
	看護情報管理論	○津本・石垣 (嘱託)
	保健医療福祉政策論	○小笹・他 4 名 (学内 1 名、学外 3 名)
	母子フィジカルアセスメント方法論	○福田・秋鹿・橋本(美)・松浦
	重症者フィジカルアセスメント方法論	○橋本
	高齢者看護実践論	○原・加藤・泉 (嘱託)
	認知症看護論	○原・浦上(嘱託)・吉岡(嘱託)
	高齢者在宅ケアシステム論	○原・谷垣(嘱託)・高山(嘱託)・三輪(嘱託)・竹田
	がん看護病態生理治療学	○福田・他 10 名 (学内)
	がん看護学援助論	○秋鹿・他 6 名 (学内 3 名、学外 3 名)
	がん薬物療法看護論	○若崎・他 4 名 (学内 1 名、学外 3 名)
	緩和ケア論	○秋鹿・他 5 名 (学内 1 名、学外 4 名)
	フィジカルアセスメント	○田邊・他 9 名 (学内)
	病態生理学	○紫藤・他 9 名 (学内)
	臨床薬理学	○和田・他 4 名 (学内)
基盤科目	家族看護援助論	○若崎・鈴木 (嘱託)
	看護理論	○福間・津本
	看護倫理	○加藤・内田・瀧尻・榊原・清水 (嘱託)
	コンサルテーション論	○福間・宇佐美(嘱託)・長田(嘱託)・鶴屋(嘱託)
	看護研究方法演習	○津本・内田・橋本(龍)・小笹・福間・秋鹿・加藤・宮本
看護学特別研究	(主指導教員) 内田・津本・福田・若崎・橋本・小笹・原・福間 (副指導教員) 秋鹿・加藤・宮本	

科目解説

看護援助学特論

単位数：2単位

○福間 美紀：基礎看護学講座准教授

草刈 淳子：元愛知県立看護大学学長

1. 科目の教育方針

現代および将来を見据えたヘルスケアシステムや質の高い看護援助を提供するために、看護援助に関連する概念や理論を学び、看護実践や看護技術など看護援助学の視点で実践・教育・研究をする上での課題を探求します。特に関連する概念や理論を活用して、実践の場で展開される看護援助について批判的に分析し、解決していくための基礎的知識、研究方法について学びます。

2. 教育目標

- 1) 看護の歴史と背景の中での看護援助の変遷を理解することができる。
- 2) 変化するヘルスケアシステムに対応し、質の高い看護援助を提供するための概念や理念に関する見識を深める。
- 3) 看護援助に関する諸理論を活用して、看護実践・教育・研究の場における諸現象を看護援助の視点で批判的に分析することができる。
- 4) 看護援助に関する問題に対して、原因を分析し、具体的かつ効果的な解決策を計画・実行・評価する試みを通して、看護援助の問題解決過程の方法を習得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 使用テキストを熟読し、自ら文献検討を行い、問題意識を持って授業に臨む。
- 2) 文献を批判的に考察しつつ購読し、プレゼンテーションとディスカッションにより、看護援助の課題を探求する。
- 3) 看護援助における発生型問題に焦点を当て、理論や概念を手掛かりとして問題を分析し、解決するための戦略を検討する。

【評価】

担当した単元のレジメ・発表およびプレゼンテーション、レポートの等により総合的に評価する。

まとめ課題レポート 〆切 7/30

・看護実践における問題解決過程の展開と評価

⇒実践を評価し、次の課題を明確化し、実践を方向付ける

4. 使用テキスト

- 1) 塚本明子/ゲーリー・ロルフ：看護実践のアポリア D・ショーン〈省察的実践論〉の挑戦。ゆみる出版、2017
〈参考文献等〉
 - 1) 柳沢昌一他監訳/ドナルド・A・ショーン：省察的実践とは何か プロフェッショナルの行為と思考。鳳書房、2007
 - 2) 柳沢昌一：「省察的実践者の教育」を読み解く 看護教育、58(12)、978-988、2017
 - 3) 三輪建二他：看護専門職の生涯学習-省察的実践者をめざして 千葉看護学会誌、10(2)、83-85、2004

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/16	看護援助学に関する理論と概念 ・ケア、ケアリング、看護技術と看護ケア	福間
2	4/23	看護実践行為 ・理論と実践を統合する ・省察的実践 ・再帰的実践 ・行為内省察 ・看護実践行為	福間
3	5/7	看護実践能力とその評価 ・人々・状況を理解する力 ・人中心のケアを実践する力 ・看護の質を改善する力	福間
4	5/10	Ⅲ. 看護専門職と看護管理の歴史的考察 ・専門職とは何か ・近代看護と看護専門職	草刈
5	5/11(土)	・戦後日本の看護行政の歩みと次代への展望	草刈
6		Ⅳ. 看護管理プロセスと問題解決の技法 ・看護管理の視点 ・看護管理における「問題」の捉え方	
7	6/11	Ⅳ. 看護管理プロセスと問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法（統合演習）	福間
8	6/18	Ⅳ. 看護管理プロセスと問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法（統合演習）	福間
9	6/25	技術的熟練	福間
10	7/2	学的対話 ・看護認識論における実践への転換	福間
11	7/9	省察的教育とは	福間
12	7/17	人間科学としての看護の構築	福間
13	日程は後日 調整	看護援助学に関する研究のクリティーク	福間
14	日程は後日 調整	看護援助学に関する研究のクリティーク	福間
15	日程は後日 調整	看護援助学に関する研究のクリティーク	福間

参考図書：看護管理特論の参考図書を参照

看護援助学演習

単位数：2単位

○福間 美紀：基礎看護学講座 准教授
宮本まゆみ：基礎看護学講座 講師

1. 科目の教育方針

看護援助における活動を理論的かつ実践的に進めていくために必要な知識・技術の修得を目指します。そのための基本となる、主体的研究態度と研究手法を身につける。

2. 教育目標

- 1) 看護援助学領域における課題を多面的に捉える。
- 2) 事故の関心領域の研究の現状と課題を的確に捉え、自らが取り組むべきオリジナルな研究テーマを見出せる。
- 3) 看護援助に関する課題に研究的視点で取り組み、問題解決のための研究的アプローチを修得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) プレゼンテーションとディスカッションを基本的な学習スタイルとする。
- 2) 修士論文のテーマに関連した分野を中心に検討し、研究の取り組みと連動させて学習を深める。
 - (1) 研究倫理審査の申請に向けて研究計画を立案する。
 - (2) 1月の論文提出に向けて、年内に基本的な準備を終えることを目標とする。

【評価】

レジメ・発表およびプレゼンテーション、レポート等により総合的に評価する。

4. 参考文献等(その他、授業の中で随時紹介する)

- 1) 大木秀一：看護研究・看護実践の質を高める文献レビューの基本. 医歯薬出版株式会社, 2014
- 2) 黒田裕子：黒田裕子の看護研究 Step by Step. 医学書院, 2017

5. 教育内容

火曜 (18:00~21:00)

回	月/日	内 容	講師
1・2	7/30	I. 研究動機の明確化：文献検討の方向付け	福岡・宮本
3・4	9/24	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	福岡・宮本
5・6	10/1	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	福岡・宮本
7・8	10/8	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：2年生の研究成果中間報告会に参加し研究プロセスをイメージする。	福岡・宮本
9・10	10/15	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	福岡・宮本
11・12	10/29	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	福岡・宮本
13・14	11/5	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	福岡・宮本
15・16	11/12	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	福岡・宮本
17・18	11/19	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	福岡・宮本
19・20	11/26	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	福岡・宮本
21・22	12/3	III. 文献検討のまとめと研究テーマの明確化 ：研究の文献的背景について整理した結果を発表 ⇒修士論文として取り組む研究テーマの明確化 ⇒研究の目的・意義の明確化 ⇒研究デザイン・研究方法の決定	福岡・宮本
23・24	12/10	IV. 研究計画書の作成と検討 ：調査内容・分析方法の明確化と妥当性の検討	福岡・宮本
25・26	1/7	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究背景、目的、意義、方法の明文化	福岡・宮本
27・28	1/21	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究計画書全体の提示、プレテスト等の実施	福岡・宮本
29・30	2/4	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究計画最終点検、看護研究倫理委員会申請の準備	福岡・宮本
		※2年生の修士論文発表会(2月上旬)に参加 ：研究プロセスと修士論文作成のイメージ化を図る。 ※研究計画の中間発表会(3月上旬) ⇒看護研究倫理委員会に申請(2/20or3/20 締切)	

看護管理学特論

単位数：2単位

内田宏美：基礎看護学講座教授

津本優子：基礎看護学講座教授

草刈淳子：元愛知県立看護大学学長

1. 科目の教育方針

看護専門職には、社会のヘルスニーズに対して看護の仕事の仕組みを自ら変革し、創造していく能力、保健医療福祉等の関連サービスに携わる人々と連携・協働して活動する実践能力が求められる。質の高い看護を実現するためには、組織やチームの中でメンバーを巻き込んでそれを具現化していくためのマネジメントの機能が働かなければならない。組織やチームの看護活動をマネジメントする能力は、看護管理者のみならず、CNS や大学院修了者などの高度看護実践者に必要不可欠な能力として期待されている。

看護管理における課題の解決にあたっては、保健医療そのものの知識のみならず、心理学、教育学、社会学、経営学などの多岐にわたる学問領域の知見と成果を活用することが求められる。看護に関連する保健医療システムの現状と問題点の特性を理解した上で、関連する諸理論の枠組みを活用して看護管理上の問題を批判的に分析し、関係する組織・チームの調整・協働のもと解決していくための基礎的能力の修得を育成する。

2. 教育目標

- 1) 看護管理学の歴史と背景を理解し、今日の保健医療福祉システムの中での看護管理の位置づけと課題を展望できる。
- 2) 組織管理に関する諸理論を活用して、看護実践・教育・研究の場における諸現象を看護管理の視点で批判的に分析することができる。
- 3) 看護マネジメントに関する現実的な問題に対して、原因を分析し、関係する組織・チームの調整・協働を基盤とした具体的かつ効果的な解決策を計画・実行・評価する試みを通して、看護管理の問題解決過程の方法を習得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 基本テキストを熟読し、自ら文献検討を行い、問題意識を持って授業に臨む。
- 2) 組織論・リーダーシップ論・変革理論に関する文献を批判的に考察しつつ講読し、プレゼンテーションとディスカッションにより、看護管理の課題を深く探求する。
- 3) 看護管理における発生型問題に焦点を当て、原因を分析し、戦略的解決策を検討する。

【評価】レジュメ、発表、レポートの緻密さ・的確さ・論理性等により総合的に判断する。

4. テキスト

《講読テキスト》

1) 大串正樹『ナレッジマネジメント 創造的な看護管理のための12章』医学書院、2007
《基本・参考テキスト》…(貸し出し可)

- 1) 井部俊子・中西睦子監修『看護管理学習テキスト①-⑦』日本看護協会出版会
- 2) 内野崇『変革のマネジメント』生産性出版、2006
- 3) オーラ・リー・ストリックランド他：看護アウトカムの測定、エルゼビア・ジャパン、2006
- 4) 川島みどり・草刈淳子他監修：日本の看護のあゆみ 歴史をつくるあなたへ、日本看護協会出版、2008
- 5) 日野原重明：チーム医療における看護師の新しい役割（井村裕夫編著『医と人間』岩波新

書、2015) p161-171

6) 小林未希著：ルポ 看護の質、岩波新書、2016

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	/	看護管理学概説 ・看護管理（学）の概念、射程、目的と方法	内田
2	/	I. 看護サービス・マネジメント論 ・看護サービスという考え方 ・看護サービス提供プロセス	内田
3	/	I. 看護サービス・マネジメント論 ・看護サービスの標準化と看護の質保証、プロセス・アウトカム評価	内田
4	/	II. 看護組織論 ・集団と組織 ・組織論の系譜（官僚制の特徴と逆機能・近代組織論・ネットワーク）	内田
5	/	II. 看護組織論 ・医療組織の特徴、専門職支配と権威勾配	内田
6	/	II. 看護組織論 ・効果的な看護マネジメントのための関係する組織・チームの組織化、協働とチーム・マネジメント	内田
7	/	III. 看護管理者論 ・リーダーシップとは何か ・リーダーシップ論の系譜	内田
8	/	III. 看護管理者論 ・変革理論と組織変革 ・組織文化の変革とリーダーシップ	内田
9	/	III. 看護管理者論 ・学習する組織を生み出す看護管理者のリーダーシップ	内田
10	/	IV. 看護専門職と看護管理の歴史的考察 ・専門職とは何か ・近代看護と看護専門職	草刈
11	/	・戦後日本の看護行政の歩みと次代への展望	草刈
12	/	V. 看護管理プロセスと問題解決の技法 ・看護管理の視点 ・看護管理における「問題」の捉え方	草刈
13	/	V. 看護管理プロセスと問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法（演習）	津本
14	/	V. 看護管理プロセスと問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法（演習）	津本
15	/	V. 看護管理プロセスと問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法（演習）	津本
		まとめ課題レポート 〆切 ○月○日 ・看護管理における問題解決過程の展開と評価 ⇒実践を評価し、次の課題を明確化し、実践を方向付ける	津本

看護管理学演習

単位数：2単位

○津本 優子：基礎看護学講座教授

内田 宏美：基礎看護学講座教授

1. 科目の教育方針

看護管理における活動を、理論的且つ実践的に進めていくために必要な知識・技術の修得を目指す。そのための基本となる、主体的研究態度と研究手法を身につける。

2. 教育目標

- 1) 看護管理学領域における課題を多面的に捉える。
- 2) 自己の関心領域の研究の現状と課題を的確にとらえ、自らが取り組むべきオリジナルな研究テーマを見出せる。
- 3) 看護管理に関する課題に研究的視点で取り組み、問題解決のための研究的アプローチの手法を修得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) プレゼンテーションとディスカッションを基本的な学習スタイルとする。
- 2) 修士論文のテーマに関連した分野を中心に検討し、研究の取り組みと連動させて学習を深める。
(1) 研究倫理審査の申請に向けて研究デザインをまとめる。
(2) 1月の論文提出に向けて、年内に基本的な準備を終えることを目標とする。

【評価】

レジュメ、プレゼンテーションの緻密さ、的確さ、論理性、参加度等によりに総合的に判断する。

4. 参考文献(その他、授業の中で随時紹介する)

- 1) 井部俊子・中西睦子監修：看護管理学習テキスト ⑧看護管理学研究
- 2) 同 ⑨看護管理学研究資料
- 3) APA・江藤裕之他訳：APA論文作成マニュアル、医学書院、2004

5. 教育内容

火曜 (18:30~21:30)

回	月/日	内 容	講師
1・2	<u>7/30</u>	I. 研究動機の明確化：文献検討の方向付け ※研究動機についてレジュメ作成の上参加のこと	津本・内田
3・4	9/24	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田
5・6	10/1	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田
7・8	10/8	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：2年生の研究成果中間報告会に参加し研究プロセスをイメージする。	津本・内田
9・10	10/15	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田
11・12	10/29	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田
13・14	11/5	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田
15・16	11/12	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田
17・18	11/19	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田
19・20	11/26	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田
21・22	12/3	III. 文献検討のまとめと研究テーマの明確化 ：研究の文献的背景について整理した結果を発表 ⇒修士論文として取り組む研究テーマの明確化 ⇒研究の目的・意義の明確化 ⇒研究デザイン・研究方法の決定	津本・内田
23・24	12/10	IV. 研究計画書の作成と検討 ：調査内容・分析方法の明確化と妥当性の検討	津本・内田
25・26	1/7	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究背景、目的、意義、方法の明文化	津本・内田
27・28	1/21	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究計画書全体の提示、プレテスト等の実施	津本・内田
29・30	2/4	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究計画最終点検、看護研究倫理委員会申請の準備	津本・内田
		※2年生の修士論文発表会(2月上旬)に参加 ：研究プロセスと修士論文作成のイメージ化を図る。 ※研究計画の中間発表会(3月上旬) ⇒看護研究倫理委員会に申請(2/20or3/20 締切)	

地域・在宅看護学特論

単位数：2単位

○小笹美子：地域・老年看護学講座 教授

岡本玲子：大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 教授

神田秀幸：島根大学医学科環境保健医学講座 教授

1. 科目の教育方針

地域で暮らす人々の生活を支えるために地域看護の歴史の変遷や地域看護の理論を学び、地域で生活する個人、家族、集団、組織の健康課題を理解する。特に、生活弱者、健康弱者の健康課題とその支援方法について事例を通して学ぶ。これらを踏まえ、地域看護の実践に必要な基礎的知識、研究方法について学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 地域看護に関する基本的概念や理論について理解する。
- 2) 地域看護が展開されるさまざまな場における地域保健活動も視野において、地域で生活する人々の健康づくりと保健行動を支援するための知識・技術を習得する。
- 3) 個人家族、集団、組織の健康レベル向上の課題を理解し、効果的な看護支援方法を学ぶ。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【進め方】

講義、学生によるプレゼンテーションと討議を中心に授業を進める。
受け身ではなく積極的に学ぶこと。

【評価】

授業への出席、レポート、討議への参加から総合的に評価を行う。

4. 使用テキスト、参考文献等

- ・松村真司、臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト③ 概念モデルをつくる、特定非営利活動法人健康医療評価研究機構

5. 教育内容

回	月 日	内 容	講師
1	4月9日	社会的健康課題と地域看護学 (1) 公衆衛生	小笹
2	4月16日	社会的健康課題と地域看護学 (2) 個人・家族集、集団	小笹
3	4月23日	社会的健康課題と地域看護学 (3) 生活を支援	小笹
4	5月7日	地域看護の支援に用いる概念モデル (1) プライマリ・ヘルス・ケア	小笹
5	5月14日	地域看護の支援に用いる概念モデル (2) ヘルスプロモーション	小笹
6	5月21日	地域看護の支援に用いる概念モデル (3) 疫学	神田
7	5月28日	地域保健政策	小笹
8	6月4日	地域の活動事例 (1)	小笹
9	6月11日	地域の活動事例 (2)	小笹
10	6月18日	地域の活動事例 (3)	小笹
11	6月25日	地域の活動事例 (4)	小笹
12	7月2日	地域の活動事例 (5)	小笹
13	7月9日	地域の健康課題と看護活動	小笹
14・15	調整中	地域看護活動と研究	岡本

都合により日程を変更することがある。

地域・在宅看護学演習

単位数：2単位

○小笹美子：地域・老年看護学講座 教授
榊原 文：地域・老年看護学講座 講師

1. 科目の教育方針

地域看護学領域における関心のあるテーマについて、研究計画書作成までのプロセスを体験し、基本的な研究能力の獲得を目指す。

2. 教育目標

- 1) 地域看護学領域における国内外における研究の動向と最新の知見を理解できる。
- 2) 研究テーマに関連した文献レビューやクリティークを行い、研究テーマに関する課題を明確にできる。
- 3) 研究課題に基づき研究計画を作成することができる。
- 4) 研究を行うために不可欠な研究倫理を理解した上で研究を実施することができる。

3. 評価

【進め方】

学生の事前学習を踏まえたプレゼンテーションと討議を中心に授業を進める。受け身ではなく積極的に学ぶこと。

【評価】

授業への出席、レポート、討議への参加から総合的に評価を行う。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは特に指定せず、参考文献等を適宜紹介する。

参考図書：

テキストは特に指定せず、参考文献等を適宜紹介する。

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1・2	9月26日	地域看護領域における研究の意義と研究倫理	小笹
3・4	10月3日	研究の種類と研究計画書の作成	小笹
5・6	10月10日	地域領域における研究課題と研究テーマ	榊原 小笹
7・8	10月17日	地域看護領域における文献検索と文献研究 (1)	小笹 榊原
9・10	10月31日	地域看護領域における文献検索と文献研究 (2)	小笹 榊原
11・12	11月7日	地域看護領域におけるデータのまとめ方 (1)	小笹 榊原
13・14	11月14日	地域看護領域におけるデータのまとめ方 (2)	榊原 小笹
15・16	11月21日	地域看護領域におけるデータのまとめ方 (3)	小笹 榊原
17・18	12月5日	成果発表とプレゼンテーション (1)	小笹 榊原
19・20	12月12日	研究論文の作成 (1)	小笹 榊原
21・22	12月19日	研究論文の作成 (2)	小笹 榊原
23・24	1月9日	研究論文の作成 (3)	榊原 小笹
25・26	1月16日	成果発表とプレゼンテーション (2)	小笹 榊原
27・28	1月23日	研究結果の公表 (1)	小笹 榊原
29・30	1月30日	研究結果の公表 (2)	小笹 榊原

都合により日程を変更することがある。

母子看護学特論

単位数：2単位

- 福田 誠司：臨床看護学講座教授
- 秋鹿 都子：臨床看護学講座准教授
- 橋本 美幸：臨床看護学講座准教授

1. 科目の教育方針

ライフサイクルと生涯発達の視点に立って、母子関係および家族関係に関連する理論を学び、特に健康に問題を持つ小児と家族の特性、小児の健康問題に関する最新の知見や母子保健・福祉施策を通して母子および家族の健全な発達を支援する方策について学習する。

2. 教育目標

- 1) 青年期の性に対する意識と行動、妊娠中の胎児認知、母性意識の発達が妊娠・出産及びその後の母子の健康に与える影響について考察し、母子および家族の健全な関係発展に向けての看護介入の方法を学習する。
- 2) 小児とその家族を取り巻く現代の社会状況を多面的に理解するとともに、心理的側面からの理解を深め、健康に問題をもつ小児の成長・発達を支援していくために、諸理論を検討しながら、看護の果たす役割と援助方法について学習する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 講義および学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。
- 2) 母子および家族の健全な発達を支援する立場から方法論について議論を深める。

【評価】

講義への参加状況、プレゼンテーション内容、レポートにて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは使用しない。

- 1) ルヴァ・ルービン著：新道幸恵、後藤桂子訳 母性論 母性の主観的体験. 医学書院 1997
- 2) 上田礼子：生涯人間発達学. 改訂2版 三輪書店 2005
- 3) 堀内成子監修：助産師の意思決定. エルゼビア・ジャパン 2006
- 4) 武田鉄郎：腎疾患児の自己効力感と対処行動. 主観的健康統制感との関連 入院している中学部生徒を対象に 国立特殊教育総合研究所研究紀要 27 巻 1-9, 2000

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	日本における母子保健の現状	福田
2	母性論 1 (ルービンがとらえる母性の対象)	橋本、秋鹿
3	母性論 2 (妊婦の理解とその看護)	橋本、秋鹿
4	母性論 3 (褥婦の理解とその看護)	橋本、秋鹿
5	妊娠・出産期における女性への看護 (分娩の安全を確保するための取り組み)	橋本、秋鹿
6	育児期にある女性への看護 (産後のメンタルヘルス)	橋本、秋鹿
7	子どもの貧困とその背景	秋鹿
8	子どものこころのケアと育児支援	秋鹿、福田
9	小児医療における研究の動向	福田
10	小児医療における研究の動向	福田
11	母子の健康と環境	福田、秋鹿、
12	母子看護にみる看護の原点	福田、秋鹿、
13	アレルギーをもつ子どもと家族への看護	秋鹿
14	事例に基づく学習-1	福田、秋鹿、 橋本
15	事例に基づく学習-2	福田、秋鹿、 橋本

母子看護学演習

単位数：2単位

○福田 誠司：臨床看護学講座 教授
秋鹿 都子：臨床看護学講座 准教授
橋本 美幸：臨床看護学講座 准教授
松浦 志保：臨床看護学講座 講師

1. 科目の教育方針

母子看護領域における関心あるテーマについて、研究計画書作成、データ解析、論文作成、プレゼンテーションまでの研究プロセスを体験し、基本的な研究能力の獲得をめざす。

2. 教育目標

- 1) 母子看護領域における関心あるテーマに関する文献検討を行い、研究意義、背景、研究目的、研究方法等を検討し、倫理面を考慮した研究計画書の作成ができる。
- 2) 実際のデータを解析し、解釈することが出来る。
- 3) データをまとめ、論文としてまとめることが出来る。
- 4) データを人前で分かり易く発表することが出来る。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

国内外の文献、事例、研究の実例を参考とし、実際に自ら研究計画書の作成、論文作成、発表に取り組む。

【評価】

評価は演習への主体的参加状況等によって行う。

4. 参考文献等

テキストは使用しない。

- 1) The American Journal of Maternal Child Nursing
- 2) 及川郁子 監修，村田恵子編著：病いと共に生きる子どもの看護．メヂカルフレンド社 2000
- 3) 及川郁子 監修，田原幸子編著：予後不良な子どもの看護．メヂカルフレンド社 2000
- 4) 渡辺裕子：看取りにおける家族ケア．医学書院 2005
- 5) 才木クレイク・ヒル滋子著：闘いの軌跡 小児がんによる子どもの喪失と母親の成長．島書店 1999

5. 教育内容

回	内 容	講師
1・2	母子看護領域における問題意識、研究テーマについて	福田、秋鹿、橋本、松浦
3・4	母子看護領域において関心あるテーマに関する文献検討（1）	福田、秋鹿、橋本、松浦
5・6	母子看護領域において関心あるテーマに関する文献検討（2）	福田、秋鹿、橋本、松浦
7・8	母子看護領域において関心あるテーマに関する文献検討（3）	福田、秋鹿、橋本、松浦
9・10	母子看護領域において関心あるテーマに関する研究方法の検討（1）	福田、秋鹿、橋本、松浦
11・12	母子看護領域において関心あるテーマに関する研究方法の検討（2）	福田、秋鹿、橋本、松浦
13・14	研究における倫理的配慮	福田、秋鹿、橋本、松浦
15・16	研究計画書の作成（1）	福田、秋鹿、橋本、松浦
17・18	研究計画書の作成（2）	福田、秋鹿、橋本、松浦
19・20	研究計画書の作成（3）	福田、秋鹿、橋本、松浦
21・22	プレゼンテーションの準備（1）	福田、秋鹿、橋本、松浦
23・24	プレゼンテーションの準備（2）	福田、秋鹿、橋本、松浦
25・26	プレゼンテーションの準備（3）	福田、秋鹿、橋本、松浦
27・28	論文作成（4）	福田、秋鹿、橋本、松浦
29・30	論文作成（5）	福田、秋鹿、橋本、松浦

がん看護学特論

単位数：2単位

時間数：30時間

開講年次及び学期：1年次前期

○若崎淳子 臨床看護学講座 教授
宮下美香 広島大学大学院医歯薬保健学研究科看護開発科学
講座/老年・がん看護開発学 教授

1. 科目の教育方針

がんとともに生きる人々とその家族の体験を理解し、全人的ながん看護を実践するための基盤となる理論や概念を学習する。また、がん看護実践領域における諸現象を理論や既存の研究成果と対照しながら考察を深める。そして、それらを活用し、治療・療養過程にあるがん患者とその家族が抱える身体的・心理社会的諸問題を理解し、生活の質を高める専門的な看護援助のあり方を探求する。がん看護専門看護師の活動を理解すると共に、がん患者を理解し援助するための看護の諸理論を看護実践に適用し、説明できる思考能力の育成を目指す。

2. 教育目標

- 1) がんとともに生きる人々とその家族の体験を理解し、全人的ながん看護を実践するための基盤となる理論や概念を理解する。
- 2) がんとともに生きる人々とその家族に対して専門的看護を実践するうえで基盤となる主要な概念・理論を踏まえ、実践への適用について探求する。
- 3) がん看護実践領域における諸現象を理論や既存の研究成果と対照しながら考察を深め、治療過程に在るがん患者とその家族が抱える身体的・心理社会的諸問題を理解する。
- 4) がん患者とその家族が抱える全人的苦痛や諸問題に対して包括的な支援を提供できるよう、患者とその家族の QOL の維持向上を目指したエビデンスに基づく専門的な看護援助について探求する。
- 5) がん看護専門看護師の歴史や活動、果たす役割を理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- ・高度ながん看護実践に活用できる理論的知識を習得するとともに、看護実践の場を論理的に捉えることができる思考能力の育成を目指す。
- 1) 授業では講義の他、受講生各自のレポート内容に基づいたプレゼンテーションやディスカッションを行う。
 - 2) 授業への臨み方
 - ・受講生は文献(研究論文を含む)を基に課題レポートを作成し授業に臨むこと。
 - ・高度看護実践者として役割開発・発揮できるように、がん患者を取り巻く社会や健康課題・健康問題に関心を持ち、がん患者の生活の質を高める看護実践ができるための知識や問題解決能力が身につくよう、目的意識や問題意識をもって授業に臨むこと。
 - ・がん患者やがん医療・看護に関する最新情報について、文献等から主体的に学習すること。

3) 評価

[レポート]

50% (課題レポートの内容：根拠に基づく系統的記述及び論理的考察を重視する)

[プレゼンテーション]

20%

[受講態度]

30% (毎回の授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容)

4. 使用テキスト、参考文献等

1) テキスト

授業中、適宜紹介する。

2) 参考図書

小島操子、佐藤禮子監訳 がん看護コアカリキュラム(医学書院)(最新版)

その他参考書：がん看護に係る原理と実践に関する文献を適宜紹介する。

5. 教育内容

回	内 容	担 当
1	がん看護の動向-先進諸国とわが国の変遷- がん看護専門看護師の歴史と活動	宮下美香
2	Evidence-based Oncology Nursing がん患者を取り巻く状況とがん看護領域の優先すべき研究 課題	宮下美香
3	がん看護学領域における理論と活用 がん患者の理解と主要な概念・理論(1) Cancer Survivorship その1	宮下美香
4	がん患者の理解と主要な概念・理論(2) Cancer Survivorship その2	宮下美香
5	がん患者の理解と主要な概念・理論(2) サイコオンコロジー	宮下美香
6	がん患者の理解と主要な概念・理論(3) Social Support	宮下美香
7	がん患者の理解と主要な概念・理論(4) Self-care	宮下美香
8	がん患者の理解と主要な概念・理論(5) Quality of Life	若崎淳子
9	がん患者の理解と主要な概念・理論(6) Total pain	若崎淳子
10	がん患者の理解と主要な概念・理論(7) ストレス・コーピング	若崎淳子
11	がん患者の理解と主要な概念・理論(8) 喪失、危機理論	若崎淳子
12	がん患者の理解と主要な概念・理論(9) 悲嘆	若崎淳子
13	がん患者の理解と主要な概念・理論(10) 自己概念	若崎淳子
14	事例検討：がん看護実践における現象の説明-理論を用いて-	若崎淳子
15	課題発表・討議： 治療過程に在るがん患者とその家族が抱える身体的・ 心理社会的諸問題の理解と専門的看護援助	若崎淳子

嘱託講師は集中講義とする。

がん看護学演習

単位数：2単位

○若崎淳子：臨床看護学講座教授

橋本龍樹：臨床看護学講座教授

1. 教育方針

がん看護学領域における先行研究について文献検討し、がん患者とその家族のQOL維持向上を目指してがん看護学領域の知識発展のための適切な研究課題を立てると共に、自身の研究課題をこれまでの知識蓄積の中で適切に位置づける。そして、倫理的に研究が実行できる研究計画書を作成し、特別研究・課題研究につなげていく。以上のプロセスを通じて、基本的な研究能力の獲得を目指す。

2. 教育目標

1) 課題の明確化

- ・がん患者やがん医療を取り巻く状況を分析して、がん看護が研究的に取り組むべき課題を抽出する。
- ・関連文献をまとめてプレゼンテーションを行い、取り組もうとする課題の周辺や明らかになっているエビデンスを整理する。

2) がん看護領域の研究論文クリティーク

- ・国内文献及び海外文献をクリティークし、関心領域の研究状況を明らかにする。

3) 研究デザイン、研究方法の決定

- ・研究課題を明確にして、最も適切な研究方法を選定する。研究デザインの精練方法を学ぶ。

4) 研究計画書の作成

- ・研究課題にもとづき研究計画書を作成するプロセスを学ぶ。
- ・整合性のある研究計画を精練する訓練を行う。
- ・倫理的配慮を確実に行えるよう、研究における倫理的感受性を身に付ける。
- ・研究計画書を作成する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、事前学習を踏まえた学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

文献レビュー結果、研究手順の確実さ、研究計画書の洗練度、以上の項目を吟味して、研究を論理的にすすめる能力を評価する。

4. テキスト・参考文献

適宜紹介する。

5. 教育内容

回	内 容	講師
1・2	がん患者やがん医療・がん看護を取り巻く状況の理解	若崎・橋本
3・4	がん看護が研究的に取り組むべき今日的課題	若崎・橋本
5・6	関心テーマに沿った文献クリティーク (1)	若崎・橋本
7・8	関心テーマに沿った文献クリティーク (2)	若崎・橋本
9・10	関心テーマに沿った文献クリティーク (3)	若崎・橋本
11・12	関心テーマに沿った文献クリティーク (4)	若崎・橋本
13・14	研究デザイン	若崎・橋本
15・16	研究課題と研究方法 (1)	若崎・橋本
17・18	研究課題と研究方法 (2)	若崎・橋本
19・20	研究課題と研究方法 (3)	若崎・橋本
21・22	がん看護学研究における倫理的配慮の検討	若崎・橋本
23・24	研究計画書の作成 (1)	若崎・橋本
25・26	研究計画書の作成 (2)	若崎・橋本
27・28	研究計画書の発表・討論 (3)	若崎・橋本
29・30	研究計画書の発表・討論 (4)	若崎・橋本

高齢者看護学特論

単位数：2単位

○原 祥子：地域・老年看護学講座教授

1. 科目の教育方針

高齢者の健康問題に適切に対処していくためには、高齢者看護学に関する基本的な概念や諸理論、健康生活に関する評価方法とその技術を活用し、加齢のプロセスで生じる心身の健康問題と生活への影響について適切な判断と評価を行うことが求められる。高齢者の健康生活を支える看護実践に向けて、高齢者の健康生活上のニーズの査定に必要な理論と方法の修得を目指す。

2. 教育目標

- 1) 高齢者看護学に関する基本的概念や理論について理解する。
- 2) 高齢者健康生活評価の諸側面と視点、評価方法の実際を学ぶ。
- 3) 高齢者の健康生活を維持・促進するための看護援助について検討する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

文献抄読レポート、プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) E. H. エリクソン, J. M. エリクソン, H. Q. キヴニック：老年期, みすず書房, 1997.
- 2) E. H. エリクソン, J. M. エリクソン：ライフサイクル・その完結, みすず書房, 2001.
- 3) プリシラ・エバーソール, 他：ヘルシー・エイジング, エルゼビア・ジャパン, 2007.
- 4) 鳥羽研二編著：高齢者の生活機能の総合的評価, 新興医学出版社, 2010.
- 5) 鳥羽研二監修：高齢者総合的機能評価ガイドライン, 厚生科学研究所, 2003.
- 6) 安梅勅江：エンパワメントのケア科学 当事者主体チームワーク・ケアの技法, 医歯薬出版, 2004.

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/9	老いを生きる人を理解するための理論 ・加齢に関する理論 ・適応とサクセスフルエイジング ・生涯発達理論、ライフサイクル理論	原
2	4/23		
3	5/7		
4	5/14	老いを生きる人々の健康生活を支える看護（1） ・高齢者の全体論的視点、高齢者看護の定義	原
5	5/21	老いを生きる人々の健康生活を支える看護（2） ・「老いを生きること」に関する文献 ¹⁾²⁾ の抄読 （プレゼンテーションと討論）	原
6	5/28		
7	6/11		
8	6/18	高齢者の健康生活評価に関する理論と方法 ・高齢者総合評価（CGA）の背景と意義、構成とプロセス	原
9	6/25	高齢者の健康生活に関する評価（1） ・身体機能（ADL・IADLなど）、精神機能	原
10	7/2	高齢者の健康生活に関する評価（2） ・生理機能、感覚機能、認知機能	原
11	7/9	高齢者の健康生活に関する評価（3） ・主観的健康感、幸福感、生活満足度、QOL	原
12	7/16	高齢者の健康生活に関する評価（4） ・環境の快適性と安全性、社会関係 （住環境、ソーシャルネットワークなど）	原
13	7/23	高齢者の健康生活に関する評価（5） ・家族機能（介護負担など）	原
14	7/30	高齢者の健康生活支援に向けて ・エンパワメントの概念とその適用、評価指標	原
15	8/6	高齢者の健康生活アセスメント（事例検討：思考プロセスの明確化） 高齢者の人権と権利擁護（健康生活を営む権利と自己決定）	原

高齢者看護学演習

単位数：2単位

○原 祥子：地域・老年看護学講座教授
加藤 真紀：地域・老年看護学講座准教授
竹田 裕子：地域・老年看護学講座講師

1. 科目の教育方針

各自の関心領域における看護ケアの実施・参加観察・実験・調査等を踏まえた実践的検討および文献の批判的考察による理論的検討を通して、疾病や障害をもつ高齢者の生活に生起する現象の探究、保健・医療・福祉施設や在宅で生活する高齢者とその家族への看護モデルの開発を目指した研究方法を追究する。

2. 教育目標

- 1) 高齢者看護における国内外の研究の動向を把握する。
- 2) 自己の問題意識と追究課題を絞り込む。
- 3) 自己の研究課題の位置づけについて、看護実践の改善や看護モデル開発の視点で捉える。
- 4) 研究方法を具体化させるプロセスを理解する。
- 5) 高齢者看護研究における倫理的側面を理解したうえで、効果的に研究を推進していくための方法を修得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 横山美江編：よくわかる看護研究の進め方・まとめ方－エキスパートをめざして，医歯薬出版，2005.
- 2) グレグ美鈴，他：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方，医歯薬出版，2007.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1・2	高齢者看護における国内外の研究動向	原・加藤 竹田
3・4	関心領域における高齢者看護事例の実践的検討（1）	原・加藤 竹田
5・6	関心領域における高齢者看護事例の実践的検討（2）	原・加藤 竹田
7・8	関心テーマにおける文献検討（1）	原・加藤 竹田
9・10	関心テーマにおける文献検討（2）	原・加藤 竹田
11・12	関心テーマにおける文献検討（3）	原・加藤 竹田
13・14	問題意識と追究課題の検討（1） 追究課題の背景	原・加藤 竹田
15・16	問題意識と追究課題の検討（2） 追究課題に関連する先行文献のレビュー	原・加藤 竹田
17・18	問題意識と追究課題の検討（3） 課題の追究に必要なかつ有効な諸理論の検討	原・加藤 竹田
19・20	研究課題に適した研究方法の検討（1）	原・加藤 竹田
21・22	研究課題に適した研究方法の検討（2）	原・加藤 竹田
23・24	高齢者看護研究に必要な倫理的配慮の検討	原・加藤 竹田
25・26	研究計画書の作成	原・加藤 竹田
27・28	研究計画書の発表・討論（1）	原・加藤 竹田
29・30	研究計画書の発表・討論（2）	原・加藤 竹田

高齢者看護援助論

単位数：2単位

- 原 祥子：地域・老年看護学講座教授
加藤 真紀：地域・老年看護学講座准教授
吉岡佐知子：松江市立病院副看護局長（老人看護 CNS）
島根大学医学部臨床看護教授
塩川 ゆり：訪問看護ステーションあおいそら管理者

1. 科目の教育方針

老人看護専門看護師に求められる、病院・施設における高齢者とその家族に対する卓越した看護の実践、看護職に対する教育、看護職を含むケア提供者に対する相談、ケア調整、倫理的調整の各役割機能を果たすことのできる能力を開発する。

2. 教育目標

- 1) 病院・施設において複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族について、生活環境調整・生活活動調整・家族関係の調整に関する看護援助を実践する能力を養う。
- 2) 高齢者ケアが円滑に提供されるための、ケア提供者に対する教育・相談や関係者間の調整の実際を学ぶ。
- 3) 高齢者のエンドオブライフ・ケアのあり方について探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 井部俊子，大生定義監修：専門看護師の思考と実践，医学書院，2015.
- 2) 金川克子，野口美和子監修：高齢者のための高度専門看護（最新・高齢者看護プラクティス），中央法規，2005.
- 3) 中島紀恵子，石垣和子監修：高齢者の生活機能再獲得のためのケアプロトコールー連携と協働のために，日本看護協会出版会，2010.
- 4) 桑田美代子，湯浅美千代編集：高齢者のエンドオブライフ・ケア実践ガイドブック第1巻死を見据えた日常生活のケア，中央法規，2016.
- 5) 桑田美代子，湯浅美千代編集：高齢者のエンドオブライフ・ケア実践ガイドブック第2巻死を見据えたケア管理技術，中央法規，2016.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	専門看護師制度設立の背景と専門看護師の要件	原
2	老人看護専門看護師の役割と機能、活動の拡大 エビデンスに基づく実践（EBP）の実行	原
3	病院・施設における CGA とチームアプローチ ・高齢者の摂食・嚥下の評価とリハビリテーション ・高齢者のフレイル（frailty）とサルコペニアへのアプローチ	原 (リハビリテーション部・酒井)
4		
5	病院・施設における生活環境・生活活動調整に関する実践・相談・教育 ・せん妄の予防と対応を含む	吉岡
6	病院・施設における家族関係の調整に関する実践・相談・教育	吉岡
7	高齢者看護における倫理的課題と倫理調整	吉岡
8	複雑な健康問題をもつ高齢者/家族に対する看護実践とケア調整	吉岡
9	地域連携・退院支援を通して高齢者のケアを考える ・高齢者/家族に対する調整・倫理調整を中心に	塩川
10		
11	終末期にある高齢者とその家族への看護援助（1） ・End-of-Life Care の概念、終末期ケアを導くチーム連携ケアモデル	原
12	終末期にある高齢者とその家族への看護援助（2） ・介護保険施設における End-of-Life Care の実践・相談・教育 ・高齢者の End-of-Life Care における倫理調整 ・高齢者の看取りケアモデルの探究（文献及び事例検討）	加藤
13		
14		
15	高齢者看護における実践的研究の動向と課題	原

高齢者看護学実習

単位数：6単位

○原 祥子：地域・老年看護学講座教授
加藤 真紀：地域・老年看護学講座准教授

1. 科目の教育方針

高齢者看護について創意工夫をしながら優れた看護活動を行っている病院、介護保険施設、訪問看護ステーション等において、豊富な高齢者看護実践経験をもつ看護職者の指導のもとでの看護実践を通して、直接的な看護実践の能力を向上させるとともに、相談、ケア調整、倫理調整、スタッフ教育の能力を開発する。実習を通して、高齢者看護ケアを変革・発展させていくことのできる老人看護専門看護師としての視点を養う。

2. 教育目標

- 1) 既習の理論やモデルを適用し、複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族に対して、適切なアセスメントに基づく判断、問題解決へ向けた看護援助の実践、援助結果の適切な評価ができる。
- 2) 実習指導者の指導のもとに（実習指導者とともに）行われた看護実践、相談、調整等について、その意図や方略、評価方法を理解する。
- 3) 高齢者とその家族、専門職者間で生じた倫理的課題に対する調整方法を理解する。
- 4) スタッフへの教育的働きかけや教育的環境づくり等、継続教育における老人看護専門看護師の役割を理解する。
- 5) 高齢者看護の組織・機関における実践的研究課題を見出し、その課題の解決の方向性について考察することができる。

3. 実習施設・時期および内容

1) 病院・施設における高齢者看護実習

【実習施設】松江市立病院、松江赤十字病院

【実習時期】1年次2～3月の4週間

【実習内容】実習指導者の指導のもとに、高齢者とその家族に対する看護実践を行い、老人看護専門看護師が果たす相談・ケア調整・倫理調整・スタッフ教育の役割について、実習施設における実践を通して学ぶ。

2) 認知症高齢者看護実習

【実習施設】介護老人保健施設ナーシングセンターあけぼの、松江記念病院
島根県立中央病院、介護医療院 宇賀の里つばさ

【実習時期】2年次5～6月の4週間

【実習内容】実習指導者の指導のもとに、認知症高齢者とその家族に対する看護実践を行い、相談・ケア調整・倫理調整・スタッフ教育について、実習施設における実践を通して学ぶ。

3) 在宅における高齢者看護実習

【実習施設】 出雲看護サービスセンター、訪問看護ステーションやすらぎ

【実習時期】 1年次～2年次前期の週2日程度、4週間

【実習内容】 実習指導者の指導のもとに在宅療養高齢者への看護活動を体験する。

4. 評価

実習内容、レポートのほか、学生の自己評価および実習指導者の意見を踏まえて、単位認定者（原 祥子）が総合的に判断し評価する。

5. 備考

詳細については、別途、高齢者看護学実習要項を提示する。

がん薬物療法看護援助論

単位数：2単位

時間数：30時間

開講年次及び学期：1年次後期

- 若崎淳子 臨床看護学講座 教授
宮下美香 広島大学大学院医歯薬保健学研究科看護開発科学講座/老年・
がん看護開発学 教授
坂井淳恵 岡山ろうさい病院がん相談支援センター がん看護専門看護師
札埜和美 広島赤十字原爆病院 がん看護専門看護師

1. 科目の教育方針

がん薬物療法看護論で学んだ知識を基盤として、代表的疾患（腫瘍）の標準治療を踏まえたがん薬物療法のレジメンについて理解を深め、がん薬物療法を受ける患者に生じる有害事象の予防・早期発見・早期対処を行うための臨床判断および患者のセルフケア能力を高めるための援助方法を探求する。がん患者が抱える薬物療法過程で生じた身体の器質的・機能的変化、並びに機能障害や日常生活動作の制限等の身体的・精神的・社会的問題を理解する。そして、患者の意思決定を支え、治療の継続並びに治療中のQOLを高める看護援助を患者の心理社会的側面から探求する。

2. 教育目標

- 1) がん患者が抱えるがん薬物療法過程で生じやすい身体の器質的・機能的変化、並びに機能障害や日常生活動作の制限等の身体的・精神的・社会的問題を理解する。
- 2) 代表的疾患(腫瘍)について、がん薬物療法を確定するプロセスや科学的根拠に基づく治療のプロセスについて理解し、標準治療を踏まえたがん薬物療法のレジメンを理解する。
- 3) 代表的疾患(腫瘍)について、がん薬物療法で使用する薬剤の特性と作用機序、有害事象を理解し、有害事象の予防・早期発見・早期対処を行なうための臨床判断および患者のセルフケア能力を高めるための援助方法を習得する。
- 4) がん薬物療法の有害事象による日常生活への影響やガイドラインに基づく支持療法を理解し、患者・家族のセルフマネジメントを促進する援助方法を習得する。
- 5) 患者の意思決定を支え、治療の継続並びに治療中のQOLを高める看護援助を患者の心理社会的側面から探求する。
- 6) がん薬物療法を受ける患者の療養生活に必要な支援について全人的にアセスメントし、治療中の生活の質を維持し高めるために、治療過程にあっても患者が自分らしく日常生活を過ごせるためのエビデンスに基づく看護援助の方法を探求する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 授業では講義の他、受講生各自のレポート内容に基づいたプレゼンテーションやディスカッションを行なう。
- 2) 授業への臨み方
 - ・がん薬物療法過程にある患者・家族の生活の質やセルフケア能力を高める看護実践ができるための知識と問題解決能力が身につくよう、目的意識や問題意識をもって授業に臨むこと。
 - ・がん薬物療法に関する最新情報を文献等から主体的に収集し、学習すること。

3) 評価

[レポート]

50% (課題レポートの内容：課題に対する論理的思考及び問題解決思考過程を重視する。)
[プレゼンテーション]

20%

[受講態度]

30% (毎回の授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容)

4. 使用テキスト、参考文献等

1) テキスト

授業中、適宜紹介する。

2) 参考図書

小島操子、佐藤禮子監訳 がん看護コアカリキュラム(医学書院)(最新版)

科学的根拠に基づく診療ガイドライン(各学会編)(最新版)：肺がん、大腸がん、乳がん、胃がん、肝臓がん等

その他、適宜紹介する。

5. 教育内容

回	内 容	担 当
1	がん薬物療法過程にあるがん患者と家族が抱える身体的・心理社会的問題の特徴	宮下美香
2	がん薬物療法を受ける患者の心理社会的側面のアセスメント	札埜和美
3	薬物療法主要レジメンと看護(1)肺がん	若崎淳子
4	薬物療法主要レジメンと看護(2)大腸がん	坂井淳恵
5	薬物療法主要レジメンと看護(3)乳がん	若崎淳子
6	薬物療法主要レジメンと看護(4)胃がん	坂井淳恵
7	薬物療法主要レジメンと看護(5)肝臓がん	札埜和美
8	がん薬物療法における治療選択と意思決定支援：事例検討 ①初期治療の場合 ②再発・転移に伴う治療の場合	若崎淳子
9	がん薬物療法を継続する患者とその家族の理解：事例検討 患者と家族に対する情報提供と心理的支援	若崎淳子
10	治療継続と治療中の生活の質を高める看護援助	坂井淳恵
11	がん薬物療法を継続する患者の就労支援	坂井淳恵
12	対応困難な事例の検討(1) 現象の理解と記述、看護介入案の作成(フィールドワーク)	若崎淳子
13	対応困難な事例の検討(2) 事例に基づくセルフケア能力向上にむけた看護介入案の検討 (含：プレゼンテーション)	若崎淳子
14	がん薬物療法過程にあるがん患者の QOL を高めるための支援の検討(1)事例のアセスメントと看護介入案の作成	若崎淳子
15	がん薬物療法過程にあるがん患者の QOL を高めるための支援の検討(2)事例に基づく看護介入案の検討(含：プレゼンテーション)	若崎淳子

嘱託講師は集中講義とする。

緩和ケア演習

単位数：2単位

時間数：60時間

開講時期及び学期(1年次後期)

○若崎淳子	臨床看護学講座 教授
秋鹿都子	臨床看護学講座 准教授
大野 智	島根大学医学部附属病院臨床研究センター センター長 教授
掛田崇寛	関西福祉大学看護学部 教授
角甲 純	広島大学大学院医歯薬保健学研究科看護開発科学講座/老年・がん看護開発学 助教 がん看護専門看護師
広瀬寛子	戸田中央総合病院 カウンセリング室 室長
林ふり子	藤沢湘南台病院 がん看護専門看護師
坂井淳恵	岡山ろうさい病院がん相談支援センター がん看護専門看護師
今岡恵美	島根大学医学部附属病院看護部 副看護師長 緩和ケア認定看護師

1. 科目の教育方針

がん患者が抱える様々な症状、苦痛・苦悩を理解し、適切な臨床判断に基づいた症状マネジメントについて学ぶ。並びにがんの進行やがん治療に伴い生じる患者の全人的苦痛を理解し、苦痛緩和に向けて、包括的な介入ができるための看護援助の方法を探求する。そして、キュアとケアを統合し、がん患者とその家族の QOL向上を目指した高度ながん看護実践能力の開発に向けて、研究成果の活用やエビデンスに基づく臨床判断、的確なアセスメント、援助の方法、看護実践の評価について理解する。緩和ケアに関するフィールドワークや事例検討、実技演習を通じて、患者とその家族への適切な援助方法を検討すると共にがん看護専門看護師の果たす役割を考察し、緩和ケア領域における専門的な看護援助ができるための能力開発を探求する。

2. 教育目標

- 1) 緩和ケアの概念や歴史、エビデンスに基づく緩和ケアの実践について理解する。
- 2) 緩和ケアに用いられる薬剤の機序と主作用・副作用・相互作用を学び、薬剤の適切で安全な使用方法を理解する。
- 3) セルフケア理論に基づく症状マネジメントの看護学的アプローチを習得する。
- 4) 緩和ケアにおけるがん看護専門看護師としての臨床判断過程、患者とその家族のニーズに沿った専門的な援助方法の検討、看護実践の評価について理解する。
- 5) がん患者の身体的な苦痛症状に関するアセスメント及び症状マネジメント、援助の方法を理解する。
- 6) がん患者の精神的な苦痛症状に関するアセスメント及び症状マネジメント、援助の方法を理解する。
- 7) がん患者の実存的苦痛を理解し、適切で専門的な看護援助の方法を検討する。
- 8) がんがもたらす苦痛や苦悩、がんの進行やがん治療に伴い生じる患者の苦痛を全人的に理解し、苦痛緩和に向けた包括的な介入ができるための臨床判断過程とエビデンスに基づく専門的な看護援助の方法を検討し提案する。
- 9) がん患者が抱える心身の苦痛緩和に向けて、緩和ケアにおけるがん補完代替医療についてその内容とエビデンス、支援方法を理解する。
- 10) 緩和ケアにおける地域連携や在宅緩和ケアの実際と課題、並びにがん看護専門看護師の果たす

役割を理解する。

- 11) 緩和ケアにおける鎮静に関する既習の知識を基盤として、事例をもとに倫理的問題や意思決定支援について思考を深める。
- 12) がん相談支援の事例から患者家族が抱える苦悩を理解し、緩和ケアにおける家族への相談支援のあり方を検討する。
- 13) 緩和ケアにおける患者とその家族への看護カウンセリング技術を習得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

1) 授業では講義の他、受講生各自のレポート内容に基づいたプレゼンテーションやディスカッション、事例検討や実技演習、医療施設での医療・看護活動に参加する。

2) 授業への臨み方

- ・受講生は文献(研究論文を含む)を基に課題レポートを作成し授業に臨むこと。
- ・自らの特定看護領域を中心に学習を深め、目的意識や問題意識をもって授業に臨むこと。
- ・がん患者やがん医療、がん看護、緩和ケアに関する最新情報について、文献等から主体的に学習すること。

3) 評価

[レポート] 50% (課題レポートの内容：臨床上の看護課題について、根拠に基づく系統的記述及び論理的考察を重視する。エビデンスに基づく臨床判断過程の記述を重視する。)

[プレゼンテーション] 20%

[受講態度] 30% (毎回の授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容)

4. 使用テキスト、参考文献等

1) テキスト

授業中に適宜紹介する。

2) 参考文献

日本緩和医療学会編、専門家を目指す人のための緩和医療学、南江堂、最新版

恒藤 暁、緩和ケアエッセンシャルドラッグ、最新版

広瀬寛子、看護カウンセリング第2版、医学書院、2003.

森田達也、緩和ケアレジデントマニュアル、医学書院、最新版

緩和医療に関する各ガイドライン(最新版)

森田達也、緩和ケアレジデントマニュアル、医学書院、最新版

その他、適宜紹介する。

5. 教育内容

回	内 容	担 当
1	緩和ケアと症状マネジメント	角甲 純
2	薬物による症状緩和：事例を用いた症状アセスメントと使用薬剤の判断(演習)	角甲 純
3	がん患者のセルフケアと症状マネジメント(1) 看護実践における症状マネジメントモデルの活用 症状マネジメントの統合的アプローチ：事例検討	角甲 純
4	がん患者のセルフケアと症状マネジメント(2) 症状マネジメントの統合的アプローチ：事例検討	角甲 純
5	緩和ケアの実際(1) エビデンスに基づく専門的ながん看護実践に向けた臨床判断の過程	林 凜り子

6	緩和ケアの実際(2) エビデンスに基づく専門的ながん看護実践に向けた援助方法の検討と看護実践の評価：事例検討	林 凧り子
7	がん患者の疼痛の発生機序と看護	掛田崇寛
8	苦痛症状のアセスメントと援助(1)がん性疼痛	掛田崇寛
9	苦痛症状のアセスメントと援助(2)呼吸困難	掛田崇寛
10	苦痛症状のアセスメントと援助(3)倦怠感	角甲 純
11	苦痛症状のアセスメントと援助(4)栄養障害、食欲不振	掛田崇寛
12	苦痛症状のアセスメントと援助(5)排泄障害	掛田崇寛
13	苦痛症状のアセスメントと援助(6)不眠、せん妄	林 凧り子
14	苦痛症状のアセスメントと援助(7)抑うつ、不安	林 凧り子
15	苦痛症状のアセスメントと援助(8)否認、怒り	若崎淳子
16	がん患者の実存的苦痛：スピリチュアルペインの理解と看護：事例検討	林 凧り子
17	がんがもたらす患者の苦痛症状及び苦悩の全人的理解：臨地での事例検討	若崎淳子 今岡恵美
18	がんがもたらす患者の苦痛症状及び苦悩に対する臨床判断とエビデンスに基づく支援の検討及び提案：臨地での事例検討(含：プレゼンテーション)	若崎淳子 今岡恵美
19	がん疼痛～オピオイドローテーションの実際：臨地での事例検討(フィールドワーク)	若崎淳子 今岡恵美
20	がん患者が抱える心身の苦痛緩和に向けたがん補完代替医療の活用：事例検討	大野 智
21	緩和ケアチームにおける活動の実際とがん看護専門看護師の果たす役割の理解：臨地での活動参加(フィールドワーク)	若崎淳子 今岡恵美
22	緩和ケアにおける地域連携とがん看護専門看護師の果たす役割の理解(1)緩和ケア地域連携カンファレンスへの参加(フィールドワーク)	若崎淳子 今岡恵美
23	緩和ケアにおける地域連携とがん看護専門看護師の果たす役割の理解(2)退院前カンファレンスへの参加と退院後訪問(フィールドワーク)	若崎淳子 今岡恵美
24	地域で暮らす終末期がん患者とその家族への緩和ケアの実際：事例検討	秋鹿都子
25	緩和ケアにおけるがん相談支援(1) 相談支援センターで行なう家族ケアの実際：事例検討	坂井淳恵 秋鹿都子
26	緩和ケアにおけるがん相談支援(2) 病院から在宅療養への移行-自宅での療養と看取りに関する家族からの相談への対応-：事例検討	坂井淳恵 秋鹿都子
27	がん看護実践における倫理調整 緩和ケアにおける鎮静に関する倫理的問題と意思決定支援：事例検討	若崎淳子 坂井淳恵
28	看護カウンセリングの実際：実技演習その1	広瀬寛子
29	看護カウンセリングの実際：実技演習その2	広瀬寛子
30	看護カウンセリングの実際：実技演習その3	広瀬寛子

嘱託講師は集中講義とする。

がん看護学実習 I

単位数：2単位

時間数：90時間

開講年次及び学期：1年次後期

○若崎淳子	臨床看護学講座	教授	
福田誠司	臨床看護学講座	教授	
秋鹿都子	臨床看護学講座	准教授	
上田恵巳	鳥取大学医学部附属病院看護部		がん看護専門看護師
奥野梨沙	鳥取大学医学部附属病院看護部		がん看護専門看護師
山崎かおり	鳥取大学医学部附属病院看護部		がん看護専門看護師
加藤由希子	松江赤十字病院看護部		がん看護専門看護師

1. 科目の教育方針

卓越したがん看護実践能力を開発することを目標とする。複雑な健康問題をもつがん患者とその家族に対して質の高い卓越した看護を提供するために、ケアとケアの統合による専門的知識と的確な臨床判断、直接的ケアの習熟化を目指す。看護実践の中で理論と実践の確認を図りながら、がん看護専門看護師としての基礎的な態度、判断力、実践力を身につける。がん看護実践上にある複雑で解決困難な問題をもつ事例を取り上げ、その解決方法を検討する(3事例程度)。また、実習期間中に実習指導者や教員参加のカンファレンスを企画し事例検討を行なう。必要に応じて、医師や看護師等の医療関係者に参加を依頼する。参加者との討議を通して、臨床判断能力や看護援助の質を高める。がん看護領域における自己のサブスペシャリティを開発すると共にチーム医療が十分に機能し活性化するためのがん看護専門看護師として機能を考え、役割開発について考察する。

2. 教育目標(実習目標)

- 1) がん患者を全人的に理解し、患者の体験や患者を取り巻く現象を論理的に説明する。
- 2) 複雑で解決困難な問題をもつがん患者とその家族に対して、治療・療養過程における問題解決のために、専門的知識と的確な臨床判断に基づく質の高い直接的ケアを実践する。
- 3) 理論と実践の確認を図りながら、がん看護専門看護師としての基礎的な態度、判断力、実践力を身につける。
- 4) がんチーム医療が十分に機能し活性化するために、専門看護師の立場から問題解決能力や調整力、指導力を身につける。
- 5) 実習を通して、がん看護専門看護師としての活動や姿勢、がん看護実践における変革推進者としての機能を考え、役割開発について考察する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 地域がん診療連携拠点病院で行われているがん看護実践を学び、がん看護専門看護師に必要な卓越したがん看護実践能力を習得する。実習場所は、病棟及び外来(看護専門外来、外来化学療法室他)とする。がん医療における地域連携の実際を視野に入れた学習を行なう。
- 2) がん患者とその家族を取り巻く状況を実際的に理解し、がん看護専門看護師の役割である実践・教育・相談・調整・研究・倫理調整の視点からがん看護実践上の課題を探究する。
- 3) 実習生は実習に先立ち、指導教員の指導を受けながら下記5.の授業計画の内容を含む実習計画を策定し臨地で実習展開する。
- 4) 授業への臨み方

- ・課題研究に結び付けられる課題を見出すことができるように、目的意識や問題意識をもって実習に取り組むこと。
- ・実習に臨むにあたり病態生理や治療法に関する知識と最新情報を熟知し理解しておくこと。
- ・実習に臨むにあたり看護過程展開能力を高めておくこと。

5) 実習施設

鳥取大学医学部附属病院
松江赤十字病院

6) 実習時期

1年次後期 12～1月のうち10日間

7) 評価

実習の目的目標に沿って、がん看護専門看護師の役割機能の習得と目標達成度を次の内容により総合的に評価する。

- (1) 実習計画書
- (2) 実習期間中に提出される実習記録の内容
- (3) 受け持ち患者に係る看護過程展開状況
- (4) 困難事例の検討
- (5) 課題レポート
- (6) カンファレンスや事例検討会等における企画・討議参加状況
- (7) 出席状況：原則として実習時間のすべてに出席すること
- (8) 実習への取り組み姿勢

*実習は原則2単位90時間であるが、到達目標に達しない場合や実習内容が不足していると単位認定者が判断した場合には実習期間の延長または追加的な実習を行うこととする。

4. 使用テキスト、参考文献等

実習の手引きを別途示す。

5. 教育内容

- 1) 全人的視点からがん患者とその家族を理解し、理論やモデルを用いて説明する。
- 2) 受け持ち患者について、がんの病態・治療、がん看護に関する専門的知識に基づき多面的にアセスメントを行なう。適切な臨床判断を踏まえて明確化した看護上の問題について根拠に基づく計画を立案し、実施・評価する。特に、複雑で解決困難な問題をもつ事例に対してその解決方法を検討し、効果的な看護介入を行なう。
- 3) 看護チームと連携を取りながら、協働的姿勢をもって受け持ち患者のケアに参画する。
- 4) 実習期間中に実習指導者や指導教員参加のカンファレンスを主体的に企画し事例検討を行なう。必要に応じて、医師や看護師等の医療関係者に参加を依頼する。参加者との討議を通して、学生の臨床判断能力、看護援助の質を高める。
- 5) がん看護実践における変革者としての機能を考え、がん看護専門看護師としての自己の課題を整理する。
- 6) 変化する社会と医療・看護の状況の中で、がん看護専門看護師の役割開発について考える。
- 7) がん看護領域における自己のサブスペシャリティを開発する。焦点をあてる領域(サブスペシャリティ)において、がん患者とその家族の抱える看護上の問題に対して卓越した直接的ケア能力を習熟する。

がん看護学実習Ⅱ

単位数：2単位

時間数：90時間

開講年次及び学期：1年次後期

○福田誠司	臨床看護学講座	臨床遺伝診療部	教授
若崎淳子	臨床看護学講座		教授
秋鹿都子	臨床看護学講座		准教授
高橋 勉	先端がん治療センター	腫瘍・血液内科	講師
三宅隆明	先端がん治療センター	腫瘍・血液内科	講師
杉浦弘明	医療法人医純会	すぎうら医院	院長
花田 梢	医療法人医純会	すぎうら医院	在宅診療部 部長
佐藤幸恵	医療法人医純会	すぎうら医院	在宅診療部 副部長

1. 科目の教育方針

がんに関わる看護職は、理学所見と検査データに基づき患者の状態を評価できること、治療内容と治療選択の根拠を理解すること、治療効果や有害事象を科学的に評価すること等の臨床判断能力と、それらに基づいた身体管理を行うことが求められる。本科目では、がん診療連携拠点病院において、がん治療の専門医の指導の下でがんの患者を担当し、患者を客観的に評価し、診断に至るプロセス、検査所見の解釈と判断を行う臨床判断能力を習得し、それらに基づいた身体管理を体験する。そして治療中、治療後に客観的に患者を評価し、治療効果の判定や有害事象を予測できる臨床判断力と、それらの結果に基づいた身体管理方針を考える能力を習得する。また、在宅診療部門では、終末期にあるがん患者の在宅診療に医師と同行し、医療内容と臨床判断過程を学習する。患者や家族の置かれた状況を理解し、その後の方針に関して在宅医と討論し、身体管理の方針決定プロセスを体験する。

2. 実習目標

- 1) がん患者の治療前後の状態を、理学所見、検査所見に基づき客観的に臨床判断できる。
- 2) 臨床判断過程を理解し、治療と身体管理方針が選択された根拠を述べることができる。
- 3) 患者のステージ、予後等をデータに基づいて臨床的に判断できる。
- 4) 治療を受けた患者の状態を客観的に評価し、特に副作用の発現を臨床的に判断できる。
- 5) 副作用の有無と程度に基づき、身体管理計画を立てることができる。
- 6) 治療後の状態と所見を客観的に評価し、治療効果を臨床的に判断できる。
- 7) 治療効果の判定に基づき、身体管理方針を立てることができる。
- 8) オンコロジー・エマージェンシーを臨床的に判断し、適切な身体管理を計画できる。
- 9) がんゲノム医療の適応と限界を体験し、診断に基づいた身体管理計画を考えることができる。
- 10) 担当症例を臨床判断に基づきカンファレンスで発表し、身体管理方針の決定に関わる。
- 11) 在宅がん患者の状態を臨床的に判断し、それらに基づき身体管理方針を述べるができる。
- 12) がんの診断、ステージング、予後、治療の原理、副作用等の臨床判断と身体管理に

関するいずれかの内容をスタッフに講義することができる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

実習場所

- ・ 島根大学附属病院 先端がん治療センター（都道府県がん診療連携拠点病院）
- ・ 医療法人 医純会 すぎうら医院 在宅診療部

がん診療連携拠点病院では、がん治療の専門医と共に、身体所見、検査所見の解釈と判断など、患者を客観的に評価する臨床判断力を養い、それらに基づき診断に至るプロセスを学ぶ。そして、治療効果と有害事象を判断する力も獲得する。更に、治療に限界が生じた場合の選択肢を考え、それらに基づいた短期的、長期的身体管理計画を立てる能力を習得する。また、担当患者に関して臨床判断に基づきカンファレンスで発表し、身体管理方針に関してスタッフと検討する。在宅診療部門では、終末期にあるがん患者の在宅診療に医師と同行し、医療内容と臨床判断過程を学習する。そして、患者や家族の置かれた状況を理解し、方針に関して在宅医と討論し、身体管理の方針決定プロセスを体験する。

【評価】

実習記録と担当患者に関する総合的なレポートを作成する。レポートは上記の実習目標を全て含んだ内容とし、それぞれの達成度に応じて点数化し、口頭試問を行う。また、実習への積極的参加、看護の実践、カンファレンスでの発表や参加を総合して評点する。

4. 使用テキスト

- 1) 日本臨床腫瘍学会編集「新臨床腫瘍学」改訂第4版 南江堂
- 2) DeVita, Hellman, & Rosenberg's Cancer, 10th edition. Principles & Practice of Oncology WOLTERS KLUWER

5. 教育内容

- 1) 入院患者1-2名を担当し、診察と検査データ解釈など患者を客観的に臨床判断する。
- 2) 検査、診断、治療方針、身体管理方針決定のプロセスを体験し、患者のステージ、予後等をデータに基づいて担当医と討論し、臨床判断の過程を体験する。
- 3) 治療効果や治療による有害事象の有無などの臨床判断過程を体験し、討論する。
- 4) 治療または原病により生じる治療の限界とその後の身体管理方針を考える。
- 5) 担当症例を臨床判断に基づきカンファレンスで発表し、身体管理方針の決定に関わる。
- 6) オンコロジー・エマージェンシーを判断し、対応を速やかに計画する。
- 7) がん患者の在宅診療において医師が行う臨床判断過程を学び、患者や家族の状況に基づいて、その後の身体管理の方針決定プロセスを体験する。
- 8) がんの診断、ステージング、予後、治療の原理、副作用などの臨床判断と身体管理に関するいずれかの最近のトピックに関して医師や看護師を対象に講義する。
- 9) がんゲノム診断や遺伝カウンセリングにも関わり、診断に基づき管理方針を考察する。

がん看護学実習Ⅲ

単位数：2 単位

時間数：60 時間

開講時期及び学期：2 年次前期

- 秋鹿都子 臨床看護学講座 准教授
- 若崎淳子 臨床看護学講座 教授
- 福田誠司 臨床看護学講座 教授
- 奥野映子 島根県立中央病院 がん看護専門看護師
- 渡部浜子 訪問看護ステーション愛 所長
- 福場衣里子 訪問看護ステーションいずも 所長
- 角 里美 訪問看護ステーションやすらぎ 所長

1. 科目の教育方針

がんの治療期や医療施設から在宅へ療養の場を移行する時期、ならびに移行後のがん患者・家族に対し、シームレスな看護を実践するために必要なヘルスケアシステムについて学ぶ。がん患者の在宅ケアについて豊富な看護経験をもつ訪問看護師の指導のもとでの看護実践を通し、在宅療養期や終末期にあるがん患者・家族の QOL 向上を目指した症状マネジメントと緩和ケアの実際を学ぶとともに、包括的がん医療におけるがん看護専門看護師としての役割と基礎的能力を養う。

2. 教育目標

- 1) 在宅療養にかかわる多職種連携・協働について、具体的な実践に結び付けるための方略を習得する。
- 2) 在宅療養にかかわる多職種連携・協働において、がん看護専門看護師の果たすべき役割について理解する。
- 3) 地域医療連携におけるがん治療の連携、がん相談支援の実際について理解する。
- 4) 治療期、在宅療養への移行期、在宅療養期、および終末期において、がん患者とその家族が抱える療養上の問題について理解する。
- 5) 治療期、在宅療養への移行期、在宅療養期、および終末期において、がん患者とその家族が抱える療養上の問題に対して実践される、専門知識・技術、的確な判断に基づいた看護の実際について理解する。
- 6) がん患者・家族の在宅療養を支える上でのがん看護専門看護師としての役割と、それを担う上での課題について、看護理論や先行研究と関連づけて探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

地域がん診療拠点病院で行われている地域医療連携や、在宅療養への移行に向けた多職種による退院支援、がん患者と家族が在宅療養を継続する上で必要な支援について学び、がん患者の在宅ケアについて豊富な看護経験をもつ訪問看護師、がん看護専門看護師、指導教員のスーパービジョンを受けながら、がん看護専門看護師としての役割と実践上の課題を探究する。

【実習施設】

島根県立中央病院（入退院支援・地域医療連携センター、がん相談支援センター）
訪問看護ステーション愛
訪問看護ステーションいずも
訪問看護ステーションやすらぎ

【実習時期】

2年次前期4～5月のうち10日間

【評価】

実習記録の内容、多職種連携や協働に関する記録、訪問看護事例のケースレポート、課題レポート、実習計画書、カンファレンスへの参加状況、プレゼンテーションの企画・参加状況、実習への取り組み・態度、実習指導者の意見等により総合的に判定する。

*実習は原則2単位90時間であるが、到達目標に達しない場合や実習内容が不足していると単位認定教員が判断した場合には実習期間の延長または追加的な実習を行うこととする。

4. 使用テキスト、参考文献等

実習要項を別途示す

5. 教育内容

1) 外来診察室、外来化学療法室において

- (1) 治療期のがん患者への支援について、がん診療連携拠点病院の医師と地域のかかりつけ医が共有する「がん地域連携パス」の活用の実際、診療情報の共有の実際を学ぶ。
- (2) 治療期のがん患者の地域医療の連携において、がん看護専門看護師が果たすべき役割について考察する。

2) 入退院支援・地域医療連携センターにおいて

- (1) 主治医、受け持ち看護師、訪問看護師、保健師等との退院支援カンファレンス等に、退院支援看護師、医療ソーシャルワーカー、がん看護専門看護師等と共に参加し、連携を目指した視点から、がん患者・家族が安心して在宅療養へ移行するために必要な支援と調整について考察する。
- (2) がん患者の在宅療養にかかわる多職種の連携・協働において、がん看護専門看護師が果たすべき役割について考察する。

3) 訪問看護ステーションにおいて

- (1) 在宅医、ケアマネージャー、保健師等とのカンファレンス等に、訪問看護師と共に参加し、連携を目指した視点から、がん患者・家族がQOLの高い在宅療養を続ける上で必要な支援と調整について考察する。
- (2) 在宅療養におけるがん患者の症状マネジメントと緩和ケアの実際を学ぶ。
- (3) がん患者・家族の健康問題が在宅療養におよぼす影響についてアセスメントし、QOLの向上を目指した支援を行うための多職種連携や協働に関する計画を立案する。
- (4) 立案した計画を訪問看護師に提案、あるいは共に実施し評価する。
- (5) がん患者の在宅療養に関わる多職種の連携・協働においてがん看護専門看護師が果たすべき役割について考察する。

4) 地域医療連携センターおよび訪問看護ステーションにおける実習を通して学んだ、がん患者・家族の在宅療養を支援する上でのがん看護専門看護師の役割について考察し、プレゼンテーションを行う。

がん看護学実習Ⅳ

単位数：2 単位

時間数：60 時間

開講時期及び学期：2 年次前期

- 秋鹿都子 臨床看護学講座 准教授
- 若崎淳子 臨床看護学講座 教授
- 福田誠司 臨床看護学講座 教授
- 上田恵巳 鳥取大学医学部附属病院 がん看護専門看護師
- 奥野梨沙 鳥取大学医学部附属病院 がん看護専門看護師
- 山崎かおり 鳥取大学医学部附属病院 がん看護専門看護師
- 加藤由希子 松江赤十字病院 がん看護専門看護師

1. 科目の教育方針

優れた看護を継続的に実践しているがん看護専門看護師と共に行動し、がん看護専門看護師に求められる6つの役割、機能とその意義を理解する。また、がん看護専門看護師が行う熟達した役割実践活動に同行し、がん看護専門看護師が役割を開発・遂行する戦略や方策の実際を学ぶ。そして、役割開発に向けた自己の課題を明らかにする。

2. 教育目標

- 1) がん看護専門看護師が患者・家族に提供する高度な看護実践の目的・内容について考察する。
- 2) がん看護専門看護師が行うコンサルテーションの特徴や方法について考察する。
- 3) 患者・家族の QOL 向上を図る上で必要なケアが円滑に提供されるためにがん看護専門看護師が行う多職種間の調整について考察する。
- 4) がん看護専門看護師が行う倫理的問題の明確化、ならびに解決に向けての調整について考察する。
- 5) がん看護専門看護師が患者や家族、看護師に向けて行っている教育活動の目的・内容について考察する。
- 6) がん看護専門看護師が関わっている研究活動の目的・内容、意義について考察する。
- 7) がん看護専門看護師の役割開発や役割達成に向けた戦略や方策について考察する。
- 8) がん看護専門看護師としての役割を遂行する上での自己の課題について、看護理論や先行研究の結果と実践を関連づけて探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

がん看護専門看護師の活動に同行し、スーパービジョンを受けながらがん看護専門看護師の役割、機能のあり方を学ぶ。

【実習施設】

鳥取大学医学部附属病院
松江赤十字病院

【実習時期】

2 年次前期 6～7 月のうち 10 日間

【評価】

実習記録の内容、課題レポート、事前レポート、実習計画書、実習への取り組み・態度、カンファレンスへの参加状況、実習指導者の意見等により総合的に判定する。

*実習は原則2単位90時間であるが、到達目標に達しない場合や実習内容が不足していると単位認定教員が判断した場合には実習期間の延長または追加的な実習を行うこととする。

4. 使用テキスト、参考文献等
実習要項を別途示す。

5. 教育内容

- 1) がん専門分野で看護チームと連携しながら患者ケアを実践するがん看護専門看護師と共に行動し、実際に学ぶ。
- 2) コンサルテーション場面に同席し、がん看護専門看護師の相談役割の実際に学ぶ。
- 3) がん看護専門看護師が円滑な継続ケアのために医療チームの中で多職種との連携調整を行う場面に同席する。
- 4) がん看護専門看護師が参加する倫理カンファレンスや倫理調整場面に同席する。過去の事例についても随時口頭で説明を受ける。
- 5) がん看護専門看護師によるがん専門領域の看護チームへの教育場面に同席する。
- 6) がん看護専門看護師が実施してきた研究とその背景、および看護師が行う研究に対する指導やサポートの実際について、随時口頭で説明を受ける。研究指導やサポートの場面があれば見学する。
- 7) 実習担当教員と実習指導者（がん看護専門看護師）を交えて複数回カンファレンスを行い、役割についての考察を深める。

がん看護学実習Ⅴ

単位数：2単位

時間数：90時間

開講年次及び学期：2年次後期

○若崎淳子	臨床看護学講座	教授
福田誠司	臨床看護学講座	教授
秋鹿都子	臨床看護学講座	准教授
上田恵巳	鳥取大学医学部附属病院看護部	がん看護専門看護師
奥野梨沙	鳥取大学医学部附属病院看護部	がん看護専門看護師
山崎かおり	鳥取大学医学部附属病院看護部	がん看護専門看護師
加藤由希子	松江赤十字病院看護部	がん看護専門看護師

1. 科目の教育方針

がん看護専門看護師としての役割遂行能力を体験的に養うことを目標とする。既習の講義や実習における学習内容を基盤として、がん患者とその家族のニーズに応じてがん看護専門看護師としての役割が果たせることを目指し、専門看護師の役割である実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究のうち、いくつかについて専門看護師の役割を実行する。実習施設において、がん看護専門看護師が貢献できる課題をアセスメントし、専門看護師が果たす役割を計画・実施・評価する。臨地において事例検討会やカンファレンス、臨床講義を主体的に企画、開催し、がん看護専門看護師の立場から看護活動を創意工夫する。そして、組織における看護活動を通じて、がん看護専門看護師の役割の実際を学び、がん看護専門看護師としての活動や姿勢、役割開発について考察する。

2. 教育目標(実習目標)

- 1) 実習病院において、以下に示すがん看護専門看護師の活動と役割について体験を通して実践的に学ぶ。
 - (1) 熟練した高度なケア技術とキュアの知識を用いたがん患者とその家族に対する卓越した看護の実践
 - (2) がん看護に関わる看護職者のニーズに応じたケアを向上させるための教育や指導
 - (3) 看護職者を含むケア提供者、関連職種からの相談への対応
 - (4) がん患者とその家族に対して、個別のニーズに応じた必要なケアが提供されるための保健医療福祉に携わる専門職者間の調整とリーダーシップ
 - (5) がん看護実践にある倫理的な問題や倫理的葛藤の明確化と倫理調整及び看護介入
 - (6) がん看護の向上と開発のための実践の場における自己啓発(研究を含む)
- 2) がん看護専門看護師としての活動や姿勢、がん看護実践における変革推進者としての機能を考え理解を深めて、さらなる役割開発について考察すると共に自己の課題を明らかにする。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 地域がん診療連携拠点病院で行われているがん看護実践を学び、がん看護専門看護師に必要な卓

越したがん看護実践能力を習得する。実習場所は、病棟及び外来(看護専門外来、外来化学療法室他)とする。

2) がん患者とその家族を取り巻く状況を実際的に理解し、がん看護専門看護師の役割である実践・教育・相談・調整・研究・倫理調整の視点からがん看護実践上の課題を探究する。

3) 実習生は実習に先立ち、指導教員の指導を受けながら下記5.の授業計画の内容を含む実習計画を策定のうえ臨地にて実習展開する。

4) 授業への臨み方

・実習生は実習に先立ち、指導教員の指導を受けながら以下の内容を含む実習計画を立案する。

(1) 実習施設においてがん看護に焦点を当てて看護活動や看護システム、他職種との連携について把握し、部署の機能の概要を把握する。

(2) がん看護専門看護師の役割を把握する。

①実践

②教育

③相談

④調整

⑤研究

⑥倫理調整

5) 実習施設：鳥取大学医学部附属病院、松江赤十字病院

6) 実習時期：2年次後期 10～11月のうち10日間

7) 評価

実習の目的目標に沿って、がん看護専門看護師の役割機能の習得と目標達成度を次の内容により総合的に評価する。

(1) 実習計画書

(2) 実習期間中に提出される実習記録の内容(がん看護専門看護師の役割遂行を重視する)

(3) 事例に係る看護過程展開状況

(4) カンファレンスや事例検討会における企画、討議参加・実施、評価の状況

(5) 課題レポート

(6) 出席状況：原則として実習時間のすべてに出席すること

(7) 実習への取り組み姿勢

(8) 自己評価

(9) 指導教員による評価

(10) 実習指導者による評価

*実習は原則2単位90時間であるが、到達目標に達しない場合や実習内容が不足していると単位認定者が判断した場合には実習期間の延長または追加的な実習を行なうこととする。

4. 使用テキスト・参考文献等

実習の手引きを別途示す。

5. 教育内容

- 1) がん患者とその家族に対して、治療・療養過程を統合し、エビデンスに基づく的確な臨床判断を行なって、がん患者とその家族のニーズに基づく卓越した看護を実践する。
- 2) がん看護に関わる看護職者のニーズをアセスメントし、それに応じてケアを向上させるための教育や指導を行なう。看護実践の質の向上に向けて、臨地において事例検討会やカンファレンス、臨床講義を主体的に企画し実施する。
- 3) 看護職者を含むケア提供者、関連職種からの相談に対応する。
- 4) がん患者とその家族に対して、個別のニーズに応じた必要なケアが提供されるための保健医療福祉に携わる専門職者間の調整を行ない、がん医療におけるリーダーシップを発揮する。
- 5) がん看護実践にある倫理的な問題や倫理的葛藤を明確化し、倫理調整及び看護介入を行なう。
- 6) がん看護の向上と開発のために、実践の場において自己啓発を試みる(研究を含む)。
※以上の1)～6)についてはいくつかを実行する。
- 7) がん看護専門看護師の役割を実行後、自己の役割遂行について評価する。
- 8) 組織における実践を通じて、がん看護専門看護師が備えるべき役割遂行能力を培い、看護実践の質の向上に向けて、看護活動を創意工夫する。
- 9) 実習を通してがん看護専門看護師としての活動や姿勢、がん看護実践における変革推進者としての機能を考え、さらなる役割開発について考察する。

リスクマネジメント論

単位数：2単位

○宮本まゆみ：基礎看護学講座講師

内田宏美：基礎看護学講座教授

川上利枝：島根大学医学部付属病院 GRM

1. 科目の教育方針

医療安全管理体制の整備が診療報酬システム上でも制度化され、医療リスクマネジメントを推進するための基盤は一応整ったといえる。しかし、高度化・複雑化する医療におけるリスクは増大し続けており、リスクマネジメントの効果的な展開のための理論的方法を構築する必要に迫られている。本科目では、臨床現場の医療安全推進者に照準を当て、組織横断的なネットワークを基盤としたリスクマネジメントの理論的な方法に重点を置いて学習する。

2. 教育目標

- 1) 医療リスクマネジメントの理念・概念・理論・基本的な方法を理解する。
- 2) 現場の医療安全推進者としての活動の遂行に必要な基礎的知識と技術を修得する。
- 3) 医療安全管理者に求められる知識と・技術を理解し、その役割を展望する。
- 4) 医療安全の遂行における情報ネットワークの必要性・重要性を理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 基本テキストを熟読し、自ら文献検討を行い、問題意識を持って授業に臨む。
- 2) 臨床現場の取組みを批判的に分析し、ディスカッションをふまえて課題を解決するための改善策を見出す。

【評価】

評価は授業への主体的参加度、課題学習、プレゼンテーション、課題レポート等により総合的に行う。

4. 使用テキスト、参考文献等

1) 基本テキスト

- (1) Lコーン他編：人は誰でも間違える、日本評論社、2000
- (2) アン・ベイジ編：患者の安全を守る、日本評論社、2006
- (3) 河野龍太郎：医療におけるヒューマンエラー、医学書院、2004

2) 参考図書

- (1) 米国医療の質委員会/医学研究所編：医療の質・谷間を超えて 21世紀システムへ、日本評論社、2002
 - (2) 嶋森好子・他：病棟から始めるリスクマネジメント、医学書院、2003
 - (3) 内田宏美・他：実践から学ぶ病院リスクマネジメント、診断と治療社、2005
 - (4) Jリーズン：保守事故－ヒューマンエラーの未然防止のマネジメント、日科技連、2005
- *その他、授業の中で適宜紹介する。

5. 教育内容

※後期(木)13:00～14:40

回	月/日	内 容	講師
1	<u>6/9(日)</u> <u>10:30～</u>	※ 米子市 鳥取大学医学部記念講堂 医療リスクマネジメントの実際(山陰リスクマネジメント研究会) 医療安全ネットワーク構築の実際	宮本
2	<u>15:30</u>		
3	<u>10/18(金)</u> <u>14:55～</u>	我が国の医療安全の取り組みの経緯 医療安全管理の理念と方法 実践から学ぶ病院リスクマネジメント 医療安全管理者の役割と責務	内田
4	<u>18:30</u>		
5	10/24	リスクマネジメントの理論と方法：基礎文献講読&ディスカッション ・「TO ERR IS HUMAN」	宮本
6	10/31	リスクマネジメントの理論と方法：基礎文献講読&ディスカッション ・「TO ERR IS HUMAN」	宮本
7	11/7	リスクマネジメントの理論と方法：基礎文献講読&ディスカッション ・「TO ERR IS HUMAN」	宮本
8	11/14	リスクマネジメントの理論と方法：文献講読&ディスカッション ・「患者の安全を守る-医療・看護の労働環境の変革」	宮本
9	11/21	リスクマネジメントの理論と方法：文献講読&ディスカッション ・「患者の安全を守る-医療・看護の労働環境の変革」	宮本
10	11/28	リスクマネジメントの理論と方法：文献講読&ディスカッション ・「患者の安全を守る-医療・看護の労働環境の変革」	宮本
11	12/5	リスクマネジメントの理論と方法 ・ヒューマンエラーの原理 ・エラー分析の手法	川上
12	12/12	リスクマネジメントの理論と方法 ・事例検討：背景要因の分析と事故防止対策の立案	川上
13	12/19	リスクマネジメントの理論と方法 ・事例検討：背景要因の分析と事故防止対策の立案	川上
14	1/9	リスクマネジメントの理論と方法 ・事例検討：背景要因の分析と事故防止対策の立案	川上
		課題レポート 〆切 1/16(木) ：医療安全における看護専門職の責務と課題	宮本

看護人材育成論

単位数：2 単位

○津本優子：基礎看護学講座教授

任 和子：京都大学大学院医学研究科
人間健康科学系専攻教授

1. 科目の教育方針

専門職としての看護職は、時代の変化に対応して、幅広い視点から社会の健康問題を捉え、自ら課題に取り組み、自らの役割を開拓していかなければならない。特に、CNS をはじめとする大学院修了者には、看護継続教育を企画し運営して、看護専門職の人材育成においてリーダーシップを発揮することが期待されている。

本科目では、専門職としての生涯学習の観点から、看護基礎教育の基盤の上に看護実践能力を効果的に発展させるための看護継続教育の考え方と方法を、理論的根拠に基づいて学習する。さらに、実際の教育計画を批判的に分析し、改善点を反映した教育計画を検討することを通して、人材育成と活用に必要な洞察力や判断力、問題解決能力を養う。

2. 教育目標

- 1) 看護学の基礎教育及び継続教育の歴史と現状、課題を理解する。
- 2) 看護専門職のキャリア開発における基本概念、理論を理解する。
- 3) 看護継続教育の実際を批判的に分析し、改善すべき課題を明確化できる。
- 4) ジェネラリスト育成のモデルプランを作成できる。
- 5) スペシャリスト活用における課題を明確化し、対策を提示できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) ゼミナール形式で行う。
- 2) 学生の課題に対するプレゼンテーションに基づいて討論し、学習を深める。

【評価】

評価は出席、授業の参加度、プレゼンテーションの内容、レポートを総合的に評価する。

4. 参考文献等

- 1) 小山真理子編集、看護教育の原理と歴史、医学書院、2003.
- 2) P. ベナー（井部俊子訳）：ベナー看護論、医学書院
- 3) 平井さよ子：看護職のキャリア開発、変革期のヒューマンリソースマネジメント、日本看護協会出版会、2002
- 4) 渡辺三枝子編著『新版 キャリアの心理学』ナカニシヤ出版、2007
- 5) エドガー H. シャイン『キャリア・アンカー 自分の本当の価値を発見しよう』白桃書房、2003

*その他 随時、授業で紹介する

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	10/3	看護教育・看護学教育の歴史的考察 看護継続教育をめぐる動向と展望及び課題	津本
2・3	10/4 (金) 12:30- 16:00	看護人材育成と活用の実際 ・ジェネラリストの育成と活用の実際と課題 ・スペシャリスト育成と活用の実際と課題	任
4	10/10	専門職業人とキャリア 1) 専門職の概念 2) 生涯発達心理学の視点とキャリア 3) 専門職業人としての看護職のキャリア・ディベロップメント	津本
5	10/17	看護専門職業人の育成 1) ベナー看護論 2) ベナー看護論の活用：クリニカルラダー・システム ①ラダーの段階 ②臨床実践能力の3側面	津本
6	10/24	看護専門職業人の育成 3) クリニカルラダーによるジェネラリストの育成 ③卒後継続教育の視点と方法	津本
7	10/31	看護専門職業人の育成 3) クリニカルラダーによるジェネラリストの育成 ④新人～一人前看護師の看護実践能力育成の視点・方法・課題	津本
8	11/7	看護専門職業人の育成 3) クリニカルラダーによるジェネラリストの育成 ⑤中堅～ベテラン看護師の臨床実践能力育成の視点・方法・課題	津本
9	11/14	看護専門職業人の育成 4) 専門看護師の教育的機能、スペシャリストの育成と課題 5) 看護管理者、教育研究者の育成と課題	津本
10	11/21	継続教育の展開 ・教育を支える学習理論 ・看護学教育における教授法 ・評価の目的・プロセスと種類・評価方法	津本
11	11/28	ラダーシステムによる教育プログラムの作成（演習） ・現行教育プログラムの課題	津本
12	12/5	・臨床実践能力の帰納的分類、実践能力育成課程の構造化	
13	12/12	・教育目標・教育方法・評価方法の設定 (新卒看護師・一人前看護師・中堅看護師)	
14	12/19	・ジェネラリストとスペシャリストの協働モデルの検討	

学外講師の担当コマは集中で行う。

看護情報管理論

単位数：2単位

○津本優子：基礎看護学講座教授

石垣恭子：兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科教授

1. 科目の教育方針

看護実践における情報収集・処理、問題の選択・抽出、優先順位の決定、実施、評価という基本過程に十分な検討を加え、地域社会、在宅日常生活における、地理的、時間的、空間的事象をつなぐ情報特性を用いた連携、継続、システム構築におけるの理論、手技を看護基礎科学分野の一部として位置づけ、教授する。

2. 教育目標

- 1) 看護と情報に関する基本的知識を深める。
- 2) 看護情報システムの在り方や構築方法について理解する。
- 3) 看護情報の標準化について適用を試みる
- 4) 看護情報教育について現状を知り、情報教育の在り方を認識する。
- 5) 地域医療情報システムについて理解し、認識を深める。
- 6) 情報倫理と個人情報保護法について理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 基本テキストより、分担課題に関する事前学習を行い、パワーポイント、資料を用いて、担当学生がプレゼンテーションを行なう。
- 2) プレゼンテーション後ディスカッションを行ない、教員が当該分野について補足説明及び講義を行ない、理解を深める。
- 3) 海外文献の講読を行い、関連分野の知見を広げる。

【評価】

授業への主体的な参加（発言等）の程度、課題レポート等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

- 1) テキスト：キャサリン・Jハンナ他：看護情報学への招待、中山書店
※絶版になっているため、入手できなくてよい
- 2) 参考文献
日本医療情報学会誌他、講義中に紹介、アドバイスする

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/11	課題分担の決定 情報科学の基礎 1	津本
2	4/18	情報科学の基礎 2	津本
3	4/25	看護情報学教育と専門職性	津本
4	5/9	看護情報と EBN ・看護系学会ホームページと文献検索システム ・看護情報の分析とデータマイニング	津本
5	5/16	看護情報学の成立と看護情報の特徴と分析	津本
6	5/23	病院・看護システム開発 ・システムの基本 コンピュータシステムの開発・手順	津本
7	5/30	看護データの標準化 ・看護情報の標準化例 NANDA NIC NOC OMAHA ICNP	津本
8・9		情報倫理と患者情報 ・看護情報を研究に使用する際のガイドライン ・守秘義務と患者情報の取り扱い・個人情報保護法	石垣
10・11		看護データの標準化 ・看護電子記録のための看護用語の標準化 ・標準看護用語、MEDIS 開発例と手順 看護データの標準化 ・データの集積と活用システムの構築	石垣
12		病院・看護システム開発 ・看護における情報システムの適用	津本
13		病院・看護システム開発 ・システムの基本 コンピュータシステムの開発・手順	津本
14・15		保健情報学と地域社会 ・行政における保健、医療、福祉情報システム ・介護保険とコンピュータシステム・遠隔看護とシステム	石垣
		課題レポートの提出 ・各自の分担部分を深め、考察を加えてレポートを作成する	津本

※6月以降の日程は、講義内で提示します。 なお、非常勤講師の担当コマは、時間割とは異なる時間になることがあります。

- 小笹美子：地域・老年看護学講座 教授
岸恵美子：東邦大学看護学部 教授
牧野由美子：島根県出雲保健所 所長
馬庭恭子：元 YMCA 訪問看護ステーション地域看護 CNS
榊原文：地域・老年看護学講座 講師

1. 科目の教育方針

看護管理者、CNS や大学院修了者などの高度看護実践者には、社会のヘルスニーズに対して看護の仕事の仕組みを自ら変革し、創造していく能力、保健医療福祉等の関連サービスに携わる人々と連携・協働して活動する実践能力が求められる。さらには、問題の本質的解決のために必要な施策を提示し、制度化に繋いでいくマネジメント能力が求められる。

少子高齢化社会のヘルスニーズに対応する保健医療福祉システムとその基盤となる制度・政策の動向と課題を踏まえて、現状を分析し、改善・改革すべき問題に焦点を当て、データに基く改善・改革策を行政機関等に提示しうる基礎的能力を培う。

2. 教育目標

- 1) 少子高齢化が進行する我が国の保健医療福祉政策の動向を理解し、国民の健康の保持増進を支える政策・制度の重要性と課題について考察する。
- 2) 我が国の看護制度の歴史的変遷を理解し、国民の健康を支えるための、看護政策・制度の課題を考察する。
- 3) 高齢者ケアに関連した保健医療福祉の現場の現状を分析し、データに基づいて改善・改革を提言する経験を通して、公的機関や組織の意思決定に影響を与える戦略的アプローチの方法を習得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【進め方】

- 1) 自ら文献検討および資料収集を行い、問題意識を持って授業に臨むことを前提とする。
- 2) 人々の健康生活の維持・向上の観点から現状を分析し、意思決定者を巻き込んでシステム改善や制度改革によって問題の根本的解決を図る、戦略的アプローチを試みる。

【評価】

・プレゼンテーション、レポートの緻密さ・的確さ・論理性等により総合的に判断する。

4. テキスト

- 1) 国民衛生の動向(2018年8月に出版されたもの)
- 2) 見籐隆子、石田昌宏、大串正樹、他：看護職者のための政策過程入門 第2版一制度を変えると看護が変わる一、日本看護協会出版会

《参考資料》

- ・国民の福祉と介護の動向、保険と年金の動向
- ・井部俊子他監修『看護管理学習テキスト⑦ 看護制度・政策論』日本看護協会出版会

5. 教育内容

※ 後期(木)18:30~20:00 および集中講義

回	月/日	内 容	講師
1	<u>9/7(土)</u> <u>11:00-</u> <u>12:30</u>	看護政策の課題と展望 (1) 我が国の保健・医療・福祉制度の変遷 ・医療保険制度、診療報酬の仕組み、 ・高齢者の健康を支える訪問看護制度・療養通所介護	小笹 榊原
2	<u>9/7(土)</u> <u>13:30-</u> <u>16:45</u>	超高齢社会であるわが国の社会政策・制度 1) 超高齢社会における社会保障のあり方と課題 ・保健医療福祉政策の歴史的変遷 ・社会保障と税の一体改革	牧野
3		2) 超高齢社会の保健医療福祉を支える制度 ・後期高齢者医療制度とその改革 ・島根県の超高齢化の進展と保健医療政策	
4	9/26(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例1 発表と討議	小笹 榊原
5	<u>9/28(土)</u> <u>9:30-</u> <u>12:45</u>	看護政策の課題と展望 (2) ・高齢者を取り巻く保健医療制度 ・認知高齢者ケアの充実	岸
6		・高齢者の健康生活を支える地域ネットワーク ・高齢者の生活課題と看護学研究	
7	10/10(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例2 発表と討議	小笹 榊原
8	10/17(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例3 発表と討議	小笹 榊原
9	<u>10/26(土)</u> <u>9:30-</u> <u>14:30</u>	超高齢化社会であるわが国のヘルスケアニーズと看護 * 超高齢社会の保健医療福祉の中での看護職の役割 ・病院から地域へ：総合看護・継続看護で健康生活を支える ・end of lifeを支える：訪問看護、在宅、施設における看護の充実 ターミナルケアの充実 ・看護のパワーを政策に生かす	馬庭
10			
11			
12	10/31(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例4 発表と討議	小笹 榊原
13	11/7(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例5 発表と討議	小笹 榊原
14	11/14(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例6 発表と討議	小笹 榊原
15	11/21(木)	看護職と看護政策 看護の質保証の仕組みと課題	小笹
		課題レポートの提出 12月19日(木) 〆切	

都合により日程を変更することがある。

母子フィジカルアセスメント方法論

単位数：2単位

○福田 誠司：臨床看護学講座 教授
秋鹿 都子：臨床看護学講座 准教授
橋本 美幸：臨床看護学講座 准教授
松浦 志保：臨床看護学講座 講師

1. 科目の教育方針

母子を対象とした看護を実践するにあたっては、フィジカルアセスメント能力は非常に重要である。本科目では、母性および小児の健康問題を理解するために必要なフィジカルアセスメントの専門的技術と知識を学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 母性の健康問題の理解に必要なフィジカルアセスメント技術と知識を修得する。
- 2) 小児の健康問題の理解に必要なフィジカルアセスメント技術と知識を修得する。
- 3) 生殖に関連する倫理的問題を理解し、支援できる能力を養う。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義および学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

講義への参加状況、プレゼンテーション内容、レポートにて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

講義の中で適宜提示、資料を配布する。

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	母子看護におけるフィジカルアセスメントの目的、意義	福田、秋鹿
2	アレルギー疾患をもつ小児のフィジカルアセスメント	秋鹿 (羽根田)
3	循環器疾患をもつ小児のフィジカルアセスメント	福田(安田)
4	新生児疾患をもつ小児のフィジカルアセスメント	福田(柴田)
5	血液疾患をもつ小児のフィジカルアセスメント	福田(金井)
6	神経疾患をもつ小児のフィジカルアセスメント	福田(束本)
7	小児のフィジカルアセスメント	福田
8	感染症をもつ小児のフィジカルアセスメント	福田
9	婦人科疾患を持つ女性のフィジカルアセスメント	橋本、松浦
10	遺伝的疾患をもつ小児の診断技術（遺伝カウンセリング）	福田
11	糖尿病をもつ妊婦のフィジカルアセスメント	橋本、松浦
12	超音波による診断技術	橋本、松浦
13	小児のフィジカルアセスメント（症例検討）	福田、秋鹿
14	母性フィジカルアセスメント（症例検討）	橋本、松浦、 秋鹿
15	母子フィジカルアセスメント（症例検討）	橋本、松浦、 秋鹿

重症者フィジカルアセスメント方法論

単位数：2単位

橋本 龍樹：臨床看護学講座教授

1. 科目の教育方針

重症・急性期における生体反応の病態生理を理解し、高齢者に多い疾患を含めた各種疾患における臨床的なアセスメントの方法論を学び、科学的根拠に基づく看護を行うための基礎的事項から最新の知識を学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 重症者における血糖管理と重症糖尿病患者の管理
- 2) 急性期神経疾患のアセスメント
- 3) 循環器系のアセスメント
- 4) 呼吸器系のアセスメント
- 5) 泌尿器系のアセスメント消化器系のアセスメント
- 6) 重症精神疾患患者における管理
- 7) 皮膚疾患、全身疾患における皮膚のアセスメント
- 8) 口腔機能のアセスメントと口腔ケア
- 9) 嚥下機能のアセスメント
- 10) 運動器疾患の病態・アセスメント・治療
- 11) 消化器系のアセスメント
- 12) PEGによる高齢者の栄養管理
- 13) 高齢者におけるPEMのアセスメントと対策（NSTの活動を通して）
- 14) 生命の危機状態にある高齢患者の全身管理
- 15) 手術侵襲による高齢者の生体反応と回復過程を理解する

3. 教育方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義形式を基本とする。教育内容によっては、医学部臨床系講座の先生方（ゲストスピーカー）に、問診（症状の成り立ち）、身体診察、病態解析に必要な検査手技などをわかりやすく解説していただく。

【評価】

評価は講義への参加状況とレポートなどで行う。

4. 使用教科書、参考書等

教科書、参考書等は指定せず、各教員が資料または文献を配布する。

5. 教育内容

回		内 容	講師（ゲストスピーカー）
1	4月16日	重症者における血糖管理と重症糖尿病患者の管理	橋本 (内分泌代謝内科・田中)
2	5月7日	循環器系のアセスメント	橋本 (循環器内科・田邊)
3	5月28日	皮膚疾患、全身疾患における皮膚のアセスメント（褥瘡を中心に）	橋本 (皮膚科・森田)
4	6月4日	嚥下機能のアセスメント	橋本 (リハビリテーション部・蓼沼)
5	6月18日	急性期にある高齢患者の口腔機能のアセスメントと口腔ケア	橋本 (口腔外科・管野)
6	6月25日	「PEGの適応・造設・管理－空腸瘻、PTEGも含めて－」	橋本 (消化器内科・川島)
7	7月2日	栄養ケア・マネジメント	橋本 (栄養治療部・平井)
8	7月9日	泌尿器系のアセスメント (高齢者における尿失禁の診療を中心に)	橋本・ (泌尿器科・洲村)
9	7月23日	運動器疾患(骨粗鬆症・高齢者の骨折)の病態・アセスメント・治療	橋本 (整形外科・内尾)
10	7月30日	呼吸器系のアセスメント	橋本 (呼吸器・臨床腫瘍学・磯部)
11	7月10日	消化管出血患者の内視鏡止血から全身管理、再発予防まで	橋本 (消化器内科医師)
12	7月19日 (金)	急性期神経疾患のアセスメント	橋本 (神経内科・小黒)
13	8月6日	手術侵襲による高齢者の生体反応と回復過程	橋本 (手術部・片山)
14	8月8日 (木)	重症精神疾患患者における管理 (せん妄への対応を含む)	橋本 (精神神経科・大拙)
15	8月20日	生命の危機状態にある高齢患者の全身管理	橋本 (Acute care surgery・渡部)
<p>講義は、原則として 火曜日 16:50～18:20 N502 演習室で行います。 第1回講義は4月16日に行います。7月19日金曜日 16:50～18:20、8月8日木曜日 16:50～18:20 に行います。講義担当者の都合により、講義担当者が変更となる場合があります。 予備日：8/28</p>			

高齢者看護実践論

単位数：2 単位

○原 祥子：地域・老年看護学講座教授
加藤 真紀：地域・老年看護学講座准教授
泉 キヨ子：帝京科学大学医療科学部看護学科教授

1. 科目の教育方針

複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族について、専門的知識と理論に基づいて判断し、問題解決へ向けた看護援助ができる能力を開発する。また、高齢者のセルフケアを支援する看護について再考するとともに、高齢者と家族へのヘルスケア提供モデルについて探究する。

2. 教育目標

- 1) 複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族について、総合的なアセスメントに基づいて判断できる能力を養う。
- 2) 高齢者とその家族の健康レベルに応じた看護援助の実際を学ぶ。
- 3) コンフォート理論の高齢者看護実践への適用の実際と可能性について探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。
- 2) 関連文献をレビューしたレポートをもとにプレゼンテーションを行い、最新の研究・実践の動向を踏まえた討論を展開する。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 上田敏：ICF（国際生活機能分類）の理解と活用，きょうされん，2005.
- 2) 大川弥生：介護保険サービスとリハビリテーション
ーICF に立った自立支援の理念と技法ー，中央法規，2004.
- 3) キャサリン・コルカバ：コルカバ コンフォート理論，医学書院，2008.
- 4) 泉キヨ子：エビデンスに基づく転倒・転落予防，中山書店，2005.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1 (4/11)	高齢者特有の健康問題と生活機能障害 ・老年病の特徴 ・老年症候群	原
2 (4/18)		
3 (4/25)	国際生活機能分類（ICF）の視点に基づくアセスメントと看護 ・ICFモデルの基本的特徴、実践的意義、今後の課題 ・低運動による弊害（廃用症候群）の予防・克服の具体的な進め方 ・目標指向的アプローチ	原
4 (5/9)		
5 (5/16)		
6 (5/23)	高齢者/家族へのヘルスケア提供モデル：コンフォート理論 ・高齢者看護におけるケアの枠組みとコンフォートの概念 ・コンフォート理論の高齢者ヘルスケア実践への適用 ・看護師/ヘルスケア提供者のコンフォートに焦点を当てたモデルの分析 ・コンフォート理論を活用した高齢者/家族ケアの展開 （事例検討）	加藤
7 (5/30)		
8 (6/13)		
9 (6/20)		
10 (6/27)	ICFの視点に基づく目標指向的アプローチの実際（事例検討）	原
11 (7/4)		
12	高齢者リハビリテーション看護学 ・概念と原理、新しい障害モデル ・高齢者特有のニーズの査定	泉
13		
14	高齢者の転倒予防と看護の視点 ・転倒リスクアセスメントツールの活用と転倒予防ケア	泉
15	高齢者看護の実践的課題と展望	原

認知症看護論

単位数：2 単位

○原 祥子：地域・老年看護学講座教授
浦上 克哉：鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座教授
吉岡佐知子：松江市立病院副看護局長（老人看護 CNS）
島根大学医学部臨床看護教授

1. 科目の教育方針

認知症高齢者とその家族の生活環境や生活活動の調整、家族関係の調整のための具体的援助、それらに関する看護職への教育、看護職を含むケア提供者に対する相談、保健医療福祉ニーズのケア調整、倫理的課題への調整の機能を果たすことのできる能力を開発する。

2. 教育目標

- 1) 認知症の診断（評価）と病態像及び障害像、最新の治療について理解する。
- 2) 認知症の人の障害像から生活に及ぼす影響について適切に判断できる能力を養う。
- 3) 認知症の種類、症状、経過にそった、生活環境調整・生活活動調整・家族関係の調整に関する看護援助に関する理論と実際を学ぶ。
- 4) 認知症高齢者ケアにかかわるスタッフへの教育・相談の実際を学ぶ。
- 5) 認知症高齢者とその家族に対する資源の活用の実際を学ぶ。
- 6) 認知症高齢者の人権擁護と倫理的調整の実際を学ぶ。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度、課題レポート（テーマ：認知症看護をめぐる課題・背景要因・課題解決のための方略の提言）等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 小澤勲：認知症とは何か，岩波書店，2005.
- 2) 池田学：認知症，中公新書，2010.
- 3) クリスティーン・ボーデン：私は誰になっていくの？，クリエイツかもがわ，2003.
- 4) 浦上克哉：これでわかる認知症診療（改訂第2版），南江堂，2012.
- 5) トム・キッドウッド（高橋誠一訳）：認知症のパーソンセンタードケア，筒井書房，2005.
- 6) 中島紀恵子，他編著：認知症の人びとの看護 第3版，医歯薬出版，2017.
- 7) 児玉桂子，他編：痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり，彰国社，2003.
- 8) Jacqueline Kindell（金子芳洋訳）：認知症と食べる障害，医歯薬出版，2005.
- 9) ビッキー・デグラー・ルビン：認知症ケアのバリデーション・テクニック，筒井書房，2009.
- 10) 日本神経学会監修：認知症疾患治療ガイドライン 2010 コンパクト版 2012，医学書院，2012.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1 (10/1)	認知症の概念と定義 認知症とともに生きる人の理解	原
2 (10/1)	認知症高齢者看護の専門性と役割	原
3	認知症をきたす疾患への理解	浦上
4	認知症の治療と今後の展望	浦上
5	認知症高齢者のアセスメントと看護援助 ・生活環境・生活活動の調整	原
6	・認知症高齢者に対するアクティビティケアの理念と実際 (回想法、ライフストーリー・アプローチ、リアリティ・オリエンテーションを含む)	
7	パーソンセンタードケアの理論と実践 *講義と討論 ・「その人らしさ」の概念、理論の背景 ・パーソンセンタード・アプローチの展望と評価	原
8	・認知症ケアにおける課題：相互行為の質の改善 ・パーソンセンタードケアを実践するための組織上の課題 ・職員のケアと教育、チーム作り	
9	認知症ケアにおけるアセスメントとケアマネジメント ・認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式 ・グループホーム・在宅における認知症ケアの実際と質評価	原
10	認知症ケアと薬物療法	原
11	認知症者に対する療法プログラムやアプローチ・アクティビティケアの理念と実際 (回想法(ライフレビュー)、バリテーション・テクニック、園芸療法、アートセラピーなど) *療法プログラム等から1つを選択、文献(実践報告を含む)検討のうえプレゼンテーション	原
12	認知症高齢者の人権と生活を支える制度、適切な資源の活用 事例検討 *討論	原
13	認知症高齢者ケアにおける老人看護 CNS の実践・相談・教育の実際 ・生活環境と生活活動の調整	吉岡
14	・認知症高齢者の介護家族支援と家族関係の調整	
15	認知症高齢者ケアにおける倫理調整の実際 ・認知症ターミナルケアの倫理的課題を含む	吉岡

高齢者在宅ケアシステム論

単位数：2単位

- 原 祥子：地域・老年看護学講座教授
谷垣静子：岡山大学大学院保健学研究科教授
高山成子：金城大学看護学部教授
三輪恭子：よどきり医療と介護のまちづくり株式会社 取締役
まちケア事業部 部長（地域看護 CNS）
竹田裕子：地域・老年看護学講座講師

1. 科目の教育方針

高齢者・在宅療養者の健康生活をサポートしているケアシステムの現状を理解し、それらを活用するための理論と実際を学ぶ。また、専門的知識と理論に基づいて高齢者のサポートシステムを組織化する方法を修得し、サポートシステムを発展させることのできる能力を開発する。

2. 教育目標

- 1) 高齢者サポートシステム及び在宅ケアシステムの現状について理解できる。
- 2) ケアマネジメント実践の基礎的知識と理論に基づいたケアプラン立案と実施・評価までの一連の実践方法を学ぶ。
- 3) 高齢者・在宅ケアにおける連携システムづくりについて考察できる。
- 4) 病院・施設と在宅をつなぐ専門看護師の機能について理解できる。
- 5) 高齢者のサポートシステムを発展させる方法について考察できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度、課題レポート等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 宇都宮宏子，三輪恭子編：これからの退院支援・退院調整，日本看護協会出版会，2011.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	地域ケアシステムと社会資源（概論） 身体・知的・精神の三障害とサービス体系 セルフヘルプグループ及びソーシャルサポートの理論と実際	谷垣
2	高齢者を取り巻く状況と高齢者サポートシステム わが国における地域包括ケアシステムと諸外国の状況	谷垣
3 (10/7)	ケアマネジメントの実践と理論 歴史的経緯と発展過程、ケアマネジメントの定義 構成要素と展開のプロセス	原
4 (10/7)		
5 (10/21)	介護保険制度とケアマネジメント 介護保険制度改革の概要 要介護認定の理論的根拠、介護ニーズの客観的評価	竹田
6 (10/21)		
7 (10/28)	インフォーマルサポートの種類・機能とその活用 インフォーマルサポート・ネットワークの現状と課題	原
8 (10/28)	高齢者・在宅ケアにおける連携とチームアプローチ 超高齢社会における地域包括ケアシステムの構築と多職種連携・協働	原
9	高齢者の健康と生活を支えるための社会資源とサポートシステム 認知症高齢者に焦点をあてて	高山
10		
11	病院・施設と在宅をつなぐ専門看護師の機能 高齢者の在宅移行および在宅療養継続におけるアプローチ 退院支援の実際、事例検討 サポートシステムの組織化とその活用のあり方 チーム医療と Interprofessional Work (IPW)	三輪
12		
13		
14		
15	高齢者のサポートシステムを発展させる方法	原

がん看護病態生理治療学

単位数：2 単位

時間数：30 時間

開講年次及び学期：1 年次前期

○福田誠司	臨床看護学	臨床遺伝診療部	教授
浦野 健	病態生化学		教授
原田 守	免疫学		教授
鈴宮淳司	先端がん治療センター	腫瘍血液内科	教授
磯部 威	呼吸器化学療法内科学		教授
京 哲	産科婦人科学		教授
田島義証	消化器総合外科学		教授
板倉正幸	乳腺外科		臨床教授
鈴木律朗	先端がん治療センター	腫瘍血液内科	准教授
津端由佳里	先端がん治療センター	呼吸器化学療法内科	講師
玉置幸久	放射線治療学		講師

1. 科目の教育方針

分子標的療法や優れた支持療法の開発に伴い、がんの治療成績は一昔前に比べて改善し、必ずしも死の病ではなくなった。しかし、日本人の二人に一人は何らかのがんに罹患し、死亡原因の一位はがんである。したがって、がんに関わる看護職のニーズは今後益々増加すると予想される。がん患者に対する看護に必要な専門能力を高めるためには、がんの病態を知り、病態に基づいた理論的な治療法とそれらの限界を理解することが求められる。即ち、がん細胞は正常の細胞と比較して何が異なるのか、その結果どのようなことが体内で起きるのか、それらに対してどのように治療戦略が立てられるのか、そして治療に限界が生ずるとすれば原因は何かを理論的に理解する必要がある。本科目では、がんの発生、増殖、分化機構の破たん、転移浸潤、治療抵抗性など、治療や予防に関わるがん細胞特有の分子機構を学び、それらに基づいた治療法と合併症を深く理解することを目指す。

2. 教育目標

- 1) がんの発生に関わるゲノム異常、染色体異常を理解し、説明できる。
- 2) がん幹細胞とがんの進化、がん細胞の多様性を理解し、説明できる。
- 3) がんの微小環境とがん細胞の相互作用を理解し、説明できる。
- 4) 免疫機構の破たん、炎症、感染ががんの発生に関わる分子機構を理解し、説明できる。
- 5) がんの増殖機構と薬剤抵抗性の分子機構を理解し、説明できる。
- 6) がんの転移、浸潤に関わる分子機構を理解し、説明できる。
- 7) がん薬物療法の原理、限界、副作用を理解し、説明できる。
- 8) 分子標的療法の理論的根拠を理解し、説明できる。
- 9) 造血幹細胞移植の目的、意義、方法と合併症を理解し、説明できる。
- 10) がんゲノム医療の目的、意義、方法、限界を理解し、説明できる。

- 11) 固形腫瘍の病態と治療法を理解し、説明できる。
- 12) 造血器腫瘍の病態と治療法を理解し、説明できる。
- 13) オンコロジー・エマージェンシーの原因と対応を理解し、説明できる。

3. 教育の方法、進め方、評価

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

授業毎に課題を提示し、レポートを提出する。内容を教育目標に基づいて評価する。出席状況と授業への積極的参加も加味して評点する。

4. 使用テキスト

- 1) 日本臨床腫瘍学会編集「新臨床腫瘍学」改訂第4版 南江堂
- 2) DeVita, Hellman, & Rosenberg's Cancer, 10th edition. Principles & Practice of Oncology WOLTERS KLUWER

5. 教育内容・授業計画

回	内 容	担 当
1	がん細胞とは何か? 総論と overview	福田誠司
2	がん細胞のゲノム異常とエピジェネティクス	浦野 健
3	がん細胞の増殖、転移、薬剤抵抗性の分子機構	浦野 健
4	がん細胞と炎症、がん細胞の免疫逃避機構	原田 守
5	がんゲノム医療と遺伝性がん	福田誠司
6	がん薬物療法と分子標的療法の原理と実際	津端由佳里
7	がん放射線治療の原理と実際	玉置幸久
8	造血幹細胞移植の原理と実際	鈴木律朗
9	乳がんの病態生理と治療	板倉正幸
10	肝臓がん、すい臓がんの病態生理と治療	田島義証
11	肺がんの病態生理と治療	磯部 威
12	大腸がん、胃がんの病態生理と治療	田島義証
13	子宮がん、卵巣がんの病態生理と治療	京 哲
14	造血器腫瘍の病態生理と治療	鈴宮淳司
15	オンコロジー・エマージェンシーの原因と対応	福田誠司

がん看護学援助論

単位数：2 単位

時間数：30 時間

開講年次及び学期：1 年次前期

○秋鹿都子	臨床看護学講座 准教授
若崎淳子	臨床看護学講座 教授
福田誠司	臨床看護学講座 教授
掛橋千賀子	姫路大学看護学部 特任教授
安田千香	県立広島大学看護学科 助教 がん看護専門看護師
坂井淳恵	岡山ろうさい病院がん相談支援センター がん看護専門看護師
今岡恵美	島根大学医学部附属病院看護部 副看護師長 緩和ケアチーム 緩和ケア認定看護師

1. 科目の教育方針

がん患者の治療・療養過程における複雑な健康問題について理解し、その特性を考慮した問題のアセスメントと専門的看護ケアを提供するために必要な援助方法を学ぶ。そして、がん患者と家族のQOL 向上をめざした包括的な支援としてのチームアプローチや専門性の高い看護援助方法について探究する。

2. 教育目標

- 1) がん患者と家族の治療・療養における様々な状況・局面での意思決定プロセスについて学び、がん患者と家族の意思決定支援に向けた看護援助について探究する。
- 2) がん患者・家族を中心としたチームアプローチについて理解し、専門性の高い看護援助について探究する。
- 3) がんの予防、スクリーニング、早期発見について学び、その支援方法について探究する。
- 4) がん患者の治療に伴う全人的苦痛・苦悩について理解し、看護援助について探究する。
- 5) がん患者の生活や社会的役割をふまえた理解と看護援助について学び、その実践について探究する。
- 6) がん患者・家族とのコミュニケーションについて学び、その実践について探究する。
- 7) がんサバイバーの長期的影響について理解し、時期ごとの支援について探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 授業では講義の他、受講生各自のレポート内容に基づいたプレゼンテーションやディスカッションを行う。
- 2) 授業への臨み方
 - ・がん患者と家族の生活の質を高める看護実践ができるための知識と問題解決能力が身につくよう、目的・問題意識をもって授業に臨むこと。
 - ・がん患者やがん医療・看護に関する最新情報について、文献等から主体的に学習すること。
- 3) 評価
レポート 50%、講義への参加状況 30%、プレゼンテーション内容 20%にて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

国立がん研究センター内科レジデント編：がん診療マニュアル第7版，医学書院，2016
その他、必要に応じて提示する。

5. 教育内容

回	内 容	担 当
1	診断から療養過程におけるがん患者と家族の意思決定支援 がん患者・家族の意思決定プロセス、影響要因	掛橋千賀子
2	がん患者とチームアプローチ	秋鹿都子
3	がん看護領域における倫理的問題の理解	掛橋千賀子
4	がんの予防、スクリーニング、早期発見と看護	若崎淳子
5	がんの治療と看護 (1) 手術療法	秋鹿都子 今岡恵美
6	がんの治療と看護 (2) 放射線療法	安田千香
7	がんの治療と看護 (3) 薬物療法	掛橋千賀子
8	がん患者・家族とのコミュニケーション	坂井淳恵
9	がんサバイバーの身体的側面のアセスメントと時期ごとの支援	掛橋千賀子
10	がんサバイバー・家族の心理社会的側面のアセスメントと時期ごとの支援	掛橋千賀子
11	がん患者の就労の現状を踏まえた問題と支援	秋鹿都子
12	がん患者のセクシャリティの問題のアセスメントと援助	若崎淳子
13	AYA 世代がん患者の看護	秋鹿都子
14	遺伝学的診断における看護と課題	福田誠司
15	がん患者の在宅療養支援 在宅療養への移行支援、継続支援	秋鹿都子

がん薬物療法看護論

単位数：2単位

時間数：30時間

開講年次及び学期：1年次前期

○若崎淳子	臨床看護学講座 教授
宮下美香	広島大学大学院医歯薬保健学研究科看護開発科学講座/老年・がん看護開発学 教授
掛橋千賀子	姫路大学看護学部 特任教授
坂井淳恵	岡山ろうさい病院がん相談支援センター がん看護専門看護師
妹尾尚美	島根大学医学部附属病院外来化学療法室 がん化学療法看護認定看護師

1. 科目の教育方針

がん薬物療法を基盤に、抗がん剤治療、内分泌療法、分子標的治療及び免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)の目的と特性、治療の実際並びに薬物治療を受ける患者の体験を理解し、患者とその家族に必要な援助を提供できる能力を身につける。がん薬物療法の有害事象の予防・早期発見・早期対処を行ない、治療の継続、セルフケア支援、セルフケア能力向上のための方略、並びに治療中の生活の質を高める看護を探究し、実践展開できる知識と問題解決能力を培う。治療選択の意思決定支援、抗がん剤治療、内分泌療法、分子標的治療及び免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)に伴うエビデンスに基づく看護のあり方を学ぶ。

特定看護領域(サブスペシャリティ)に焦点を絞って学習を深める。自らの特定看護領域について目的意識や問題意識をもって授業に臨み、より質の高い看護実践ができるための知識と問題解決能力を身につける。

2. 教育目標

- 1) がん薬物療法を基盤にその目的と特性、治療の実際並びに薬物治療を受ける患者の体験を理解し、抗がん剤治療、内分泌療法、分子標的治療及び免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)を受ける患者とその家族にエビデンスに基づく看護を実践できる能力を身につける。
- 2) がん薬物療法の有害事象の予防・早期発見・早期対処を行ない、有害事象とマネジメント、治療の継続、セルフケア支援、セルフケア能力向上のための方略並びに治療中の生活の質を高める看護を実践・展開する知識と問題解決能力を身につける。抗がん剤治療、内分泌療法、分子標的治療及び免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)と看護について実践に向けた知識と臨床判断力を培う。
- 3) 治療選択の意思決定への支援、並びにがん患者とその家族のQOLの維持向上を目指したエビデンスに基づく具体的かつ専門的な看護援助について探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- ・高度ながん看護実践に活用できる理論的知識を習得するとともに、看護実践上にある現象を論理的に捉えることができる思考能力の育成を目指す。
 - ・自らの特定看護領域について、より質の高い看護実践ができるための知識と問題解決能力が身につくよう、目的意識や問題意識をもって授業に臨む。
 - ・特定看護領域に焦点を絞って学習を深める。
- 1) 授業では講義の他、受講生各自のレポート内容に基づいたプレゼンテーションやディスカッションを行なう。
 - 2) 授業への臨み方

- ・がん薬物療法を受ける患者とその家族の生活の質を高める看護実践ができるための知識と問題解決能力が身につくよう、目的意識や問題意識をもって授業に臨むこと。
- ・がん薬物療法に関する最新情報を自主的に収集し、文献等から主体的に学習すること。

3) 評価

[レポート]

50% (課題レポートの内容：事例に対する問題解決思考過程を重視する。)

[プレゼンテーション]

20%

[受講態度]

30% (毎回の授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容)

4. 使用テキスト・参考文献等

1) テキスト

国立がんセンター内科レジデント編 がん診療レジデントマニュアル(医学書院)(最新版)

2) 参考図書

渋谷正史 がん生物学イラストレイテッド(羊土社)(最新版)

制吐薬適正使用ガイドライン(金原出版)(最新版)

各がん治療に関する診療ガイドライン(最新版)

その他、適宜紹介する。

5. 教育内容

回	内容	担当
1	薬物療法に伴う主な有害事象の発生機序の理解	若崎淳子 妹尾尚美
2	薬物療法に伴う主な有害事象の出現予防、発生時の対処と看護援助：有害事象とマネジメント	若崎淳子 妹尾尚美
3	がん薬物療法における有害事象とマネジメント：事例検討	坂井淳恵
4	抗がん剤治療と看護	坂井淳恵
5	分子標的治療と看護	坂井淳恵
6	内分泌療法と看護	若崎淳子
7	免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)と看護	若崎淳子
8	がん薬物療法に伴う器質的・機能的変化：認知機能の障害	宮下美香
9	がん薬物療法に伴う器質的・機能的変化：末梢神経障害	若崎淳子
10	がん薬物療法に伴う性機能障害(女性)と看護：事例検討	若崎淳子
11	がん薬物療法に伴う性機能障害(男性)と看護：事例検討	掛橋千賀子
12	抗がん剤治療と脱毛ケア・アピアランスケア	若崎淳子
13	がん薬物療法過程におけるセルフケア能力のアセスメント	宮下美香
14	薬物療法過程にあるがん患者のセルフケア能力を高める教育的アプローチ：事例検討	若崎淳子 坂井淳恵
15	外来がん薬物療法を受ける患者とその家族へのセルフケア 支援：事例検討	若崎淳子 坂井淳恵

嘱託講師は集中講義とする。

緩和ケア論

単位数：2 単位

時間数：30 時間

開講年次及び学期：1 年次後期

○秋鹿都子	臨床看護学講座 准教授
大野 智	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター センター長・教授
掛橋千賀子	姫路大学看護学部 特任教授
広瀬寛子	戸田中央総合病院 カウンセリング室 室長
加藤典子	島根県立大学看護栄養学部 准教授
林ゑり子	藤沢湘南台病院 がん看護専門看護師

1. 科目の教育方針

がん患者とその家族が抱える全人的苦痛・苦悩を理解し、緩和するために必要なケアの専門的知識を習得する。また、エンド・オブ・ライフケアの視点による患者・家族の QOL 向上を目指した包括的看護介入、リソースの活用、グリーフケアについて探究する。

2. 教育目標

- 1) 緩和ケアの概念について理解する。
- 2) がん患者のライフステージにより異なる全人的苦痛と苦悩について理解する。
- 3) がん患者のスピリチュアルな苦痛・苦悩に対するケアの実践方法について探究する。
- 4) がんの補完代替療法について理解する。
- 5) 治療期、医療施設から在宅へ療養の場を移行する時期、在宅療養期、終末期にあるがん患者とその家族の在宅療養支援と地域連携について理解する。
- 6) エンド・オブ・ライフケアの概念について理解する。
- 7) アドバンス・ケア・プランニングの実践方法と課題について理解する。
- 8) 終末期の鎮静について理解する。
- 9) 緩和ケアにおける倫理的課題を理解し、その対応について探究する。
- 10) がん患者の家族の心理的ケアについて探究する。
- 11) 緩和ケアにおける看護師の心理的ケアについて理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 授業では講義の他、受講生各自のレポート内容に基づいたプレゼンテーションやディスカッションを行う。
- 2) 授業への臨み方
 - ・がん患者と家族の生活の質を高める看護実践ができるための知識と問題解決能力が身につくよう、目的・問題意識をもって授業に臨むこと。
 - ・がん患者やがん医療・看護に関する最新情報について、文献等から主体的に学習すること。
- 3) 評価
レポート 50%、講義への参加状況 30%、プレゼンテーション内容 20%にて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

恒藤暁, 岡本禎晃：緩和ケアエッセンシャルドラッグ第3版, 医学書院, 2014
広瀬寛子：悲嘆とグリーフケア, 医学書院, 2011
その他、必要に応じて提示する。

5. 教育内容

回	内 容	担 当
1	緩和ケアの概念、歴史的変遷 がん患者のライフステージにより異なる全人的苦痛と苦悩の理解	掛橋千賀子
2	がん患者の実存的苦痛 (1) スピリチュアルペイン、苦悩	林 凧り子
3	がん患者の実存的苦痛 (2) スピリチュアルペイン、苦悩のアセスメントとケア	林 凧り子
4	子どもを持つがん患者への支援	秋鹿都子
5	がん補完代替療法	大野 智
6	緩和ケアにおける在宅療養支援と地域連携 (1) 治療期にあるがん患者・家族に対する緩和ケアの実際と課題	加藤典子
7	緩和ケアにおける在宅療養支援と地域連携 (2) 在宅療養への移行期、在宅療養期、終末期におけるがん患者・家族 に対する緩和ケアの実際と課題：療養の場の選択と意思決定支援	加藤典子
8	エンド・オブ・ライフケアの概念	大野 智
9	アドバンス・ケア・プランニング (1) 支援の実際	大野 智
10	アドバンス・ケア・プランニング (2) 課題	大野 智
11	終末期の鎮静	掛橋千賀子
12	緩和ケアにおける倫理的課題と対応	掛橋千賀子
13	家族の心理的ケア (1) 家族の予期悲嘆への対応、悲嘆プロセスをふまえたケア	広瀬寛子
14	家族の心理的ケア (2) 看取りとグリーフケア	広瀬寛子
15	緩和ケアにおける看護師の心理的ケア	広瀬寛子

田邊一明：内科学第四講座教授 磯部 威：呼吸器・臨床腫瘍学講座教授
内尾祐司：整形外科科学講座教授 椎名浩昭：泌尿器科学講座教授
折出亜希：産婦人科学講座講師 三瀧真悟：内科学第三講座講師
川島耕作：内科学第二講座助教 森倉一郎：耳鼻咽喉科学講座講師
橋本龍樹：臨床看護学講座教授 秋鹿都子：臨床看護学講座准教授

1. 科目の教育方針

複雑な健康問題を持つ対象者に対して、高度な看護実践を行うために必要なフィジカルアセスメントの方法を、人体の構造と機能に沿って系統的に学習する。さらに、複雑な健康問題を有する事例の検討をとおして、系統的で総合的な臨床判断能力を培う。

2. 教育目標

- 1) 高度実践看護師として、系統的なフィジカルアセスメントを実践するための知識と技術を習得し、身体診察を正確に行うことができる。
- 2) フィジカルアセスメントから得られたデータを系統的・総合的に解釈し、アセスメントすることができる。
- 3) 事例を用いて、複雑な健康問題を持った対象者に対して系統的・総合的なフィジカルアセスメントを実践できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

*人体の形態と機能に関する知識、フィジカルアセスメントの基本技術については習得済であること、また、予習・復習は自己学習であることを前提に授業を進める。

*演習では履修者間でフィジカルアセスメントを実践するので、フィジカルアセスメントが可能な服装で参加すること。

- 1) 講義と演習を組み合わせ学習を進める。
- 2) 事例検討
 - (1)提示事例について、系統的・総合的なフィジカルアセスメント実践計画を立てる。
 - (2)上記(1)の計画に基づき、シミュレーター、もしくは、他の履修者を模擬患者として、問診と身体診察を実践して、反応をアセスメントし、健康問題を特定する。
 - (3)上記(2)の方法とプロセスの適切性について、メンバー相互で批判的に振り返りを行い、正確なフィジカルアセスメントの技法を習得する。

【評価】

事例検討での質疑応答などの態度、事例検討をまとめた個人レポート等により、総合的に評価する。

4. 参考文献等(その他、授業の中で随時紹介する)

- 1) 福井次矢他日本語監修：ベイツ診察法 第2版. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2015

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1		フィジカルアセスメント総論 フィジカルアセスメントの方法（問診技法・身体診察技法）	田邊
2		呼吸器系のフィジカルアセスメント 呼吸に関する人体の構造と機能	礒部
3		呼吸器系のフィジカルアセスメント 呼吸に関する身体診察	礒部
4		循環器系のフィジカルアセスメント 循環に関する人体の構造と機能	田邊
5		循環器系のフィジカルアセスメント 循環に関する身体診察	田邊
6		腹部のフィジカルアセスメント 消化器に関する人体の構造と機能	川島
7		腹部のフィジカルアセスメント 消化器に関する身体診察	川島
8		脳神経系のフィジカルアセスメント 脳神経系に関する人体の構造と機能	三瀧
9		脳神経系のフィジカルアセスメント 脳神経系に関する身体診察	三瀧
10		筋骨格系のフィジカルアセスメント 運動機能に関する人体の構造と機能、身体診察	内尾
11		腎・泌尿器系のフィジカルアセスメント 排泄に関する人体の構造と機能、身体診察	椎名
12		頭頸部、鼻腔、口腔、視覚、聴覚器のフィジカルアセスメント 感覚器に関する人体の構造と機能、身体診察	森倉
13		生殖器のフィジカルアセスメント 生殖器に関する人体の構造と機能、身体診察	折出
14		事例検討① 事例を用いたフィジカルアセスメント	橋本 秋鹿
15		事例検討② 事例を用いたフィジカルアセスメント	橋本 秋鹿

紫藤 治：環境生理学講座教授 藤谷昌司：神経形態学講座教授
椎名浩昭：泌尿器科学講座教授 森田栄伸：皮膚科学講座教授
内尾祐司：整形外科学講座教授 折出亜希：産婦人科学講座講師
田中小百合：内科学第一講座助教 川島耕作：内科学第二講座助教
橋本龍樹：臨床看護学講座教授 秋鹿都子：臨床看護学講座准教授

1. 科目の教育方針

複雑な健康問題を持つ対象者の病態を正確に捉えて高度な看護実践を行うために必要な病態生理の知識を、主要な症状や病態に焦点を当てて、人体の系統性に沿って学習する。さらに、臨床判断を求められる頻度の高い症状や病態を呈する患者事例の検討をとおして、病態のメカニズムと治療との関連を理解し、病態を踏まえた高度な看護介入を行うための基盤となる臨床判断力培う。

2. 教育目標

- 1) 主要な症状や症候について、発生メカニズムを正常な形態と機能との関連から説明できる。
- 2) 主要な症状や症候と所見との関係について説明できる。
- 3) 疾患とそれに伴う症状や症候との関連について理解し、臨床看護判断に活用できる。
- 4) 事例を用いて、複雑な病態を示す対象者に対して病態生理的な変化を解釈、臨床看護判断につなげることができる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 講義：人体の形態と機能、疾病と随伴症状発現のメカニズム等に関する基礎的知識についての事前学習を踏まえていること前提として授業を進める。
- 2) 演習：事例検討は、小グループによる演習形式とする。
 - (1)病態症候論に基づき症候・症状から疾患を推測し特定する。
 - (2)特定した疾患・病態に伴う看護問題を診断し対策を立案する。※ 事例は「呼吸困難」「意識障害」「胸痛」「腹痛」「嘔気・嘔吐」「発熱」「頭痛」「ふらつき」等の何れかを主症状とする 2 事例とする。
※ 事例は毎年変更する。

【評価】

事例検討での質疑応答などの態度、事例検討をまとめた個人レポート等により、総合的に評価する。

4. 参考文献等(その他、授業の中で随時紹介する)

- 1) 松村理司監訳：Dr.ウィリス ベッドサイド診断 病歴と身体診察でここまでわかる！. 医学書院, 2008.

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	/	病態生理学の紹介、体系的枠組み、基礎知識	紫藤
2	/	環境病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム (熱中症を考える)	紫藤
3	/	循環・体液病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム (血圧の決定と異常)(心不全時の体液バランスの変化)	紫藤
4	/	呼吸病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム (換気異常、肺サーファクタントの必要性)	紫藤
5	/	脳神経病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	藤谷
6	/	代謝病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	田中
7	/	消化器病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	川島
8	/	筋骨格系病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	内尾
9	/	腎・泌尿器病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	椎名
10	/	生殖器病態生理 ・ 随伴症状、主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	折出
11	/	皮膚病態生理 ・ 主要な疾患・機能異常の原因と発症メカニズム	森田
12 13	/	演習：事例検討① ・ 病態症候論に基づき症候・症状から疾病と病状を解釈する。 ・ 解釈した疾病・病状に伴う看護問題を診断し対策を立案する	橋本 秋鹿
14 15	/	演習：事例検討② ・ 病態症候論に基づき症候・症状から疾病と病状を解釈する。 ・ 解釈した疾病・病状に伴う看護問題を診断し対策を立案する	橋本 秋鹿

和田孝一郎：医学部薬理学講座 教授
岡本 貴行：医学部薬理学講座 准教授
田中 徹也：医学部薬理学講座 講師
橋本 龍樹：臨床看護学講座 教授
秋鹿 都子：臨床看護学講座 准教授

1. 科目の教育方針

ケア対象者に実施されている薬物療法について、その薬理作用の正確な理解に基づいて、薬剤使用の判断、投薬後の患者のモニタリング、症状管理、生活調整、回復力の促進、対象者の服薬管理能力向上を図る等、高度な看護実践に必要な薬理・薬剤の知識を学習する。さらに、緊急応急処理、症状調整、慢性疾患管理等の事例検討をとおして、複雑な健康問題を有する対象者の薬物療法を適切に支援するために必要な高度な臨床看護判断力を培う。

2. 教育目標

- 1) 薬物による生体制御の基礎を理解する。
- 2) 医薬品分類に基づき、疾病の治療や症状管理のために用いる薬物の薬理作用、適用、投与時の留意点と投与後のモニタリング、副作用出現時の対処について理解する。
- 3) 薬物療法を受けているケア対象者の服薬管理能力向上のための介入計画を立案できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 講義：人体の系統別に用いる薬剤の作用、副作用、適用に関する基礎的知識についての事前学習を踏まえていること前提として授業を進める。
 - 2) 演習：事例検討は、小グループによる演習形式とする。
 - (1)事例に処方された薬剤（薬物）の薬理作用、症例への適応・容量・用法の適切性について討論する。
 - (2)事例の病態をふまえて、投与薬物の体内動態予測、および Therapeutic drug monitoring (TDM)について討論する。
 - (3) 使用された薬剤（薬物）の副作用の可能性、多剤併用の場合は薬物相互作用の有無、その様な症状がおきた場合の対処方法などについて討論する。
- ※ 事例は病態を設定した 2 事例とし、毎年変更する。

【評価】

事例検討での質疑応答などの態度、事例検討をまとめた個人レポート等により、総合的に評価する。

4. 参考文献等(その他、授業の中で随時紹介する)

5. 教育内容

曜 (～)

回	月/日	内 容	講師
1	/	臨床薬理学 総論①： 臨床薬理学の基礎 ・薬物の作用機序 ・薬物・薬剤の適正処方と安全管理 ・副作用とその防止 ・新薬開発とその情報収集	和田
2	/	臨床薬理学 総論②： 薬物の体内動態と TDM ・薬物動態学の基礎 ・薬物動態に影響を与える諸因子 ・薬物相互作用の重要性 ・Therapeutic drug monitoring (TDM)	和田
3	/	臨床薬理学 総論③： 臨床使用における諸問題 ・コンプライアンスとアドヒアランス ・ポリファーマシー ・分子標的薬など新たなコンセプトによる新薬の登場と諸問題	和田
4	/	各論①： 心血管系に作用する薬物・薬剤 (循環器系に作用する薬物・薬剤) ・薬物の作用機序 ・薬物の適用と投与方法 ・TDM と投与計画 ・副作用とその対処法 ・今後の動向	和田
5	/	各論②： 消化器系に作用する薬物・薬剤 ・薬物の作用機序 ・薬物の適用と投与方法 ・TDM と投与計画 ・副作用とその対処法 ・今後の動向	和田
6	/	各論③： 中枢神経系に作用する薬物・薬剤 ・薬物の作用機序 ・薬物の適用と投与方法 ・TDM と投与計画 ・副作用とその対処法 ・今後の動向	田中
7	/	各論④： 呼吸器系に作用する薬物・薬剤 (含 喘息治療薬) ・薬物の作用機序 ・薬物の適用と投与方法 ・TDM と投与計画 ・副作用とその対処法 ・今後の動向	田中
8	/	各論⑤： 末梢神経系に作用する薬物・薬剤 (含 眼科・耳鼻科領域で使用する薬物・薬剤) ・薬物の作用機序 ・薬物の適用と投与方法 ・TDM と投与計画 ・副作用とその対処法 ・今後の動向	和田
9	/	各論⑥： 感染症に使用する薬物・薬剤 (抗菌薬、抗生物質、抗ウイルス薬) ・薬物の作用機序 ・薬物の適用と投与方法 ・TDM と投与計画 ・副作用とその対処法 ・今後の動向	岡本
10	/	各論⑦： 抗腫瘍薬 (抗がん剤) ・薬物の作用機序 ・薬物の適用と投与方法 ・TDM と投与計画 ・副作用とその対処法 ・今後の動向	岡本
11	/	各論⑧： 炎症・免疫・アレルギー疾患、内分泌代謝疾患に使用 される薬物・薬剤 ・薬物の作用機序 ・薬物の適用と投与方法 ・TDM と投与計画 ・副作用とその対処法 ・今後の動向	岡本

12 13	/	<p>演習： 事例・症例検討①</p> <p>実際に処方された薬剤や、過去の薬物による有害事象をもとに、以下のような点について発表とディベートをおこない、理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・処方された薬剤（薬物）の薬理作用、症例への適応・容量・用法の適切性について討論する。 ・投与薬物の体内動態予測、および Therapeutic drug monitoring (TDM) について討論する。 ・使用された薬剤（薬物）の副作用の可能性、多剤併用の場合は薬物相互作用の有無、その様な症状がおきた場合の対処方法などについて討論する。 	和田 橋本 岡本 秋鹿 田中
14 15	/	<p>演習： 事例・症例検討②</p> <p>実際に処方された薬剤や、過去の薬物による有害事象をもとに、以下のような点について発表とディベートをおこない、理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・処方された薬剤（薬物）の薬理作用、症例への適応・容量・用法の適切性について討論する。 ・投与薬物の体内動態予測、および Therapeutic drug monitoring (TDM) について討論する。 ・使用された薬剤（薬物）の副作用の可能性、多剤併用の場合は薬物相互作用の有無、その様な症状がおきた場合の対処方法などについて討論する。 	和田 橋本 岡本 秋鹿 田中

○若崎 淳子：臨床看護学講座 教授
鈴木志津枝：神戸市看護大学
療養生活看護学領域教授

1. 科目の教育方針

- 1) 看護学における家族を理解し実践するための概念や諸理論、研究動向を学び、看護の対象としての家族について理解を深め探求する。
- 2) さまざまな状況にある家族に対して包括的な支援が提供できるよう、家族の持てる力の促進を目指したエビデンスに基づく看護援助を探求する。

2. 教育目標

- 1) 家族看護学の発展過程と求められる看護を理解する。
- 2) 家族に対して専門的看護を実践するうえで基盤となる概念や理論を理解する。
- 3) 地域や臨床における家族看護の実践に向けて、家族アセスメント及び支援について説明する
※看護実践の場を論理的に捉えることができる思考能力の育成を目指す。
- 4) 看護実践に活用できる知識を獲得し、家族の持てる力の促進を目指したエビデンスに基づく看護支援を検討・提案する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 授業では講義の他、受講生各自の課題レポート内容に基づくプレゼンテーションやディスカッションを行う。
- 2) 授業への臨み方
 - ・受講生は文献(研究論文を含む)を基に課題レポートを作成し授業に臨むこと。
 - ・家族を取り巻く社会や抱える課題・問題に関心を持ち、家族の持てる力を促進し、対象の生活の質を高める看護実践ができるための知識と問題解決能力が身につくよう目的意識をもって授業に臨むこと。
 - ・家族看護に関する最新情報・知見について、文献等から主体的に学習すること。

3) 評価

[レポート] 50%

課題レポート

①家族看護に関する理論の説明とその活用及び展開過程を重視する。

②根拠に基づく系統的記述及び論理的考察を重視する。

[プレゼンテーション] 20%

[受講態度] 30% (毎回の授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容)

4. テキスト等

1) テキスト

指定なし。

2) 参考図書

鈴木和子、渡辺裕子：家族看護学—理論と実践第3版、日本看護協会出版会、2006.

法橋尚宏：新しい家族看護学—理論・実践・研究、メヂカルフレンド社、2010.

山崎あけみ、原礼子：家族看護学第2版、南江堂、2015.

その他、適宜紹介する。

5. 教育内容

回	授業日	内 容	担当
1	月 日	ガイダンス／関心領域の発表 家族看護学の発展過程と求められる看護	若崎
2	集中講義	家族エンパワーメントモデル	鈴木
3		家族エンパワーメントモデルを活用した事例展開 終末期患者の家族への援助（高齢者の事例を用いて）	鈴木
4		Enrichment の概念の活用 終末期患者・家族間の相互性を支える援助	鈴木
5		悲嘆理論と死別後の遺族へのグリーフケア	鈴木
6		月 日	家族看護の基盤となる概念・理論(1)
7	月 日	家族看護の基盤となる概念・理論(2)	若崎
8	月 日	家族看護の基盤となる概念・理論(3)	若崎
9	2コマ続きで 3日間(計6回)	家族のアセスメントと看護援助方法の検討	若崎
10		事例1 病をもつ高齢者の家族への支援	若崎
11		事例2 認知症高齢者の家族への支援	若崎
12		事例3 在宅療養に向けた患者家族への支援	若崎
13		事例4 成人期にある患者の家族への支援	若崎
14		事例5 急性期にある患者の家族への支援	若崎
15		事例6 治療過程に在るがん患者への支援	若崎
15	月 日	事例7 家族の意思決定支援 等	若崎
15	月 日	家族看護の展望と課題～看護実践に向けて：討議	若崎

教室：N404

嘱託講師は集中講義とする。

看護理論

単位数：2単位

○福間 美紀：基礎看護学講座准教授

津本 優子：基礎看護学講座教授

1. 科目の教育方針

実践の科学である看護学の基礎をつくるものは理論である。看護現象を説明し理論を生成すること、理論を実践に活用してその妥当性を検証すること、この繰り返しによって看護は看護学として発展し、社会の健康ニーズに応え得る質の高い看護を展開することができる。CNSをはじめとする大学院修了者には、高度看護実践者として、理論に基づいた専門性の高い看護を実践することによって、看護の成果を社会の人々や保健医療チームのメンバーに示し、看護の発展に寄与することが期待されている。

本科目では、看護理論に関する基本的知識、および看護実践への理論の活用方法とその効果の評価方法について学習し、理論と実践の融合した質の高い看護サービスを提供するために必要な論理的思考力と実践力を高める。

2. 教育目標

- 1) 看護理論開発の歴史を概観し、これからの看護理論の発達に対する見識を深める。
- 2) 看護理論家の著書を講読し、理論の分析を行って看護理論の構造や特徴を理解する。
- 3) どのような対象者にどのような場面や状況下で看護理論を適用させるのか、事例をとおして看護理論の看護実践への活用方法を検討する。
- 4) 看護実践における理論活用の意義と理論開発の必要性を考察する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 看護理論への理解を深めるために、講義、看護理論講読、事例演習を行う。
- 2) 理論分析は、看護哲学、広範囲理論、中範囲理論に関する看護理論の著書の中から各自が1冊を選択して講読し、レポートの作成、発表、グループ・ディスカッションを行う。(ウィーデンバック、ペプロウ、ロジャーズ、オレム、トラベルビー、レイニンガー、ロイ、ニューマン、ベナーのうち1つを選択する)
- 3) 看護理論活用の実際は、各自の専門領域に応じて関心を寄せる看護の理論を選択して看護実践に活用し、その成果について発表とディスカッションを行う。

【評価】

プレゼンテーション、レポート等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト

- 1) 筒井真由美編集：看護理論家の業績と理論評価，医学書院，2015
- 2) 正木治恵他：看護理論の活用-看護実践の問題解決のために，医歯薬出版，2012
- 3) ヘンダーソン著：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2007

<参考文献等> *その他の図書・文献は授業で紹介する。

筒井真優美編集：看護理論，看護理論 20 の理解と実践への応用，南江堂，2008

松木光子他編集：看護理論，理論と実践のリンケージ，ヌーヴェルヒロカワ，2006

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/9	理論の定義・目的、理論の種類、現象を説明する範囲 理論開発のプロセス、理論と実践との関連性	福間
2	4/16	看護理論の発展の歴史、看護理論の意義・貢献	福間
3	4/23	看護理論の構造、要素となる主要概念、理論分析の方法	福間
4	5/7	理論分析 1 看護理論の構造と特徴、理論と実践との関連性	福間
5	5/14	理論分析 2 看護理論の構造と特徴、理論と実践との関連性	福間
6	5/21	理論分析 3 看護理論の構造と特徴、理論と実践との関連性	福間
7	5/28	理論分析 4 看護理論の構造と特徴、理論と実践との関連性	福間
8	6/4	理論分析 5 看護理論の構造と特徴、理論と実践との関連性	福間
9	6/11	理論分析 6 看護理論の構造と特徴、理論と実践との関連性	福間
10	6/18	看護理論の構築と活用の必要性	福間
11	6/25	看護理論の実践への活用方法	福間
12	7/2	事例演習 1 看護理論の実践への活用と展開	福間 津本
13	7/9	事例演習 2 看護理論の実践への活用と展開	
14	7/16	事例演習 3 看護理論の実践への活用と展開	
15	7/23	事例演習 4 看護理論の実践への活用と展開	

看護倫理

単位数：2 単位

内田宏美：基礎看護学講座教授 加藤真紀：地域・老年看護学講座准教授
瀧尻明子：臨床看護学講座講師 榊原 文：地域・老年看護学講座講師
清水哲郎：岩手国際医療大学学長

1. 科目の教育方針

看護倫理の中心課題は、現代の保健医療システムの中でケアはいかにあるべきかを探ることであり、専門職の責務として倫理的問題やジレンマを解決していくための方法を探究することである。CNSをはじめ大学院修了者には、看護実践の場で現に発生している、あるいは潜在的な倫理的問題に対して、メンバーが主体的に対峙し、問題の本質を分析し、より良い解決に向けて対策を講じることができるよう、調整や支援を行うことが期待されている。

本科目では、基盤となる倫理・哲学の思想、生命倫理、医療倫理に関する基本的知識を学習して多面的なものの見方考え方を身につけ、看護実践・教育・研究・管理のあらゆる領域における倫理的問題とは何かを判断する。さらには、現実的な問題の分析と対策の検討をとおして、臨床における倫理的調整を図るための問題解決力・調整力を養う。

2. 教育目標

- 1) 倫理・哲学の思想、生命倫理、医療倫理に関する基本的知識を深める。
- 2) 看護実践における倫理の基本概念を理解する。
- 3) 倫理的課題に対応する基盤としての組織文化・組織風土の重要性を理解し、現実の課題に向き合うことができる。
- 4) 看護の臨床で経験する倫理的ジレンマ・道徳的苦悩に対し、状況対応型解決法の適用を試み、倫理的調整をはかるための問題解決のプロセスと方法を理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- ・講義：基本テキスト、参考文献等により、課題に関する事前学習を行い、疑問や問題意識を持って授業に臨むことを前提とする。
- ・文献講読：担当した単元のポイントを整理し、自身の経験を踏まえて考察してレジュメにまとめ、発表する。メンバー間でのディスカッションにより考察を深める。
- ・事例検討：対応に苦慮した倫理的問題を孕む事例について、“意思決定モデル”又は、清水哲郎氏の「臨床倫理検討シート」に準じて問題を整理し、妥当な解決策を探求する。

【評価】課題レポート等により総合的に評価する。

4. テキスト

- 1) サラ・フライ（片田範子訳）『看護実践の倫理』（第3版）日本看護協会出版会、2010

【参考文献】

- 1) 清水哲郎『臨床現場に臨む哲学』勁草書房、1997
- 2) ドロレス・デューリー他『看護倫理 1, 2, 3』みすず書房、2006
- 3) ジョイス E. トンプソン他『看護倫理のための意思決定の 10 のステップ』日本看護協会出版会、2004
- 4) ダニエル F. チャンブリス(浅野祐子訳)『ケアの向こう側』日本看護協会出版会、2002
- 5) ファビエンヌ・ブルジュール(原山哲他訳)『ケアの倫理』白水社、2014

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	/	保健医療における倫理的問題と背景 ・医療化の進展による諸問題、生命の質、平等と公平 保健医療の場における患者・クライアントの権利と医療者の義務 ・人間性の尊重、知る権利と自己決定権の保障、個人情報保護	内田
2	/	看護者の基本的責任、看護実践上の倫理的概念 ・責務・アドボカシー・協力・ケアリング、倫理指針 看護実践における倫理的ジレンマとその本質 ・医療倫理と看護倫理、倫理的ジレンマと道徳的苦悩	内田
3	/	ケアの倫理 ・支え合う平等という新たな地平を探る	内田
4	/	基礎文献購読：サラ・フライ「看護実践の倫理」	加藤
5	/	基礎文献購読：サラ・フライ「看護実践の倫理」	加藤
6	/	基礎文献購読：サラ・フライ「看護実践の倫理」	加藤
7	/	看護実践における倫理的問題への対応 ・異文化における価値の尊重、国際支援における看護職の調整的役割	瀧尻
8	/	看護実践における倫理的問題への対応 ・子どもの虐待問題における看護職の調整的役割と責務	榊原
9	/	看護実践における倫理的問題への対応 ・急性・重症者ケアの場における看護職の調整的役割と責務	加藤
10	/	臨床現場に臨む哲学 ・インフォームド・コンセント再考	清水
11	/	臨床現場に臨む哲学 ・患者の死生に寄り添える医療者であるために	清水
12	/	看護専門職として倫理的問題にどう向き合うか ・高齢者の意思決定を支える看護職の役割と責務	清水
13	/	看護実践の場における倫理的ジレンマへの対応 ・事例検討により倫理的問題に対する効果的な倫理的調整のあり方を探求する	加藤
14	/	同上	加藤
15	/	同上	加藤
		課題レポート：×切○/○(△) テーマ：看護職者の倫理的責務	加藤

コンサルテーション論

単位数：2単位

福間 美紀：基礎看護学講座准教授
宇佐美しおり：熊本大学医学部保健学科教授
長田 京子：元基礎看護学講座教授
鶴屋 邦江：川崎病院老人看護 CNS

1. 科目の教育方針

人々の健康生活を支える看護活動を効果的に展開するには、保健・医療・福祉の分野や組織の部門・部署を超えて、継続的で柔軟なケアのネットワークを構築していくことが重要となる。コンサルテーションは、ケアのネットワーク構築を推進するうえで重要な機能を果たす。CNSをはじめとする大学院修了者には、専門分野の高度な看護実践に関する相談・支援活動を展開することはもとより、ヘルスケア組織全体の看護の質向上のために、各機能間の協働と連携の調整者として、リーダーシップを発揮することが期待されている。

本科目ではコンサルテーションの理論と方法について学習し、看護職をはじめとする保健・医療・福祉領域の専門家に対する相談・支援・調整活動を行うための実践的能力を養う。

2. 教育目標

- 1) 保健・医療・福祉領域のケア提供者の職務遂行上の問題解決過程における相談・支援活動の目的と方法について理解する。
- 2) コンサルテーションの理論を学び、その概念、モデル、タイプ、プロセス、コンサルタントの役割、および活動の方法について理解する。
- 3) 職員のメンタルヘルスに関するコンサルテーションに必要な諸理論と職場におけるストレスマネジメントの具体的方法を理解する。
- 4) 看護実践に関するコンサルテーションについて、個人、集団、組織に対するコンサルテーションの具体的方法を理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) コンサルテーションに関する理論、知識、方法について、講義、関連図書や論文の講読等をおして理解を深める。
- 2) コンサルテーション事例の検討は、ロールプレイとディスカッション、分析結果や気づきのプレゼンテーション等による演習形式で進め、実践力の向上を図る。

【評価】

評価は、授業への主体的参加、プレゼンテーション、レポート等により総合的に行う。

4. 使用テキスト、参考図書等（ *その他の図書・文献は授業で紹介する。）

- 1) 宇佐美しおり、野末聖香編：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009.
- 2) ドナ C. アギュララ著、小松源助他訳：危機介入の理論と実際、川島書店、1997.
- 3) エドガー・H・シャイン著、金井壽宏監訳：問いかける技術、英治出版、2014.
- 4) エドガー・H・シャイン著、金井壽宏監訳：謙虚なコンサルティング、英治出版、2017.

5. 教育内容

後期木曜日 16:15～17:45

回	月/日	内 容	講師
1	/	コンサルテーションの概念 コンサルテーションの歴史的発展、定義、目的 コンサルティとコンサルタントの関係 コンサルテーションのプロセス、コンサルタントの役割	福間
2	/	コンサルテーションの理論と方法 ・ストレスマネジメントに関するコンサルテーション	福間
3	/	コンサルテーションの理論と方法 ・成長支援に関するコンサルテーション	福間
4	/	コンサルテーションの理論と方法 ・キャリア支援に関するコンサルテーション	福間
5	/	コンサルテーションの理論と方法 ・倫理的調整におけるコンサルテーション	福間
6	/	看護におけるコンサルテーションの理論と実際 ・コンサルテーションのタイプとモデル	宇佐美
7	/	・個人へのコンサルテーション1	宇佐美
8	/	・個人へのコンサルテーション2	宇佐美
9	/	・グループ、組織へのコンサルテーション	宇佐美
10	/	CNS の活動におけるコンサルテーションの実際 ・方法、戦略、課題（1）	鶴屋
11	/	CNS の活動におけるコンサルテーションの実際 ・方法、戦略、課題（2）	鶴屋
12	/	看護管理におけるコンサルテーションの実際	福間
13	/	コンサルテーション展開演習 ・ストレスマネジメントに関するコンサルテーション	長田
14	/	コンサルテーション展開演習 ・看護職としての成長支援に関するコンサルテーション	長田
15	/	コンサルテーション展開演習 ・看護職としての成長支援に関するコンサルテーション	長田
		課題レポート「コンサルテーション実践における自己の課題」 締切：20**.*.**: (△) 正午、提出：uchi@med.shimane-u.ac.jp	福間

看護研究方法演習

単位数：2単位(60時間)

津本優子：基礎看護学講座教授	内田宏美：基礎看護学講座教授
小笹美子：地域・老年看護学講座教授	橋本龍樹：臨床看護学講座教授
福間美紀：基礎看護学講座准教授	秋鹿都子：臨床看護学講座准教授
加藤真紀：地域・老年看護学講座准教授	宮本まゆみ：基礎看護学講座講師

1. 科目の教育方針

看護実践の経験知を可視化し、看護の学問的発展を支えるのが看護研究である。緻密な看護研究により、看護実践の意味が論理的に説明され、質の高い看護実践のための新たな知見が創造され、やがて看護学としての理論的体系化に至る。看護研究を行うことは、看護専門職としての責務である。看護研究の課題は、実践・教育・管理など自己の看護活動の問題意識に根差した、具体的で現実的なものであることが重要である。

本科目では、現実的な問題意識に端を発して、その疑問や問題を研究的に解明し検証していくための科学的方法を学ぶ。CNSをはじめとする大学院修了者には、高度な看護実践者として看護の質向上に寄与することが期待されている。したがって、本科目での学習を看護学特別研究へと繋ぐことにより、看護研究を自律して実施する能力、研究の成果を看護実践に活用し、評価する能力の獲得を目指す。

2. 教育目標

- 1) 看護研究の目的と意義を理解する。学習と研究の相違、問題解決過程と研究過程の相違をふまえ、看護研究のプロセスを理解する。
- 2) 研究デザインおよび主な研究方法の看護研究への適用について理解する。
- 3) 看護研究における倫理的配慮の重要性と具体的方法を理解する。
- 4) 量的研究のデータ分析に必要な基本的な統計解析の方法を理解する。
- 5) 質的研究のデータ分析に必要な質的帰納的アプローチの方法を理解する。
- 6) 文献をクリティークして質の高い研究論文を、実践、研究、管理の問題解決に活用する方法を理解する。
- 7) 研究計画の全体像を理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】演習方式で行う。

【評価】演習での議論、発表内容、課題レポート等により、総合的に判断する。

4. 基本テキスト

- 1) DFボーリット他/近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法（第2版），医学書院，2010
- 2) 石井京子，田尾清子著：ナースのための質問紙調査とデータ分析，医学書院，2002
- 3) グレグ美鈴，他著：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方（第2版），医歯薬出版，2016

【参考テキスト・資料】

- 1) 日本看護協会：看護研究における倫理指針，2004
- 2) 文部科学省.厚生労働省：疫学研究における倫理指針，2005
- 3) 木原雅子：医学的研究のデザイン，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2016

5. 教育内容

木曜：16:50～20:00

コマ	月/日	内 容	講師
1・2	4/11	看護学研究概説：看護学の発展と看護研究・問題解決から研究へ ・看護現象の概念化と看護研究のデザイン ・主な研究方法の特徴と看護研究への適用 ・文献検索の必要性と方法	津本
3	4/18	看護研究における倫理的問題、人権侵害予防のための倫理的配慮 研究計画の立案と看護研究倫理審査申請への準備	内田
4・5	4/25	疫学研究総論：横断研究と縦断研究、コホート研究	橋本
6・7	5/9	実験研究 ：プロトコルの作成方法及び結果の分析・解析の理論的方法	橋本
8・9	5/16	量的研究(1) 研究デザイン：方法の特徴、限界	津本
10・11 12	5/23 14:55 ～	量的研究(2) データ収集：サンプリング・質問紙作成・分析準備 量的研究(3) データ分析①：データの要約	津本 福間 宮本
13・14 15	5/30 14:55 ～	量的研究(4) データ分析②：2変量の解析	
16・17	6/6	量的研究(5) データ分析③：多変量の解析	
18・19	6/13	質的研究(1) 研究デザイン：方法の特徴、限界 (サンプリング、データの算出、コード化、カテゴリ化等)	小笹 秋鹿 加藤
20・21	6/20	質的研究(2)：質的帰納的アプローチ ① 質的記述的研究	
22・23	6/27	質的研究(3)：質的帰納的アプローチ ② グラウンデッド・セオリー	
24・25	7/4	質的研究(4)：質的帰納的アプローチ ③ エスノグラフィー、内容分析	
26・27	7/11	質的研究(5)：質的帰納的アプローチ ④ データ表示、結果の厳密性	
28・ 29・30	7/25	研究における文献検討の意義と活用 ・文献クリティークの方法 ・文献の活用 ・文献検索の方法（附属図書館に於いて）	福間

※時間外で、図書館の文献検索研修を受講すること。

授業科目・題目	研究と倫理		
科目区分	大学院共通科目		
主担当教員	鹿住大助	開講期別	前期
曜日	※夏季休業期間中の集中講義	時限	
単位数	1	週時数	2
履修資格	修士 1, 2 年		
備考			

授業形態	講義・演習		
授業の目的	国内外の諸学問分野において、研究活動におけるデータ捏造や剽窃、研究倫理違反等の不正行為が毎年のように起こっているという現実があります。この授業では、今後、大学院生として研究活動をおこなうに際して、科学史的視野とともに研究倫理を身に付けることを目的としています。近代的学問分野の成立とその問題を整理しながら、知的財産権や被験者保護、利益相反、研究ノートとデータ管理等、研究活動に関連して予め知っておくべき事項について、講義や演習によって学習します。		
科目の達成目標 (達成度)	(1) 研究活動を遂行するために遵守しなければならない法律や、配慮すべき道義的・社会的責任について説明することができる。(知識・理解) (2) 諸学問分野における研究倫理上の課題を整理し、自らの学問分野と結び付けて考察することができる。(知識・理解) (3) 今後、研究者として自律的に研究活動を遂行することができる。(態度)		
授業の内容	各回の授業内容		担当教員
	1.	研究活動のはじめに①：科学・技術の展開と社会	溝口元(嘱託講師)
	2.	研究活動のはじめに②：研究不正の実際とその防止	溝口元(嘱託講師)
	3.	研究活動のはじめに③：著作権・知的財産権の保護	溝口元(嘱託講師)
	4.	研究倫理①：技術と倫理	溝口元(嘱託講師)
	5.	研究倫理②：生命と倫理	原田守(医学系研究科)
	6.	研究倫理③：人間・社会と倫理	江渕武彦(人文社会科学研究科)
	7.	自らの研究・専門を考える①：ワークショップ	鹿住大助(教育推進センター)
	8.	自らの研究・専門を考える②：研究計画の作成と発表	鹿住大助(教育推進センター)

授業の進め方	各研究科の専門分野の教員による講義と演習（ワークショップ・発表）を交えながら授業を進めていきます。		
授業キーワード	研究倫理、研究不正、科学史、著作権、知的財産権、社会的責任		
テキスト	指定しません		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編「科学の健全な発展のために：誠実な科学者の心得」2015年、 https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri.pdf ・米国科学アカデミー編、池内了訳『科学者をめざす君たちへ：科学者の責任ある行動とは』化学同人、1995年。 ・山崎茂明『科学者の不正行為：捏造・偽造・盗用』丸善、2002年。 ・科学倫理検討委員会編『科学を志す人びとへ：不正を起こさないために』化学同人、2007年。 <p>【参考ウェブサイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省／研究活動における不正行為への対応等： http://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/fusei/index.htm ・厚生労働省／研究に関する指針について： http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/ ・日本学術会議／科学者の行動規範： http://www.scj.go.jp/ja/scj/kihan/index.html 		
その他授業資料等	授業時間中に適宜配布します		
成績評価の方法	評価方法	配点の割合	科目の達成目標との対応
	研究計画発表	50	(1)(2)(3)
	最終レポート	50	(1)(2)(3)
履修上の指導			
オフィスアワー			
その他			

科目分類	研究科共通科目	単位数	1
時間割コード		履修年次	修士 1,2 年
授業科目・題目	学際プレゼンテーション入門	開講学期	集中講義 7月もしくは9月 【夏休み期間中】
授業科目・題目（英語）		曜日・時限	
科目コード		選択/必修	選択
担当教員	人文社会科学系研究科 石井 徹 医学研究科 浦野 健 自然科学系研究科（総理） 黒岩 大史 自然科学系研究科（生資） 石井 将幸 （教育推進センター 平川 正人） 教育推進センター 岩瀬 峰代	履修資格	特になし

授業形態	講義（演習）
授業の目的	受講者それぞれの研究や学問分野の意義を、異分野・一般の人に対して解り易く魅力的に伝える、研究プレゼンテーション能力を身につける。
科目の達成目標 （達成度）	（1）プレゼンテーションの構成要素を理解し、プレゼンテーションとは何かを説明できる。（知識） （2）プレゼンテーションの論理構築・データ整理・ストーリーの設計・ビジュアル作成の方法について説明ができる（知識） （3）プレゼンテーションを実施するスキルを身につけることができる。（技能） （4）身につけたスキルを実践しようとするすることができる。（態度）
授業の内容 および方法	プレゼンテーションの基本的な構成要素を理解するとともに、各研究分野におけるプレゼンテーションの方法を用い、異分野・一般の人に対して解り易く研究の魅力的に伝える研究プレゼンテーション能力を身につける。 【1】 導入（プレゼンテーションの必要性） 【2】 P1：Planning & Program 計画と構成 【3】 P2：Preparation 準備とリハーサル 【4】 P3：Personality プレゼンターの役割、能力、人柄 【5】 P4：Performance Skills 洗練された発表の技術 【6】 P5：Practice 日常的な訓練と上達のためのヒント 【7】 効果的なコミュニケーション 【8】 まとめ
授業の進め方	講義とワークショップ、プレゼンテーション演習を組み合わせ実施する。プレゼンテーションへの理解を深めるとともに、実際に伝わるプレゼンテーションを行うスキルを身につけられるように授業を進める。
授業キーワード	プレゼンテーション、主体的学修
テキスト	『プレゼンテーションの教科書 第3版』脇山真治 日経BP社
参考文献	「アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書」著者：スティーブン E・ルーカス 監訳：狩野みき SBクリエイティブ
その他授業資料等	授業のつと適宜配付する。
成績評価の方法 およびその基準	
履修上の指導	毎回様々な角度から「プレゼンテーション」を考え、実践を行うように組み立てて授業を行いますので、自身が主体的・積極的に活動することが求められます。先入観なく物事の本質をとらえるための知的好奇心、また最後まで諦めずに考え抜く学習する態度が必要となります。
オフィスアワー	
その他	

科目分類	研究科共通科目	単位数	1
時間割コード		履修年次	修士1年
授業科目・題目	研究力とキャリアデザイン	開講学期	集中講義 7月もしくは9月【夏休み期間中】
授業科目・題目（英語）		曜日・時限	
科目コード		選択/必修	選択
担当教員	戒能 智宏（自然科学研究科） 佐々木 愛（人文社会科学研究科） 橋本 龍樹（医学研究科） 吉田 和信（総合理工研究科） 丸山 実子（キャリアセンター） 岩瀬 峰代（教育推進センター） 小林 裕也（教育推進センター）	履修資格	特になし

授業形態	講義（演習）
授業の目的	将来、研究、教育、医療および産業界での活躍が期待される島根大学の大学院生を対象とし、研究力とキャリアデザインの関係を理解し、自分自身の社会での役割を考えることのできる場を提供する。
科目の達成目標 （達成度）	（1）キャリアデザインのために必要な理論を理解できる（知識） （2）クリティカルシンキングのスキルを身につける（技能） （3）自分自身を知ろうとすることができる（態度） （4）相手の話を傾聴することができる（態度） （5）身につけたスキルを実践しようとする（態度）
授業の内容 および方法	【1】 導入 「自分を知る」自己を分析してみる 【2】 「他者を知る」グループ形成をし、全員で紹介し合う 【3】 「グループワーク①」月からの脱出：合意形成に関する理解(クリティカルシンキング手法を学ぶ) 【4】 「グループワーク②」課題解決ワーク：与えられた情報で地図を作る 【5】 「グループワーク③」社会に研究を活かすために必要なことを考える：価値観の多様性を知る 【6】 「先輩に聞く」：偶然を活かすために必要なスキルを考える 【7】 「グループワーク④」メンバー同士の分かち合いワーク 【8】 まとめ（アンケート、レポート課題）
授業の進め方	講義とワークショップを組み合わせ実施する。キャリアをデザインすることへの理解を深めるとともに、どのような場面においても対応できるようなスキル・考え方を身につける。
授業キーワード	キャリアデザイン、研究力の活用、主体的学修
テキスト	なし
参考文献	授業に適宜提示
その他授業資料等	授業のつど適宜配付する。
成績評価の方法 およびその基準	グループワーク時のワークシートと最終レポート（ループリックによって評価基準を明示する）
履修上の指導	
オフィスアワー	
その他	

看護学特別研究

単位数：8単位

*看護援助学コース（担当：福間美紀准教授）

看護実践または看護教育の分野から対人援助関係や看護技術など看護援助に関する研究課題を見出して探求し、その成果を論文にまとめて発表する。

*看護管理学コース（担当：内田宏美教授、津本優子教授）

自己の看護専門職としての関心、及び、特論及び演習で学んだことを基盤に、看護管理に関する研究課題を見出して研究を実施し、その結果を論文にまとめる。

*地域・在宅看護学コース（担当：小笹美子教授）

地域で生活する人々の健康と生活を支援する看護に関する研究課題を見だし、研究論文を作成する。

*母子看護学コース（担当：福田誠司教授）

小児・母性の健全な成長・発達を支えるための看護支援の方法について分析し、看護の科学的根拠を見い出して成果を論文にまとめる。

*がん・成人看護学コース（担当：若崎淳子教授、橋本龍樹教授）

がん患者とその家族が直面する健康問題を広く検討し、がん看護に関する研究課題を見出し、患者家族のQOL向上を目指して新たな知識を創出し、成果を論文にまとめる。

*高齢者看護学コース（担当：原祥子教授）

高齢者の健康と生活を支える多様なケアサービスに関する課題を見出し、高齢者の健康生活の向上を目指した看護実践を追究し、論文を作成する。

看護学課題研究

単位数：4単位

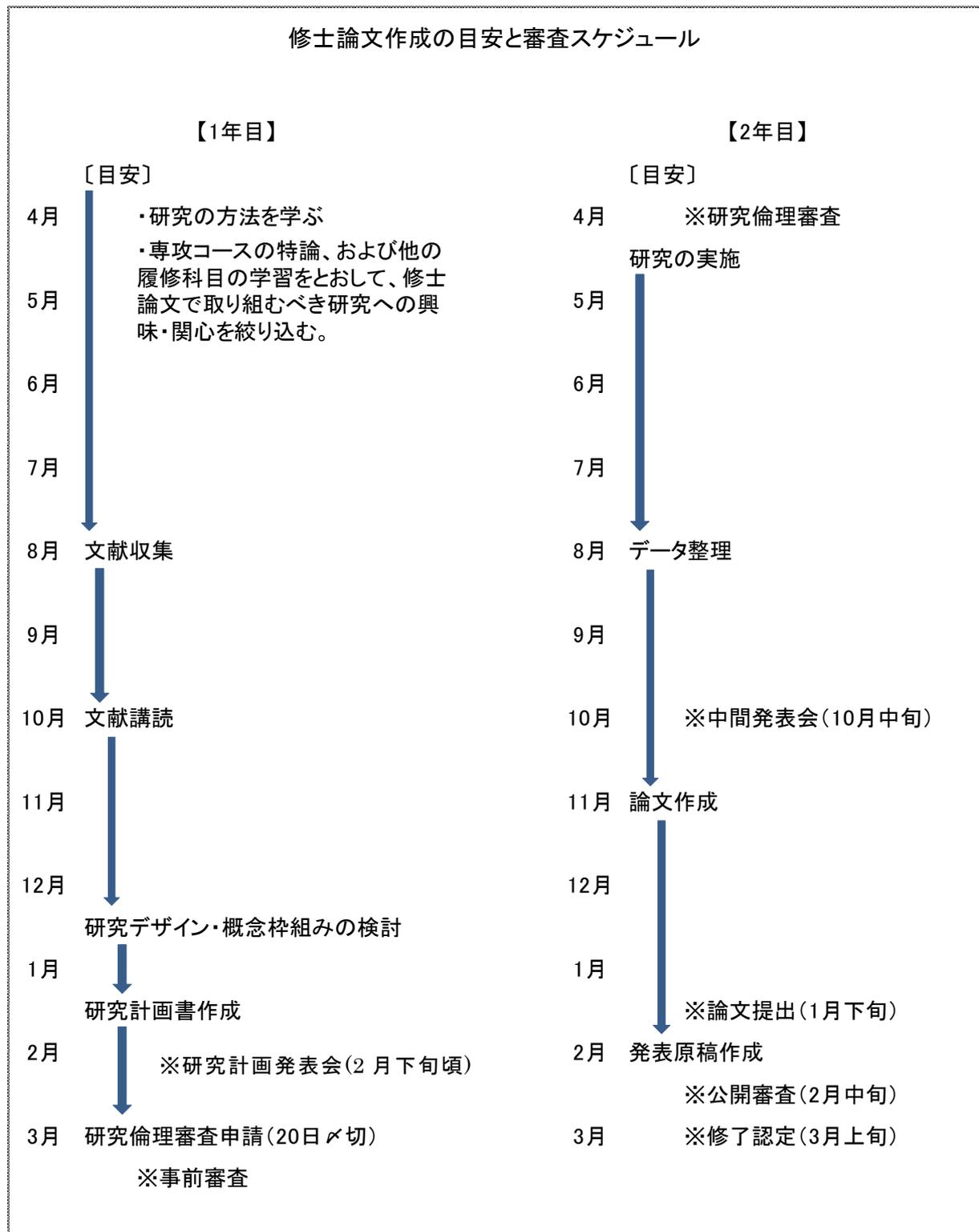
*がん看護CNSコース（担当：若崎淳子教授）

がん看護実践上の課題を探究するため、がん看護学領域における研究動向を踏まえて自己の研究課題を明確化、研究計画書を作成し、研究を実行する。データ収集・分析の過程を通じて研究手法に関する理解を深めると共に論旨一貫性のある研究論文を作成する。

*老人看護CNSコース（担当：原祥子教授）

高齢者看護学実習に関連のある特定の実践的課題を追究する。高齢者看護の現場における課題を明確にしたうえで、研究計画を立案し、その計画に従って研究を実施する。課題研究の成果は、修士論文として作成する。

修士論文作成の目安と審査スケジュール



博士後期課程

1. 目的

世界に先駆けて超高齢社会を経験し、その健康課題に先進的に取り組んできた島根県においては、超高齢社会における健康課題の解明とその看護に焦点を当てた研究による看護方法の開発や知の構築を行っていく必要がある。

今後、さらに複雑さを増すことが予測される超高齢・長寿社会における健康問題に適切に対応して、人々の健康生活を支えるためには、これまで提唱されてきた加齢の諸理論や、培ってきた高齢看護学の知識・方法等をさらに発展させて、新たな知識と方法の集積による理論の体系化、すなわち「超高齢看護学」を構築することが急務である。

看護学専攻博士後期課程は、超高齢看護学の理論体系化に資する水準の独創的な看護学研究を自立して実施し、超高齢看護学の発展に寄与することを目的とする。

2. 目標

「超高齢看護学」を構築するための高水準で独創的な看護学研究を自立して実施し、看護の質向上に貢献することによって、人々が豊かな人生を享受できる超高齢社会の実現に寄与することのできる教育研究者を養成する。

3. ディプロマ・ポリシー

3年以上在学し、所定の単位を取得し、かつ、研究指導を受けて博士論文を提出し、その審査に合格することにより、博士（看護学）の学位を授与する。そのために、以下の学修成果を求める。

1. 国内外の文献分析や保健・医療機関等でのフィールドワークを通して、超高齢看護学の構築に必要な研究課題を設定できる。
2. フィールドのケア対象者や実践者、異分野の研究者等と連携・協働して超高齢看護学の理論体系化に有用な研究を自ら企画・立案・遂行できる研究能力が培われている。
3. 学術的意義、新規性、創造性、応用的価値のある超高齢看護学に関する博士論文が作成できている。
4. 博士論文の研究成果を国内外で発表するために必要なプレゼンテーション力、英語力が身についている。
5. 大学等の教育研究機関及び保健・医療の現場で、看護学の教育・研究をリードしていくキャリアビジョンを明確に描けている。

4. カリキュラム・ポリシー

「超高齢看護学」を理論体系化するための高水準で独創的な研究を自立して行う能力を効果的に培うため、以下のカリキュラム（16単位）を設定する。

1. 「超高齢看護学」を構成する専門科目として、看護ケア方法や看護実践モデルの開発、看護理論の生成など超高齢看護開発に関わる『超高齢看護開発特講』と、看護の成果を効果的に提供するためのシステム開発に関わる『安全ケアシステム開発特講』の2科目4単位を1年次前期に設ける。国内外の看護学および看護学に関連する領域の理論、文献、報告書、資料等を網羅的に分析し、「超高齢看護学」の創生に繋がる可能性のある研究課題や理論構築の必要性を示す根拠の発見に努める。「超高齢看護学」の構築を展望するために、両科目の最終回は合同セッションとする。
2. 「超高齢看護学」の研究を学際的に遂行するための視点と方法論を学ぶための『研究方法特講』2単位を1年次前期に設ける。
3. 『超高齢看護開発特講』、『安全ケアシステム開発特講』、『研究方法特講』と併行して、1年次の通年科目である『超高齢看護学研究演習』2単位を設ける。本科目では、フィールドワークを通して研究課題を模索する。「超高齢看護学」は新たに構築する分野であることから、自己の研究的関心に即した現地において、その対象や現象を直接観察し、関係者への調査を行い、現地での資料を収集することなどによって、そのコミュニティの特性に応じた、顕在的及び潜在的な健康課題や、今後起こり得る健康課題を予測し、研究すべき課題を浮き彫りにする。
4. 異分野融合研究を積極的に進め、ケア開発を戦略的に推進できる学際的リサーチマインドを身に付けることを目的として、本学医学系研究科医科学専攻博士課程で開講されている科目のうちから、看護学との連携と融合が期待できる以下の13科目を関連科目として設定し、その内から1科目2単位以上を履修する。
『総合診療学Ⅰ』『総合診療学Ⅱ』『地域医療学Ⅰ』『地域医療学Ⅱ』『医学・医療情報学Ⅰ』『臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用』『地域がん治療学』『がん医療社会学』『緩和ケア学』『環境医学Ⅰ』『環境医学Ⅱ』『知的財産と社会連携』『機能性物質・食品の医療応用と環境影響』
5. 博士論文作成に係る『超高齢看護学特別研究』6単位を設け、学生の研究テーマと履修計画に応じて、入学時から修了まで、主研究指導教員・副研究指導教員・研究指導補助教員の3名による重層指導体制により、「超高齢看護学」としての学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有する博士論文を作成できるよう個別に研究指導を行う。

5. 履修方法

専門科目として、「超高齢看護開発特講」と「安全ケアシステム開発特講」の2科目4単位に加えて、「研究方法特講」2単位、「超高齢看護学研究演習」2単位、「超高齢看護学特別研究」6単位、関連科目から1科目2単位以上の合計16単位以上を履修する。

6. 学位論文審査

論文は、「超高齢看護学」としての学術的意義、新規性、創造性、応用的価値の観点から審査することとし、口頭発表と口頭試問による公開の最終試験を実施する。

7. 修了の要件

本課程に原則として3年以上在学し、専門科目の必修科目14単位、関連科目の選択科目から2単位以上の合計16単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、博士論文審査並びに最終試験に合格することとする。

8. 学位授与

博士（看護学）

9. 学位論文の公表

博士（看護学）の学位を授与された者は、学位論文が学術論文として印刷、公開されるよう、指導教員の指導のもとに、学位を授与された日から1年以内に関連分野の学会誌に投稿することを原則とする。ただし、学位が授与される以前にすでに印刷公開している場合は、この限りではない。

10. 長期履修制度と修業年限

修業年限は3年であるが、社会人学生の就学を支援するために、島根大学学則第29条に則り、長期履修制度を導入する。

申請により当該制度の利用許可を得た学生は、修業年限の2倍の年限まで修業することができる。

11. 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度

入学料については、経済的理由によって納付が困難であり、かつ学業優秀であると認められる者、あるいは、特別の事情（入学前1年以内に、入学する者の学資負担者が死亡、または、入学する者もしくは学資負担者が風水害等の被害を受けた場合等）により納付が困難であると認められる者に対して、その全額または半額が免除される制度及び徴収を猶予される制度がある。

授業料については、全額または半額が免除される制度がある。

12. 奨学金制度

日本学生支援機構奨学金

学業成績、人物とも優れた学生で、経済的理由により修学困難な者には、選考のうえ奨学金が貸与される。(平成 30 年度貸与月額 第一種：無利子 80,000 円または 122,000 円、第二種：有利子 50,000 円・80,000 円・100,000 円・130,000 円・150,000 円)

13. 学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険

教育研究活動中に万一事故等により、身体等に損害を被った場合あるいは他人に対する賠償責任が発生した場合に保険金を支払う制度である。財団法人日本国際教育支援協会が実施し、学生全員が加入する保険である。

14. 看護学専攻博士後期課程カリキュラム

区分	授業科目名	配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
専門科目	超高齢看護開発特講	1（前）	2		必修科目14単位修得すること
	安全ケアシステム開発特講	1（前）	2		
	研究方法特講	1（前）	2		
	超高齢看護学研究演習	1（通）	2		
	超高齢看護学特別研究	1～3	6		
関連科目	地域がん治療学	1（後）		2	選択科目から2単位以上修得すること
	がん医療社会学	1（後）		2	
	緩和ケア学	1（後）		2	
	環境医学Ⅰ	1（後）		2	
	環境医学Ⅱ	1（後）		2	
	医学・医療情報学Ⅰ	1（後）		2	
	地域医療学Ⅰ	1（後）		2	
	地域医療学Ⅱ	1（後）		2	
	総合診療学Ⅰ	1（後）		2	
	総合診療学Ⅱ	1（後）		2	
	臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用	1（後）		2	
	知的財産と社会連携	1（後）		2	
機能的物質・食品の医療応用と環境影響	1（後）		2		
修了に必要な単位数		16単位			

15. 平成31年度:専門科目担当者一覧

区分	科目名	担当教員 ○: 責任者
専門科目	超高齢看護開発特講	○原・小笹・津本・泉 (嘱託)
	安全ケアシステム開発特講	○津本・内田・原・小笹・石垣 (嘱託)
	研究方法特講	○橋本・原・内田・小林裕 (特任) ・出口 (学内) ・稲垣 (学内) ・中村 (学内)
	超高齢看護学研究演習	原・内田・小林裕 (特任) ・橋本・福田・小笹・津本・若崎・福間 多田 (特任) ・小林祥 (特任) ・塩飽 (特任) 出口 (学内) ・稲垣 (学内) ・小黒 (学内)
	超高齢看護学特別研究	研究指導教員 原・内田・小林裕 (特任) ・橋本・福田・津本 多田 (特任) ・小林祥 (特任) ・塩飽 (特任) 出口 (学内) ・稲垣 (学内) ・小黒 (学内) 研究指導補助教員 小笹・若崎・福間

16. 履修モデル

- ・モデルA「認知症高齢者の看取りにおける地域包括ケアモデルの有効性に関する研究」
- ・モデルB「超高齢・過疎地域における後期高齢者のソーシャル・サポートと健康との関連に関する研究」
- ・モデルC「ICTの活用による地域包括ケアにおける安全管理システムの開発に関する研究」
- ・モデルD「多職種協働による地域包括ケアをリードする看護専門職育成モデルの開発に関する研究」

区分	科目名	配当年次	単位数	必修・選択の別	履修要件	モデルA	モデルB	モデルC	モデルD
専門科目	超高齢看護開発特講	1	2	必修	● 2単位	●	●	●	●
	安全ケアシステム開発特講	1	2	必修	● 2単位	●	●	●	●
	研究方法特講	1	2	必修	● 2単位	●	●	●	●
	超高齢看護学研究演習	1	2	必修	● 2単位	●	●	●	●
	超高齢看護学特別研究	1~3	6	必修	● 6単位	●	●	●	●
関連科目	地域がん治療学	1	2	選択	○				
	がん医療社会学	1	2	選択	○				
	緩和ケア学	1	2	選択	○				
	環境医学Ⅰ	1	2	選択	○				
	環境医学Ⅱ	1	2	選択	○				
	医学・医療情報学Ⅰ	1	2	選択	○ 2単位				○
	地域医療学Ⅰ	1	2	選択	○ 以上		○		
	地域医療学Ⅱ	1	2	選択	○				
	総合診療学Ⅰ	1	2	選択	○	○			
	総合診療学Ⅱ	1	2	選択	○				
	臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用	1	2	選択	○			○	
	知的財産と社会連携	1	2	選択	○				
	機能性物質・食品の医療応用と環境影響	1	2	選択	○				
合計					16単位以上	16単位	16単位	16単位	16単位

注) ●専門科目は14単位必修

○関連科目は2単位以上選択

17. 入学から修了までのスケジュール

1年次	4月 10月 2～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・入学 ・入学時オリエンテーション：教育課程、履修方法、研究の進め方、学位論文の審査等についてガイダンスを行う。 ・指導教員の決定 ・個別履修指導：指導教員の指導のもとに履修科目を選択し、履修する。 ・指導教員の指導のもとに、研究課題の焦点化と研究計画書の作成をすすめる。 ・中間発表会：検討してきた研究計画について発表する。
2年次	4～5月 9～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・看護研究倫理委員会で研究計画書の審査を行う。 ・調査フィールド（病院・施設・機関等）の倫理委員会の審査を受ける。 ・研究計画書にそって、研究をすすめる。 ・中間発表会：学位論文に係る研究の進捗状況について発表する。
3年次	4～9月 12月 1月 2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・学位論文の研究成果の一部を国内外の学会等で発表する。 ・予備審査：学位論文の草稿等について予備審査を行う。 ・学位論文審査願及び学位論文の提出 ・学位論文審査（論文審査・最終試験） ・学位論文の可否を研究科委員会で決定する。 ・博士後期課程修了・学位授与

18. 研究指導の標準的なスケジュール

年次	学期	大学院生の研究活動	研究指導の方法
1年次	前期	・ 研究課題の焦点化と研究方法の検討	・ 主研究指導教員は、入学時に大学院生の研究テーマに即して決定する。
			・ 副研究指導教員と研究指導補助教員は、大学院生及び主研究指導教員との合意により入学後に決定する。
			・ 指導教員*は、研究課題の焦点化と研究計画について指導する。
		・ フィールドワーク	
	後期	・ フィールドワーク	・ 指導教員は、研究計画の立案を指導する。
		・ 研究方法の決定	
・ 研究計画の検討、研究計画書の作成			
		・ 中間発表会での研究計画発表	・ 指導教員は、中間発表会における他の教員の助言や指導を踏まえて、研究計画の修正について指導する。
		・ 看護研究倫理委員会の予備点検による研究計画の審査を受ける	・ 指導教員は、予備点検の結果に応じて、研究計画の整備と看護研究倫理委員会における審査に向けて指導する。
2年次	前期	・ 看護研究倫理委員会への審査申請	
		・ 看護研究倫理委員会の審査結果を踏まえた研究計画の見直しと研究計画書の修正	・ 指導教員は、看護研究倫理委員会の審査結果に応じた研究計画の見直しと研究計画書の修正について指導する。
		・ 研究計画書にそった研究活動の展開	・ 看護研究倫理委員会で承認された研究計画書に基づいて、指導教員は、大学院生の研究の進捗状況を確認しながら研究遂行を指導する。
		・ リサーチ・アシスタントとして積極的に本学の研究プロジェクト等に参画	・ 指導教員は、学生が必要な研究補助を担うことができるように支援し、研究チームにおける研究遂行を指導する。
	後期	・ 中間発表会での研究内容発表	
		・ 中間発表会における研究指導教員以外の教員の助言や指導を踏まえた研究活動の継続	・ 指導教員は、中間発表会における他の教員の助言や指導を踏まえて、これ以降の研究活動について指導する。
3年次	前期	・ 学位論文の作成	・ 指導教員は、学位論文の作成に関して指導する。
		・ 学位論文の研究成果の一部を国内外の学会で発表	・ 指導教員は、学生の学会発表における抄録作成、プレゼンテーションについて指導する。
		・ 予備審査の資料作成	・ 指導教員は、予備審査の資料作成に関して指導する。
	後期	・ 予備審査委員会による査読及び修正指導の審査	・ 指導教員は、予備審査の結果に応じた学位論文の修正について指導する。
		・ 学位論文審査委員会への審査申請	・ 指導教員は、大学院生が学位論文を完成させ、学位論文の審査を受けるための指導をする。
		・ 学位論文の審査及び最終試験（口頭試験）	
修了後 1年以内		・ 学位論文を国内外の看護系学会誌または保健・医療系学会誌等に投稿	・ 指導教員は、学会誌に投稿する論文の作成に関して、論文が受理されるまで指導する。

* 指導教員：主研究指導教員、副研究指導教員及び研究指導補助教員

科目解説

超高齢看護開発特講
Advanced Lecture/Seminar on Development of Nursing Care in Super Aged Society

開講年次：1年次（前期） 単位数：2単位

○原 祥子：地域・老年看護学講座教授
小笹 美子：地域・老年看護学講座教授
泉 キヨ子：嘱託講師
（帝京科学大学医療科学部看護学科教授）
津本 優子：基礎看護学講座教授

1. 科目の教育方針

現在、日本は世界最長寿国であるとともに、後期高齢者の急激な増加という、世界的に前例のない超高齢社会を迎えている。この超高齢社会における人々の生涯にわたる健康と尊厳ある生活・療養を支援するために、地域特性や多様なコミュニティの特性に応じた様々な健康課題を包括的に捉えたうえで、新たな看護ケア方法の開発や理論開発による健康課題解決の可能性を追究する。

2. 教育目標

- 1) 国内外の研究・実践の動向を多角的に分析し、超高齢社会における顕在的及び潜在的な健康課題を整理する。
- 2) 国内外の論文クリティークを通して、超高齢社会における人々の健康課題解決に向けた研究開発の方向性を見極め、研究課題を探索する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

最終回は、安全ケアシステム開発との合同セッションとし、研究開発による「超高齢看護学」の構築を展望する。

【評価】

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【論文クリティークのための参考文献】

- 1) 山川みやえ，牧本清子：研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク，日本看護協会出版会，2014.
- 2) 牧本清子：エビデンスに基づく看護実践のためのシステムティックレビュー，日本看護協会出版会，2013.

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/8	高齢看護学で活用されている理論・アプローチの動向と限界	原 祥子
2	4/22	※学生の看護実践に基づく問題意識や以下のテーマに関する国内外の論文クリティーク（システマティックレビュー（SR）の検索データベース JBI COnect+（Aged Care 領域など）やコクラン・ライブラリーに収録されているSRのクリティークによる臨床ケアの方向性の検討を含む）を通して、超高齢社会における人々の健康課題を整理し、その解決に向けた研究開発の方向性を探究する。 ・高齢者の自我発達支援 ・高齢者のエンパワメントの概念と実践 ・高齢者の健康生活評価（包括的アセスメント） ・後期高齢者・超高齢者の QOL 評価 ・フレイル(frailty)の予防・介入 ・認知症ケア・エンドオブライフケア ・高齢者の家族介護者支援 ・高齢者ケアの質評価、標準化 ・高齢者医療・看護における倫理的課題 ・ケアコーディネーションの理論・方法論の開発	原 祥子
3	4/22		
4	5/20		
5	5/20		
6	6/17		
7	6/17		
8	6/3		
9	6/3	※国内外の論文クリティークを通して、地域特性や多様なコミュニティの特性に応じた人々の健康課題を整理し、その解決に向けた研究開発の方向性を探究する。 ・高齢者の生きがいや社会参加への支援 ・高齢者のヘルスリテラシーと健康との関連 ・人々の信頼関係や地域のネットワークに基づく健康づくり活動の推進 ・高齢・過疎地域における減災 ・高齢期への備えとしての成人保健対策の強化と効果的な健康教育	小笹美子
10	7/1		
11	7/1		
12	未定	高齢者リハビリテーション看護学で活用されている理論・アプローチの動向と限界	泉キヨ子
13	未定	高齢者の転倒・骨折予防に関するプログラムやシステムの開発における現状と課題	泉キヨ子
14	7/22	※安全ケアシステム開発との合同セッション 総括：研究開発による「超高齢看護学」構築の展望	原 祥子 小笹美子 津本優子
15	7/22		

安全ケアシステム開発学特講
Advanced Lecture/Seminar on Development of Safety Nursing Care System
開講年次：1年次（前期） 単位数：2単位

- 津本 優子：基礎看護学講座 教授
内田 宏美：基礎看護学講座 教授
石垣 恭子：兵庫県立大学応用情報科学研究科 教授
原 祥子：地域・老年看護学講座 教授
小笹 美子：地域・老年看護学講座 教授

1. 科目の教育方針・教育の目的

超高齢社会を支える包括ケアのネットワークキングにおいて、ケアの質・安全を保障する観点から、ケアサービス提供にかかる課題を探究する。超高齢社会における様々な健康課題に対して、保健医療福祉看護関連の制度政策の提案も視野に入れて、安全で質の高いケアを組織的・系統的に提供するためのケア提供方法や人材育成・活用、包括ケアにおける安全システムの開発とリーダーシップ、包括ケアにおけるケア情報システムの開発等々、ケアの質・安全と社会システムとの関係を多角的に探索し、超高齢社会を支える安全ケアシステムの開発や理論開発の方向性を見出す。

2. 教育目標

- 1) 超高齢社会のケアを包括的に支援するシステム構築の必要と意義、開発上の課題を明らかにする。
- 2) 超高齢社会のケア包括支援システム構築における、看護情報システム導入・活用の在り方、開発の方向性と課題を明らかにする。
- 3) 安全ケアシステムを基盤としたケア包括支援システム構築のあり方と課題、効果的な運用について検討する。
- 4) 上記をとおして、超高齢社会における安全ケアシステム開発上の研究課題を探索する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【進め方】 講義および学生のプレゼンテーション、討論によって進める。

【知の統合】最終回に、超高齢社会看護開発学との合同セッションを持ち、「超高齢社会看護学」の知の構造化を図る。

【評価】 プレゼンテーション、レポートの緻密さ・的確さ・論理性等により総合的に判断。

4. テキスト（テキストは指定しない。関連図書、関連の学術論文等を適宜提示する。）

【参考図書】

- 1) 井部俊子・中西睦子監修『看護管理学習テキスト①－⑦』日本看護協会出版会
- 2) Rebecca.A.Patronis Jones 『Nursing Leadership and Management -Theories, Processes and Practice』 F.A.DAVIS COMPANY, 2007
- 3) R.Curtis 『Integrated Care: Applying Theory to Practice』
- 4) 筒井孝子『地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略—integrated care の理論とその応用』中央法規、2014
- 5) American Society for Healthcare Risk Management (ASHRM) (著), Roberta Carroll (編集) : Risk Management Handbook for Health Care Organizations, 3 Volume Set, 2010

5. 教育内容

(前期：月曜日) 20:00-21:30

回	月日	内 容	講師
※ 各単元で、国内外の文献をクリティークし、超高齢社会を安全管理の観点から支えるケアシステム開発上の研究課題を探究する。			
1	4/8	・ integrated care (包括ケア) のネットワークにおける安全管理システムの現状	内田
2	4/15	・ 包括ケアシステムにおける安全管理システム開発上の課題 ・ ケアサービスの標準化とケアの質・安全保証	
3	4/15	・ 包括ケアのネットワークへの安全管理システム導入戦略 ・ 安全管理システム稼働によるケアの質評価指標の検討	
4	5/13	・ 包括ケアシステムにおける安全管理者育成戦略と課題 ・ ネットワーク組織論、変革理論、リーダーシップ理論の包括ケアシステムへの適用と課題	
5	5/13	・ 包括ケアにおける看護管理者のリーダーシップ能力開発戦略と課題	
6	5/27	・ 療養型医療施設における看護・介護職の実践能力を向上するケア評価システムの開発	石垣
7	5/27	・ 超高齢社会における看護情報システム構築戦略と課題	津本
8	6/10	・ 地域賦活ケアにおける保健医療福祉情報管理システム構築におけるケアの質・安全保証の戦略と課題	石垣
9	6/10	・ 超高齢社会における安全で質の高い看護実践を支援するための看護情報システム開発戦略と課題 ・ 看護情報システムと安全管理システムとの有機的連動によるケアの質・安全保証戦略と課題	津本
10	6/24		
11	6/24		
12	7/8		
13	7/8		
14	7/22	総括：超高齢社会における健康課題と健康支援システムを安全管理の観点から、保健・医療・福祉の有機的連携による安全で質の高いケア提供システム開発のための研究課題を明らかにし、超高齢看護開発特講との融合による「超高齢看護学」を展望する。	津本 原 小笹
15			

研究方法特講

Advanced Lecture on Research Method

開講年次：1年次（前期） 単位数：2単位

- 橋本 龍樹：臨床看護学講座 教授
- 原 祥子：地域・老年看護学講座 教授
- 内田 宏美：基礎看護学講座 教授
- 小林 裕太：特任教授（前基礎看護学教授）
- 出口 顯：法文学部社会文化学科 教授
- 稲垣 卓司：教育学部心理・発達臨床講座 教授
- 中村 守彦：産学連携センター 教授

1. 科目の教育方針

博士前期課程で学習した研究方法を踏まえたうえで、博士後期課程において超高齢看護学特別研究を行うために必要な研究アプローチについて、看護学に限らず、文化人類学・医学・生物学などで用いられる研究方法を幅広く学習する。また、英語の論文を作成するために必要な基本的ルールと技術を学ぶ。

2. 教育目標

講義では、質的研究である Grounded theory、Ethnography Research、現象学、解釈学を取り上げ、自らの研究領域の研究の概観を探求する。また、主に量的な研究手法をとる医学的研究方法（精神・心理学、生化学、形態学、細胞生物学、分子生物学、生理学、薬理学）や、アクションリサーチについても解説する。本科目を修得することで、学生の研究に医学・社会学的な視点を入れることができ、学際的な研究を進めることができるようになる。併せて英語論文を読む能力と作成する方法を修得する。

3. 教育方法、進め方、評価等

講義形式を基本とする。教育内容によっては、実際の学術論文の読解など演習的な要素を含む。評価はレポートなどで行う。

4. 使用教科書、参考書等

教科書は指定せず、各教員が資料または文献を配布する。

【参考図書】

- 1) The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence
Susan K. Grove, Nancy Burns, Jennifer Gray, Elsevier/Saunders, 2013, 7th ed
- 2) Nursing Research: Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice
Denise F. Polit, Cheryl Tatano Beck, Wolters Kluwer Health/Lippincott Williams & Wilkins,
2016 10th ed

5. 教育内容

回	月日 (時限)	内 容	講師
1	4月19日	看護学研究方法の概説 ・看護学研究における研究倫理	内田
2	16:50-20:00	看護学研究におけるアクションリサーチの意義	内田
3	4月26日 18:30-20:00	現象学・解釈学的アプローチの概要と特徴	原
4	5月10日 18:30-20:00	グラウンデッドセオリーの概要と特徴	原
5	5月24日 18:30-20:00	形態学及び細胞生物学的研究方法 －電子顕微鏡観察法及び免疫組織学的研究法－	橋本
6	5月31日 18:30-20:00	国際学会におけるプレゼンテーション(Oral/Poster)法	原
7	6月7日 18:30-20:00	看護学研究における知的財産と利益相反	中村
8	6月15日 18:30-20:00	分子生物学的研究方法 －医学的進歩における最新の分子生物学的アプローチ－	橋本
9	6月21日 18:30-20:00	英語論文の読解法と作成法	橋本
10	7月12日 18:30-20:00	生理学的研究方法 －最新の医学・生理学の知見と研究方法－	小林
11	7月19日 18:30-20:00	薬理学的研究方法の概説	小林
12	7月26日 (未定)	古典的エスノグラフィー、批判的エスノグラフィーの 特徴と進め方	出口
13	松江キャンパス	ポストモダン・ポスト構造主義のエスノグラフィーの 特徴と進め方	出口
14	8月9日 14:55-16:25	精神・心理的発達のアセスメントツール開発方法の概説	稲垣
15	8月9日 16:35-18:05	精神・心理学的アプローチの特徴と進め方	稲垣
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義は、原則として 金曜日 18:30-20:00 演習室で行います。 ・ 7月26日の12回、13回は松江キャンパスで行います。時間は後日お知らせします。 ・ 8月9日の教室は後日お知らせします。 ・ 講義担当者の都合により、講義担当者が変更となる場合もあります。 ・ 予備日：8/23、8/30 			

超高齢看護学研究演習

Research Seminar on Nursing in Super Aged Society

開講年次：1年次（通年） 単位数：2単位

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| ○原 祥子：地域・老年看護学講座教授 | 内田宏美：基礎看護学講座教授 |
| 津本優子：基礎看護学講座教授 | 小笹美子：地域・老年看護学講座教授 |
| 若崎淳子：臨床看護学講座教授 | 福田誠司：臨床看護学講座教授 |
| 橋本龍樹：臨床看護学講座教授 | 出口 顯：法文学部社会文化学科教授 |
| 稲垣卓司：教育学部心理・発達臨床講座教授 | 多田敏子：特任教授(元徳島大学教授) |
| 小林祥泰：特任教授(前島根大学学長) | 塩飽邦憲：特任教授(前環境予防医学教授) |
| 小林裕太：特任教授(元基礎看護学講座教授) | 福間美紀：基礎看護学講座准教授 |
| 小黒浩明：医学部附属病院神経内科講師 | |

1. 科目の教育方針

「超高齢看護学」は、これまで培ってきた高齢看護学や健康長寿を支援するヘルスプロモーションの専門的取り組み等による知見を基盤として、新たに構築しようとする専門分野である。そのため、多角的な文献の分析はもとより、人々の生活の場で生成される健康課題の中から、超高齢看護学が取り組むべき研究課題を予見していくことが重要となる。したがって、本演習では高齢者へのケアを実践している場でのフィールドワークを重視した内容とする。また、国際的視野の涵養とともに、課題の国際的な意義を検討するために、島根大学協定校での研修等を組み込む。

以上の方針に基づき、自己の研究的関心に即した多様なフィールドワークと文献の多角的分析をとおして、人々の生活の場で生成する健康課題との関連から自己の研究課題に取り組むことの意義を明確にし、超高齢社会における様々な健康課題の解決に貢献し得る、新たな看護ケア方法や看護実践モデル・理論の開発並びに健康長寿を支える新たなケアシステムの開発を目指した研究アプローチを追究する。

2. 教育目標

- 1) 参加型看護研究及び行動モデルとその適用について理解できる。
- 2) フィールドワークと文献の多角的分析をとおして、人々の生活の場で生成する健康課題を確認し、超高齢看護にかかる健康課題を明確にすることができる。
- 3) フィールドワークの成果とプロセスをまとめて、適切に発表できる。
- 4) 超高齢看護にかかる健康課題と自己の研究的関心を融合させ、超高齢看護学の構築に寄与し得る研究課題を焦点化することができる。
- 5) 自己の研究課題に対応した研究デザインを定め、適切な倫理的配慮のうえで研究を遂行するための方法、分析方法を探索し、論理的・一貫性のある研究計画を検討できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 2単位 60時間の通年科目として、演習とフィールドワークにより展開する。
- 2) フィールドワークを経て研究計画の立案に至るプロセスを順当に辿れるよう、以下の流れで行う。
 - (1) 前半の約 1/3：フィールドワークを効果的に実施するための知識の習得と準備
 - (2) 中盤の約 1/3：フィールドワーク・まとめ
 - (3) 後半の約 1/3：博士論文で取り組む研究課題の明確化と研究計画の検討
- 3) フィールドワークの進め方
 - ・フィールドワークは島根大学協定校とその所在地域及び島根大学医学部が研究フィールドとしている医学部附属病院、大田総合医育成センターや自治体・関係機関を中心に実施する。
 - ・フィールドは学生が自己の研究的関心に即して選定し、そのフィールドと関係の深い教員の指導・支援の下でフィールドワークを実施する。
 - ・準備したフィールド以外の場を学生自身が開拓して実施する場合は、指導教員（主研究指導教員・副研究指導教員・研究指導補助教員）が指導・支援を担当する。
- 4) フィールドワークの取り組み状況、プレゼンテーションの内容、討論への参加状況等により主研究指導教員が総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) プラニー リィアムプットーン編（木原雅子，木原正弘訳）：現代の医学的研究方法－質的・量的方法、ミックスメソッド、EBP－，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2012.
- 2) John W. Creswell（操華子・森岡崇訳）：研究デザイナー－質的・量的・そしてミックス法，日本看護協会出版会，2007.
- 3) 安西祐一郎：問題解決の心理学，中央公論社，東京，1985.
- 4) Tosteson DC：New pathway in general medical education. *New Eng J Med* 322: 234-238, 1990.
- 5) 佐藤隆博：構造学習法の入門，明治図書，東京，1996.
- 6) 塩飽邦憲，他：概念地図を用いた問題解決能力の教育評価，*医学教育* 34: 385-390, 2003.
- 7) Sundquist J, et al.：Neighborhood linking social capital as a predictor of psychiatric medication prescription in the elderly: a Swedish national cohort study. *Journal of Psychiatric Research* 55: 44-51, 2014.

5. 教育内容

回	月/日 (時限)	内 容	担当
1	4/12 18:30 ~20:00	ガイダンス 学生の看護実践からの課題候補の抽出	原 祥子
2 3	4/19 8:30 ~12:05	課題解決型研究の基礎的な知識と手法の理解と課題の明確化 ・ 問題解決技法 Problem-solving method ・ 概念地図法 Concept mapping method	塩飽邦憲
4	4/19 13:00 ~14:40	健康信念モデル Health Belief Model などの行動モデルの超 高齢看護学における適用可能性	小笹美子 塩飽邦憲
5	4/19 14:55 ~16:35	参加型看護研究 Participatory nursing research の意義	内田宏美
6 7 8	5 月	フィールドワークの準備 ・ 国内外のフィールドワークの場所と方法の決定 ・ 活動計画の立案：目標の設定、具体的方法とスケジュール、 活動計画の倫理性の検討、利用可能な資源（システム・人 材を含む）等の検討	科目担当 全教員
9 10 11 12 13 14 15 16	6 月 7 月 8 月	フィールドワークの実施 [対応教員] ・ 協定校での研修：ルンド大学（スウェーデン） [小林 ^裕 ・塩飽] ・ 医学部附属病院及び関連病院 [福田・小黒] ・ 大田総合医育成センター [橋本] ・ 老人看護 CNS が活動する松江市立病院、松江赤十字病院等 [原] ・ がん看護 CNS が活躍する松江赤十字病院等 [若崎] ・ 島根県内の自治体 [小笹] ・ 島根大学疾病予知予防プロジェクト [福間] ・ 島根まめネット [津本] ・ 島根大学研究機構戦略的研究推進センター『萌芽研究部門』 プロジェクト（工・看護・医・福祉の異分野融合研究）[原] ・ 島根県看護協会医療安全ネットワークを活用したアクシ ョンリサーチ [内田・津本] ・ その他、適宜 [稲垣・出口・多田・小林 ^祥]	科目担当 全教員

17 18	<u>9/12(木)</u> <u>13:00</u> ~ <u>18:00</u>	フィールドワーク型研究活動の成果発表	科目担当 全教員
19 20	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の研究課題の明確化 ・各種モデルを用いて設定した課題に即した仮説設定 	※指導教員
21 22	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究課題に関する研究デザインの検討 ・研究方法の検討 	※指導教員
23 24 25 26	12月 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・データ分析方法の探索 ・研究倫理の検討 	※指導教員
27 28	2月	研究計画全体の構造化	※指導教員
29 30	<u>3/6(金)</u> <u>13:00</u> ~ <u>18:00</u>	研究計画の発表	科目担当 全教員

※指導教員の専門性、支援可能な分野、方法等についての詳細は、『超高齢看護学特別研究』のシラバスに記載している「5. 研究指導教員と指導の概要」を参照のこと。

超高齢看護学特別研究
Research on Nursing in Super Aged Society

開講年次：1～3年次（通年） 単位数：6単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授	内田宏美：基礎看護学講座教授
小笹美子：地域・老年看護学講座教授	福田誠司：臨床看護学講座教授
橋本龍樹：臨床看護学講座教授	小林裕太：特任教授(前基礎看護学教授)
若崎淳子：臨床看護学講座教授	出口 顯：法文学部社会文化学科教授
稲垣卓司：教育学部心理・発達臨床講座教授	多田敏子：特任教授
小林祥泰：特任教授(前島根大学学長)	塩飽邦憲：特任教授(前環境予防医学教授)
津本優子：基礎看護学講座教授	福間美紀：基礎看護学講座准教授
小黒浩明：医学部附属病院神経内科講師	

1. 科目の教育方針

超高齢社会における看護の質の向上並びに新たなケアシステムの開発を目指した研究活動を展開し、博士論文を作成する。

2. 教育目標

- 1) 特講・超高齢看護学研究演習の進行及び成果と連結させながら、超高齢社会における人々の健康課題解決に有用な研究計画を立案する。
- 2) 研究計画に沿って研究活動を展開できる。
- 3) 分析結果の妥当性を検証し、博士論文を作成する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- ・研究指導教員及び研究指導補助教員の多重支援体制をとり、その指導の下に研究を進める。
- ・多重支援体制は、主研究指導教員と副研究指導教員及び研究指導教員の専門分野や専門領域を補完する研究指導補助教員の3人体制とする。

目安	内 容
1年次	・研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。
2年次	・研究計画に沿って、研究フィールド・協力者への適切な交渉と倫理的な手続きを行い、研究活動を展開する。
3年次	・収集したデータの分析を行い、結果の妥当性を検証したうえで、博士論文を作成する。

【評価】

研究プロセスへの取り組み状況、作成した研究計画書・論文により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) APA (江藤裕之他訳) : APA 論文作成マニュアル, 医学書院, 2004.

5. 研究指導教員と指導の概要

教員	指導の概要
原 祥子	認知症や運動器疾患など高齢者に多い疾病や加齢による様々な障がいに関わる専門的な看護を発展させるための新規性のある研究課題を選定し、関連する医・工分野と連携・融合したこれまでの研究を基に、新たな研究方法論へのチャレンジを検討しながら、目的に即した適切な研究方法を選択・工夫し、先進的な看護学を拓く論文を作成できるよう指導する。
内田宏美	超高齢社会における保健医療・介護の質と安全の向上に資するシステム開発や人材育成システムの開発に関連する研究課題を多面的に探索し、これまで研究を行ってきた社会学や経営学などの関連分野の知見と高齢看護学の融合による研究方法を探索・選択・応用して、目的に即した適切な研究方法を選択し、結果の妥当性を確保した論文を作成できるよう指導する。
小笹美子	人々の生活や環境を包括的に捉え、中山間地の特性に応じた健康生活の支援方法を開発するための研究課題と、コミュニティが弱体化している超高齢地域における災害看護の課題に対して、行政機関や医療機関との連携と協働による研究方法を選択し、目的に即した研究方法の検討、データ収集、分析、論文作成ができるよう指導する。
福田誠司	高齢期の生活に多大な影響を及ぼす健康問題の一つである白血病を含む血液疾患と先天性代謝異常の専門家として、分子生物学分野における基礎医学的研究成果と豊富な臨床経験を基に、新規性のある研究課題を選定し、臨床医学的手法と基礎医学的手法を融合させた研究方法を選択・工夫し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。
橋本龍樹	地域の実情に応じた、科学的根拠に基づく健康指導・健康管理の方法の開発や効果の検証をするための研究課題を選定し、動物実験による発生工学的的手法や分子生物学解析、生化学データの解析や病理学的解析等の医学的研究方法を検討しながら、目的に即した研究方法を選択・工夫し、多角的な視点からデータ収集・解析を行い、論文作成の指導を行う。

小林裕太	超高齢社会における人々の健康課題を環境との関連から捉え、健康を支援する環境づくりや健康長寿に寄与し得る研究課題について生理学的研究方法や薬理学的研究方法を選択し、精度の高いデータ収集・解析、論文作成の指導を行う。
若崎淳子	超高齢社会を生きる視点から、老年看護学とがん看護学の融合により QOL の維持・向上を目指した高齢がん患者のケアの開発やエビデンスの構築に向けて看護学を考究し、看護学の高度な専門知識をもって最新の知見と関連する理論により研究課題を選定し、複数の研究方法論を理解した上で独創的な研究を計画・実行し、論文を作成できるよう指導する。
出口 顯	超高齢社会における人々の健康課題や健康長寿を支える先端医療をめぐる文化的対応の中に研究課題を求め、生命倫理に関する諸問題を文化人類学の切り口で分析した研究の実績を生かし、適切と判断されるテーマについて、エスノグラフィーを行ううえでの倫理と計画的なエスノグラフィー研究を行うための検討、研究計画書の作成、精度の高いデータ収集と分析、論文作成ができるよう指導する。
稲垣卓司	超高齢社会が直面している人間関係の希薄によって発生するライフステージに応じた精神・心理的課題の中から、児童から高齢者にわたる精神科医としての診療・研究を基に、支援方法を開発するための研究課題を選定し、精神医学的方法論も検討しながら目的に即した精度の高い研究方法を選択し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。
多田敏子	高齢者のストレングスの概念を取り入れた生活習慣病予防や介護予防、高齢者の就業・社会交流と QOL、在宅高齢者のサポート授受、介護家族の QOL、地域の特性を捉えた共助力育成や被災者の生活支援など、超高齢期の健康生活を見据えた研究課題に対して、公衆衛生学との連携と協働による研究方法を選択し、結果の妥当性を確保した論文を作成できるよう指導する。
小林祥泰	超高齢社会における主要な健康問題である脳卒中や認知症、難病等の患者とその家族に対する看護、及び、疾病予防に関連した研究課題について、脳卒中の専門医としての医学的な専門知識を基に、新規性のある研究課題を選定し、頭部の画像診断を活用した臨床医学手法と脳血流量の測定を含む生理学的検査を用いた基礎医学的手法を融合させた研究方法を選択・工夫し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。

塩飽邦憲	超高齢社会における健康問題の中核をなす肥満、高脂血症、高血圧等の生活習慣病を予防し、人々が健康に老いるために、医療・保健行政・福祉のネットワークによる地域住民主体の健康作りの支援に関わる看護の発展に資する研究課題に対して、これまでの研究成果、および、フィールドワークの成果を基に、主に、疫学的手法を用いたデータの収集・解析・論文作成の指導を行う。
津本優子	地域包括ケア等のネットワークにおける看護情報システムの開発や情報リテラシーを高めるための教育システムの開発に関する研究課題及び安全な健康長寿社会の実現に寄与する観点からの研究課題に対して、疫学統計法・情報学の知見を活用して、データ収集・解析・論文作成の指導を行う。
福間美紀	中山間地における要支援高齢者や虚弱高齢者の支援、疾病予知予防の観点からの健康支援システムの開発に関する研究課題に対して、地域の医療及び保健機関と連携して行ってきた研究を踏まえ、主に疫学的方法やアクションリサーチを用いて、データ収集・解析・論文作成の指導を行う。
小黒浩明	超高齢社会における主要な健康問題である脳卒中、認知症、パーキンソン病等に関連した研究課題について、脳神経系の加齢性変化を踏まえた老年医学の観点からの検討を加えるとともに、臨床医学や医工連携による研究方法を探索して目的に即した適切な研究方法を選択し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。

地域がん治療学

Local cancer therapeutics

単位数：2単位

- 磯部 威 教授：呼吸器・臨床腫瘍学 並河 徹 教授：病態病理学
田島義証 教授：消化器・総合外科学 齊藤洋司 教授：麻酔科学
鈴宮淳司 教授：先端がん治療センター
磯村 実 教授：人間科学部（医学部兼務）
津端由佳里 講師：呼吸器・化学療法内科

1. 科目の教育方針

地域がん治療学においては、地域に多い高齢者のがん診療に精通し、地域連携を推進し、地域貢献のマインドを有する全人的ながん診療の専門家を育成する。がんの診療の基本であるがんの診断、機能評価、患者コミュニケーション、治療適応の判断、緩和ケア、包括的な患者マネジメントについて学び、切れ目のないがん医療を医師、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカーなど多職種によるチームオンコロジーの構築と展開について習得することを目標とする。また、プログラムはがん治療認定医機構ならびに日本臨床腫瘍学会のカリキュラムに準じて横断的、段階的に作成されており、本コースを履修することでがん治療に関する認定医、専門医などの資格試験に求められる知識を確保することが可能となる。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) がん診療の実践に必要な臨床的知識を獲得する。
- 2) がん診療において必要とされる包括的なマネジメントについて理解する。
- 3) がん治療認定医機構の認定医ならびに日本臨床腫瘍学会認定のがん薬物療法専門医資格試験の受験に必要なレベルに到達する。
- 4) 地域がん診療に必要な地域医療学、病診連携について学ぶ

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) がんに関する基礎医学的知見を説明できる。
- 2) がんの心理社会的側面・倫理的側面を説明できる。
- 3) がんの治療に関する基本原理を理解し、説明できる。
- 4) 地域がん診療に必要な地域医療学、病診連携が説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

【参考図書】

- 1) 日本臨床腫瘍学会編集による「新臨床腫瘍学 改訂第4版」、南江堂、2015.
- 2) 佐藤隆美：What's New in Oncology がん治療エッセンシャルガイド改訂第3版、南山堂、2015.
- 3) 国立がん研究センター内科レジデント編：がん診療レジデントマニュアル第7版、医学書院、2016.

※他、適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	山陰地区のがん医療の現状と地域がん対策	磯部 威
2	病診連携と ICT	磯部 威
3	病理学、臨床検査医学、分子生物学	並河 徹
4	家族性腫瘍、遺伝子診断	磯村 実
5	高齢者のがんの特徴	津端由佳里
6	高齢者機能評価	津端由佳里
7	消化器がんの手術適応	田島義証
8	地域におけるがん薬物療法（1）外来化学療法	鈴宮淳司
9	地域におけるがん薬物療法（2）地域連携パス	鈴宮淳司
10	副作用対策（1）血液毒性	磯部 威
11	副作用対策（2）非血液毒性	磯部 威
12	終末期ケア（1）疼痛管理	齊藤洋司
13	終末期ケア（2）コミュニケーションスキル	齊藤洋司
14	演習（模擬試験）	磯部 威
15	総括	磯部 威

がん医療社会学

Cancer medical sociology

単位数：2単位

○磯部 威 教授：呼吸器・臨床腫瘍学 椎名浩昭 教授：泌尿器科学
齊藤洋司 教授：麻酔科学 熊倉俊一 教授：地域医療教育学
津端由佳里 講師：呼吸器・化学療法内科

1. 科目の教育方針

がん医療社会学においては、地域に多い高齢者や合併症を有する患者のがん治療学として、最適ながん医療が提供できる医療従事者を育成する。がん患者がその居住する地域にかかわらず、科学的知見に基づく適切ながん医療を受けることができるようにすること、がん患者が置かれている状況に応じ、本人の意向を十分尊重して治療方法等が選択されるという、がん対策基本法の基本理念を理解し、患者のQOL（生活の質）や副作用対策についての臨床研究、医療費に関するがん医療社会学、地域での終末期医療や緩和医療学に関して学ぶ。がん診療における「対話」の重要性を理解し、地域医療においての多職種によるチーム医療の重要性と実際を学ぶ。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

地域に多いunfit populationと呼ばれる、高齢者や合併症を有するがん患者に対して、診断、病状説明、最適な治療について対話ができる医療従事者を育成することを目標とする。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) がん患者のQOL（生活の質）について理解する。
- 2) 各臓器別のがん腫について診断、治療戦略を学ぶ。
- 3) 高齢者や合併症を有するがん患者への対応を学ぶ。
- 4) がん診療におけるチーム医療について学ぶ。
- 5) がん診療における対話の重要性を理解する。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

※適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	がん医療における対話の重要性	礪部 威
2	地域がん医療と地域医療医の育成	熊倉俊一
3	I C Tを用いた緩和ケア研修	齊藤洋司
4	化学放射線治療と免疫チェックポイント阻害薬	礪部 威
5	高齢者機能評価の概要	津端由佳里
6	がん治療における高齢者機能評価の有用性	津端由佳里
7	泌尿器がんの現状と地域連携	椎名浩昭
8	免疫関連有害事象	津端由佳里
9	Q O L（生活の質）評価	礪部 威
1 0	地域がん医療とチーム医療	礪部 威
1 1	地域がん医療における看護師の役割	礪部 威
1 2	地域がん医療における薬剤師の役割	礪部 威
1 3	I C Tを用いた地域がんチーム医療	礪部 威
1 4	演習（模擬試験）	礪部 威
1 5	総括	礪部 威

緩和ケア学

Palliative Care

単位数：2単位

○齊藤 洋司 教授：麻酔科学

稲垣 正俊 教授：精神医学

1. 科目の教育方針

生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族を正しく理解し、早期より痛みや、身体的、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を包括的に評価し、アプローチするための理論と方法について学習する。

がんがもたらす身体症状の病態・発現メカニズムを理解し、薬物的・非薬物的アプローチを適切に活用しながら、症状を緩和するケアを提供する能力を高める。

精神的苦悩のアセスメントと介入方法、コミュニケーション方法を学び、精神的苦悩を緩和するための技法を学ぶ。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) がん医療における緩和ケアの意義、役割を理解する。
- 2) 全人的痛みの評価、緩和を学ぶ。
- 3) がんの痛みの特徴と治療を学ぶ。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 緩和ケアの意義を説明できる。
- 2) 早期からの緩和ケアを行うことができる。
- 3) 全人的な痛みを4側面から評価できる。
- 4) がんの痛みの機序を説明できる。
- 5) 非がん患者の緩和ケアの適応について説明できる。
- 6) 精神的痛みの特徴と緩和について説明できる。
- 7) スピリチュアルな痛みの特徴と緩和について説明できる。
- 8) 緩和的放射線治療の特徴について説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン委員会編集：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年版、金原出版、2014.
 - 2) Geoffrey Hanks, Nathan I. Cherny : Oxford Textbook of Palliative Medicine FOURTH EDITION 2011.
- ※他、適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	がんの痛みの特徴と機序	齊藤洋司
2	神経障害性痛の病態生理	齊藤洋司
3	内臓痛の特徴と機序	齊藤洋司
4	オピオイドの作用機序	齊藤洋司
5	呼吸困難とオピオイド	齊藤洋司
6	全人的痛みと緩和ケア	齊藤洋司
7	主な身体的苦痛と緩和ケア	齊藤洋司
8	がん性痛の薬物療法	齊藤洋司
9	がん性痛の神経ブロック療法	齊藤洋司
10	緩和ケアと多職種協働	齊藤洋司
11	地域連携と療養の場	齊藤洋司
12	がん患者の不安・抑うつ	稲垣正俊
13	がん医療におけるコミュニケーション	稲垣正俊
14	緩和ケアにおいて放射線治療の果たす役割	齊藤洋司
15	緩和ケアにおける放射線治療の実際	齊藤洋司

環境医学 I

Environmental Medicine I

単位数：2 単位

○神田秀幸 教授：環境保健医学
久松隆史准教授：環境保健医学（公衆衛生学）

1. 科目の教育方針

主体と環境との相互作用という観点から、様々な健康問題、疾病の原因究明とその予防に取り組む研究について学習する。研究の方法は「人間レベル」を中心に、生活環境や社会文化環境を含め、人の取り巻く環境と医学医療との関連を検討する。様々な環境で起こる問題を解決するためには、歴史的背景を学習し、そこから得られた技術や経験を理解するとともに、社会集団として国際的あるいは社会的なルール・制度・仕組みを把握することも重要である。問題解決とリスク低減のために、マクロ的視野および環境共生の枠組みに立った展開ができることを学習の狙いとする。環境医学 I では総論的な内容を主とし、概念や枠組み、社会制度等の理解を重視する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 環境と健康の関連性からとらえる研究テーマを開発する。
- 2) 生活習慣・生活習慣の健康への影響を評価する方法論を理解する。
- 3) 労働環境の実際的応用研究を理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 疫学研究について説明できる。
- 2) 生活環境と健康リスクについて説明できる。
- 3) 働くことと健康について理解できる。

3. 教育の方法、進め方

担当教員による講義を主としながらも、発言や思考時間を設けた双方向型の授業展開を行う。また、テーマによっては、学生によるプレゼンテーションやグループ討論を行い、学生自身が主体的に考える機会を設け、問題解決型思考を養う学習を行う。

4. 成績評価の方法

学生によるプレゼンテーションの内容や表現、グループ討論への取り組み状況、課題レポート等を用いて、総合的に行動目標の達成度を評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 厚生労働統計協会編：国民衛生の動向、厚生労働統計協会、2014/2015
 - 2) JM Last 編：疫学辞典、日本公衆衛生協会、2000.
 - 3) KJ Rothman：Modern Epidemiology third Edition, Lippincott Williams&Wilkins, 2008.
 - 4) B. ラマツツーニ著、松藤元訳：働く人々の病気、北海道大学出版会、1980.
 - 5) 和田攻監修：産業保健マニュアル（第6版）、南山堂 2013.
- ※他、適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	疫学 総論	神田秀幸
2	疫学方法論（1） 記述疫学	久松隆史
3	疫学方法論（2） 分析疫学（症例対照研究）	久松隆史
4	疫学方法論（3） 分析疫学（コホート研究）	久松隆史
5	疫学方法論（4） 介入研究	久松隆史
6	疫学方法論（5） スクリーニング	神田秀幸
7	疫学方法論（6） 臨床疫学	久松隆史
8	生活環境と健康（1） 空気・水・騒音・気圧と健康	神田秀幸
9	生活環境と健康（2） 放射線と健康	神田秀幸
10	文化環境と健康	神田秀幸
11	社会環境と健康（1） 社会制度における保健医療	神田秀幸
12	社会環境と健康（2） 保健医療政策と人々の健康	神田秀幸
13	労働環境と健康（1） 労働衛生管理体制と働く人の健康	神田秀幸
14	労働環境と健康（2） 産業中毒とその対策	神田秀幸
15	労働環境と健康（3） 産業医・産業保健スタッフの役割	神田秀幸

環境医学Ⅱ

Environmental Medicine II

単位数：2単位

- 神田秀幸 教授：環境保健医学
久松隆史 准教授：環境保健医学（公衆衛生学）
山崎雅之 准教授：人間科学部（医学部兼務）

1. 科目の教育方針

技術化、情報化が著しく進歩した反面、環境問題やライフスタイルの変容、高齢化など種々の問題を抱える現代社会において、身体的・社会的・精神的な面での不適応から様々な健康問題が生じてきている。これら人間の健康に関わる諸問題を“生涯を通じての健康”を目指した健康教育の理念や方法論を確立していくことが求められる。また健康に関わる諸事項について周辺領域を含めて学際的知識と実践技術を体系的に習得し、現代生活に潜む健康課題に対する問題解決能力を養うことを学習する。環境医学Ⅱでは各論的な内容を主とし、各課題に対して周辺関連領域の知識を含めた、深く掘り下げた理解と議論を展開する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 自然・生活・社会環境と健康との関連を理解する。
- 2) 環境と健康との関連を歴史的、文化的な文脈 context から理解する。
- 3) 健康を支援する環境づくりや環境に順応した人間行動を理解する。
- 4) 健康課題に対応する人類生態学、政策科学の概念と方法を理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 自然・生活・社会環境と健康との関連を列記することができる。
- 2) 環境と健康との関連を歴史的、文化的な文脈 context から例示することができる。
- 3) 健康を支援する環境づくりの要件を述べることができる。
- 4) 地球環境問題における環境に順応した人間行動を例示することができる。
- 5) 人類生態学、政策科学の概念と方法の特徴を述べることができる。

3. 教育の方法、進め方

担当教員による講義を主としながらも、発言や思考時間を設けた双方向型の授業展開を行う。また、テーマによっては、学生によるプレゼンテーションやグループ討論を行い、学生自身が主体的に考える機会を設け、問題解決型思考を養う学習を行う。

4. 成績評価の方法

学生によるプレゼンテーションの内容や表現、グループ討論への取り組み状況、課題レポート等を用いて、総合的に行動目標の達成度を評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

1) Mary Dobson 著、小林力訳：Disease 人類を襲った30の病魔、医学書院、2010.

2) 日本禁煙学会編：禁煙学改訂2版、南山堂、2010.

※他、講義ごとに資料を配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	環境医学 総論	神田秀幸
2	環境医学各論(1) 生活と健康	久松隆史
3	環境医学各論(2) 社会と健康	神田秀幸
4	環境医学各論(3) 健康への自然と社会の相互作用	山崎雅之
5	地球環境問題(1) 地球温暖化	久松隆史
6	地球環境問題(2) 化学物質による環境汚染	久松隆史
7	地球環境問題(3) PM2.5による大気汚染	久松隆史
8	地球環境問題(4) 生物多様性と生態系の破壊	山崎雅之
9	社会環境問題(1) 社会経済格差	山崎雅之
10	社会環境問題(2) 飲酒・喫煙	神田秀幸
11	社会環境問題(3) 生活習慣	山崎雅之
12	社会環境問題(4) 職業ストレスとメンタルヘルス不全	久松隆史
13	人類生態学	山崎雅之
14	健康政策科学	山崎雅之
15	環境による発がん	久松隆史

医学・医療情報学 I

Medical Informatics I

単位数：2 単位

○津本周作 教授：医療情報学 平野章二 准教授：医療情報学
河村敏彦 准教授：医療情報部

1. 科目の教育方針

医学・医療情報学とは、情報学の手法を広く取り入れて、基礎・臨床医学および医療に役立てることを目的とした学問である。本講義では、現在、情報学ではどのような先端的な研究がなされているかという基礎的な知識を与え、情報学の基本を習得させるとともに、それが今後どのように医療分野へ展開していくかということ展望させることを目的としている。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 医療情報システムについての基礎知識を学ぶ。
- 2) 情報セキュリティの基礎知識を学ぶ。
- 3) 情報学の最近の研究について学ぶ。
- 4) EBM の基礎技術である生物統計学について学ぶ。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 病院情報システムの基本的な構成について説明できる。
- 2) インターネット上でのセキュリティについての基本的考え方を説明できる。
- 3) 病院安全に要求される情報通信技術の基礎について説明できる。
- 4) 情報学の基本的な考え方を説明できる。
- 5) 生物統計学の手法を使って、データ解析できる。

3. 教育の方法、進め方

講義およびソフトウェアを使った実習で進める。

4. 成績評価の方法

課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) Shortliffe, E. and Cimino, J. Biomedical Informatics 4th Edition, Springer, 2014.
- 2) Dawson, B. and Trapp, R. Basic & Clinical Biostatistics: 4th Edition, McGraw-Hill Medical, 2004.

※適宜、資料を配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	病院情報システム	津本周作
2	診療情報の電子化	津本周作
3	情報ネットワーク	平野章二
4	個人情報保護と Pmark	平野章二
5	情報セキュリティ	平野章二
6	サービスコンピューティング	津本周作
7	データマイニング	津本周作
8	検定論	河村敏彦
9	実験計画法の基本的な考え方について	河村敏彦
10	分散分析	河村敏彦
11	ノンパラメトリック統計	河村敏彦
12	多重比較	平野章二
13	生存率解析	平野章二
14	判別分析	河村敏彦
15	品質管理	河村敏彦

地域医療学 I

Community Medicine I

単位数：2単位

○熊倉俊一 教授：地域医療教育学
総合医療学講座 教授の後任

神田秀幸 教授：環境保健医学
廣瀬昌博 教授：地域医療政策学

1. 科目の教育方針

地域医療学とは、高齢化・過疎化といった地域医療の現状を見据えて、大学病院をはじめとした拠点病院と一次、二次医療機関および福祉関連施設が密に連絡しあって地域医療を展開、その展開にどのようなアプローチが存在するかを多角的にとらえることを目的とした学問である。本講義では、地域医療学の現状をとらえつつ、従来からのアプローチから先端的な研究にまでを網羅し、それが今後どのように地域医療として展開していくかということを展望させることを目的としている。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 地域医療の現状を学ぶ。
- 2) 地域福祉の現状を学ぶ。
- 3) 地域医療に必要な疫学的アプローチについて学ぶ。
- 4) 地域医療に求められる医療人材の役割について学ぶ。
- 5) 地域医療に関する研究方法について学ぶ。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 地域医療の現状とその問題点について基本的事項を説明できる。
- 2) 地域福祉の現状とその問題点について基本的事項を説明できる。
- 3) 疫学的アプローチを使って地域保健指標の評価ができる。
- 4) 地域医療における各種医療機関の役割について説明できる。
- 5) 地域医療を対象とした研究方法に関する基本的知識について説明できる。
- 6) 地域医療を対象とした研究について説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) World Health Organization. Increasing access to health workers in remote and rural areas through improved retention. Global policy recommendations. 2010.
[<http://www.who.int/entity/hrh/retention/guidelines/en/>]
- 2) Organization for Economic Cooperation and Development. OECD Factbook 2014. Economic, Environmental and Social Statistics. 2014.
[http://www.oecd-ilibrary.org/economics/oecd-factbook-2014_factbook-2014-en]
- 3) 自治医科大学監修：地域医療テキスト、医学書院、2009.
- 4) John A. Dent・Ronald M. Harden 著、鈴木康之・錦織宏監訳 相野由紀子・鈴木なおみ・足立拓也・吉村仁志編集：医学教育の理論と実践、篠原出版新社、2010.

※その他、講義ごとに資料を配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	地域医療学総論	熊倉俊一
2	世界の地域医療の現状と課題	熊倉俊一
3	島根県における地域医療の現状と将来展望	熊倉俊一
4	地域医療を担う人材育成	熊倉俊一
5	地域保健医療と疫学（1）地域診断の基礎	神田秀幸
6	地域保健医療と疫学（2）地域診断の応用	神田秀幸
7	地域保健医療と疫学（3）地域診断を活用した地域医療の展開	神田秀幸
8	地域保健活動の実際	神田秀幸
9	地域医療と町創り	総合医療学講座 教授の後任
10	地域医療における病院、開業医、診療所の役割	総合医療学講座 教授の後任
11	地域医療における病病連携と病診連携	総合医療学講座 教授の後任
12	地域医療における保健・医療・福祉連携	総合医療学講座 教授の後任
13	地域医療に関する研究とその方法	廣瀬昌博
14	ビッグデータを用いた地域医療の考え方	廣瀬昌博
15	地域医療に関する研究と医療倫理	廣瀬昌博

地域医療学Ⅱ

Community Medicine Ⅱ

単位数：2単位

○津本周作 教授：医療情報学
河村敏彦 准教授：医療情報部
平野章二 准教授：医療情報学

1. 科目の教育方針

地域医療学とは、高齢化・過疎化といった地域医療の現状を見据えて、大学病院をはじめとした拠点病院と一次、二次医療機関および福祉関連施設が密に連絡しあって地域医療を展開、その展開にどのようなアプローチが存在するかを多角的にとらえることを目的とした学問である。本講義では、地域医療学の現状を情報通信技術の観点からとらえた情報学的アプローチについて概説する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 情報セキュリティの現状を学ぶ。
- 2) 地域医療に必要な情報通信技術について学ぶ。
- 3) 地域医療に関わる情報学の基礎について学ぶ。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 情報通信技術の現状とその問題点について基本的事項を説明できる。
- 2) 情報セキュリティの現状とその問題点について基本的事項を説明できる。
- 3) 遠隔医療に関わる情報学の基本的知識について説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義およびソフトウェアを使ったデモ、学生によるプレゼンテーションで進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

【参考文献】

- 1) Fong, B. Fong, A.C.M. and Li, C.K. Telemedicine Technologies: Information Technologies in Medicine and Telehealth Wiley, 2010.
- 2) Latifi, R. Current Principles and Practices of Telemedicine and e-Health., IOS Press, 2008.
- 3) Levin, R.I., Rubin, D.S. Statistics for Management, Pearson Education Limited, 2013.

※適宜、資料を配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	医療の分担と遠隔医療	津本周作
2	電子カルテを基盤とする地域医療連携ネットワーク	津本周作
3	品質管理	河村敏彦
4	情報学的なマネジメント技術：情報の可視化	河村敏彦
5	情報学的なマネジメント技術：データマイニング	河村敏彦
6	情報学的なマネジメント技術：統計モデリング	河村敏彦
7	情報学的なマネジメント技術：タグチメソッド	河村敏彦
8	医療情報システム概論	津本周作
9	診療情報管理	津本周作
10	診療情報の二次利用	津本周作
11	クラウドコンピューティング	平野章二
12	医療情報交換のための標準規約	平野章二
13	標準化構造化医療記録情報交換規約	平野章二
14	医療情報交換に必要なネットワークの仕様	平野章二
15	医療情報交換に必要なネットワークの実践	平野章二

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) リチャード・クルーズ他：医療プロフェッショナルリズム教育、日本評論社、2012.
- 2) ロナルド・ハーデン他：医学教育の理論と実践、篠原出版新社、2010.
- 3) 自治医科大学監修：地域医療テキスト、医学書院、2009.
- 4) World Health Organization. Increasing access to health workers in remote and rural areas through improved retention. Global policy recommendations. (2010)
[<http://www.who.int/entity/hrh/retention/guidelines/en/>]
- 5) Organization for Economic Cooperation and Development. OECD Factbook 2014. Economic, Environmental and Social Statistics. (2014)
[http://www.oecd-ilibrary.org/economics/oecd-factbook-2014_factbook-2014-en]

※その他、講義ごとに資料を配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	総合診療学総論	熊倉俊一
2	我が国・海外における総合医療の現状と課題	熊倉俊一
3	Common disease；診断と治療・予防	熊倉俊一
4	生活習慣病（高血圧症・脂質異常症）；診断と治療・予防	熊倉俊一
5	生活習慣病（糖尿病・メタボリックシンドローム）；診断と治療・予防	熊倉俊一
6	Common disease と生活習慣病；臨床研究のあり方について	熊倉俊一
7	がんと総合診療	熊倉俊一
8	地域における総合診療の役割と病病連携・病診連携	総合医療学講座 教授の後任
9	総合診療医の育成プログラム	総合医療学講座 教授の後任
10	総合診療とリサーチ	総合医療学講座 教授の後任
11	総合診療と国際的視野の涵養	総合医療学講座 教授の後任
12	総合医療に関する研究とその方法	廣瀬昌博
13	地域包括ケアにおける総合診療	廣瀬昌博
14	総合診療と医療倫理	廣瀬昌博
15	ビッグデータを用いた総合医療の解析と評価	廣瀬昌博

総合診療学Ⅱ

General Medicine/Family Medicine II

単位数：2単位

○総合医療学講座 教授の後任
熊倉俊一 教授：地域医療教育学
廣瀬昌博 教授：地域医療政策学

1. 科目の教育方針

地域医療における指導者、特に、総合診療を担う指導者として活躍するために、地域や我が国の医療が直面する様々な課題を理解して解決策を展望できる能力を修得するとともに、指導者として必要な教育技法や国際的視野を涵養するための方策等について学ぶ。また、生活習慣病や加齢と動脈硬化、がん、認知症など地域の医療に密接に関連する疾患についての基礎・臨床研究や疫学研究、または、コホート研究等を遂行していくために必要な専門的知識を修得し、自立して研究活動を実践できる能力を身につける。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 地域医療が抱える課題に対して適切に対処できるようになるために、島根県および日本の医療資源や医療経済、行政、介護・福祉等についての知識を修得する。
- 2) 医療における国際的視野を涵養するために、海外の医療の現状を学ぶ。
- 3) 地域における患者・医師の良好な関係を構築し、コミュニケーションを円滑に実施できるようになるために、地域医療の体験を通じて、基本的な技能と態度を身につける。
- 4) 信頼される地域医療を提供していくことができるようになるために、医の倫理・プロフェッショナリズムを身につける。
- 5) 将来指導者としての役割を担うことができるようになるために、シミュレータ教育を含めた医学教育の知識と技能を修得する。
- 6) 研究を適切に実施することができるようになるために、研究に関する倫理と研究者としての適切な姿勢を修得する。
- 7) 研究を自立的に実施することができるようになるために、統計学と研究の遂行方法について修得する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 解決すべき地域医療の課題を説明できる。
- 2) 地域医療の課題に対する解決策を列挙できる。
- 3) 海外と日本の医療の違いを概説できる。
- 4) 研究における倫理と利益相反を説明できる。
- 5) 自立的に研究活動を実践するために必要な事項を説明できる。
- 6) 良好な患者・医師関係を構築することができる。
- 7) 地域医療の担い手としての優れた倫理感を備えることができる。
- 8) 教育技法を理解し、医療者の教育を実践できる。
- 9) 優れた倫理感に基づいた研究を実践できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

総合診療学 I に同じ

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	医学教育特論 (低・中学年 (1年生～4年生) 医学教育)	総合医療学講座 教授の後任
2	シミュレータ教育 (1) 医学教育とシミュレータ	総合医療学講座 教授の後任
3	シミュレータ教育 (2) 総合医に必要な診療技術修得とシミュレータ教育	総合医療学講座 教授の後任
4	看護と地域医療 (1) 総合医育成と看護	総合医療学講座 教授の後任
5	看護と地域医療 (2) 総合診療と看護	総合医療学講座 教授の後任
6	介護・福祉と地域医療	総合医療学講座 教授の後任
7	医療行政と地域医療特論 A 地域医療構想と医療行政	総合医療学講座 教授の後任
8	医療行政と地域医療特論 B コミュニティの成長における医療行政の役割	総合医療学講座 教授の後任
9	医療情報システム学特別講義	総合医療学講座 教授の後任
10	実用医用統計学 (1) 健康に関する統計学の概念と基本 (講義)	廣瀬昌博
11	実用医用統計学 (2) 研究遂行の実践手法 (ワークショップ)	廣瀬昌博
12	地域における健康増進・疾病予防	熊倉俊一
13	地域における医療提供体制のあり方	熊倉俊一
14	地域の医療を担う人材の育成と支援	熊倉俊一
15	地域医療を守る住民活動	熊倉俊一

臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用
Point of contact between Clinical, Social and Environmental
Medicine and Advanced Informatics

単位数：2単位

- 長井 篤 教授：医学系研究科医科学専攻 臨床検査医学
並河 徹 教授：医学系研究科医科学専攻 病態病理学
津本周作 教授：医学系研究科医科学専攻 医療情報学
神田秀幸 教授：医学系研究科医科学専攻 環境保健医学
磯村 実 教授：医学系研究科医科学専攻 人間科学部(医学部兼務)
山崎雅之 准教授：医学系研究科医科学専攻 人間科学部(医学部兼務)
○平川正人 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 情報システム学
石賀裕明 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 地球資源環境学
廣富哲也 准教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 情報システム学

1. 科目の教育方針

高度情報学に関する人間および環境との係わり、それらの研究の動向などについて、情報工学の基礎から現代社会での活用事例まで、講義・セミナー等において学ぶ。さらにその医学への応用については医学情報の持つ基礎的性格を理解し、がんを含む生活習慣病の遺伝学や疫学的研究手法を学ぶことで社会・環境医学の研究法とシステムを学ぶ。また、臨床現場で活用されている疫学や臨床検査学の研究方法、医療サービス設計などを理解する。基礎知識から臨床応用への発展を段階的に理解できるようにオムニバス形式の講義・セミナーで学ぶ。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 情報技術の現状と展望について理解できる。
- 2) 情報と環境との係わりを理解できる。
- 3) 医学情報の個人情報保護、疫学的な特徴、医療サービス設計への応用を理解できる。
- 4) 医学情報からのデータマイニングの方法を理解できる。
- 5) 医学情報を用いたがんを含む生活習慣病の遺伝学、臨床検査学への応用を理解できる。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 利用者から捉えた最近の情報処理技術の動向について理解できる。
- 2) 情報との係わりの上で環境問題の現状について概説できる。
- 3) 医学情報の個人情報保護、疫学的な特徴、医療サービス設計への応用を説明できる。
- 4) 医学情報からのデータマイニングの方法を説明できる。
- 5) 医学情報を用いたがんを含む生活習慣病の遺伝学、臨床検査学への応用を概説できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 福嶋義光監修：遺伝医学 やさしい系統講義 18 講、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2013.
- 2) 村松正實・木南凌監訳：ヒトの分子遺伝学第 4 版、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2011.
- 3) 河合忠著：異常値の出るメカニズム第 6 版、医学書院、2013.
- 4) 日本臨床検査医学会ガイドライン作成委員会編集：臨床検査のガイドライン JSLM2012、日本臨床検査医学会、2012.

※項目ごとに適宜文献を示す。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	情報活用に向けた人間指向コンピュータデザイン	平川正人
2	心とコンピュータ	平川正人
3	脳とコンピュータ	平川正人
4	身体とコンピュータ	平川正人
5	センサ技術と情報処理	廣富哲也
6	情報通信技術とアシスティブ・テクノロジー	廣富哲也
7	科学的情報をもとにした環境問題の解明と対策	石賀裕明
8	疫学資料の収集と統計解析	神田秀幸
9	地理情報システムの理解と活用	神田秀幸
10	生活・健康福祉システムの活用	山崎雅之
11	生活習慣病の集団遺伝学 1 ：遺伝子はどのように生活習慣病発症にかかわるか	並河 徹
12	生活習慣病の集団遺伝学 2 ：生活習慣病遺伝子の同定法	磯村 実
13	データマイニングの基礎	津本周作
14	臨床検査情報学 1 医学統計から導かれる臨床基準値の考え方	長井 篤
15	臨床検査情報学 2 情報学を活用した最先端検査技術を理解する	長井 篤

知的財産と社会連携

Intellectual properties and Social contribution

単位数：2単位

○中村 守彦 教授：医学系研究科医科学専攻 地域医学共同研究部門

1. 科目の教育方針

知的財産に関する基礎および応用知識を講義・セミナー・実習等において習得し、さらにはがん医療や次世代看護福祉などの高度医療における知的財産権を理解し、医工連携および看工農連携の研究事例や産学連携による新産業創出についての特論をオムニバス形式で学ぶ。知的財産について学んだ事柄を遂行できる力を培い、将来、産学連携による共同研究等を実施できる能力を養う。医療・看護の質向上に資する知的財産教育を実践し、専門的な知的財産権を活用して社会貢献できる人材を養成する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 知的財産および知的財産権の概要を理解する。
- 2) 医療領域における知的財産権の概要を理解する。
- 3) 医・理工農連携および看工農連携の研究事例について理解を深める。
- 4) 産学連携による新技術創出の状況を把握する。
- 5) 産学連携を社会連携の視点から理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 知的財産権の創造・保護・活用を説明できる。
- 2) 医療分野における知的財産権の重要性を説明できる。
- 3) 医・理工農連携および看工農連携による研究開発にあたり知的財産権を理解し行動することができる。
- 4) 医・理工農連携および看工農連携による実用化の事例を説明できる。
- 5) 研究・開発のマネジメントを説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。研究事例については、医・看工農連携による成果を体験実習して講義内容を深める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、体験実習における態度、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 辻本一義：研究・教育・ビジネス現場のための特許・知的財産権の教科書、PHP 研究所、2004.
 - 2) 隅蔵康一：これからの生命科学研究者のためのバイオ特許入門講座、羊土社、2003.
 - 3) 出川通：最新MOT〈技術経営〉がよーくわかる本、秀和システム、2005.
 - 4) 技術経営コンソーシアム編集、三菱総合研究所監修：標準MOTガイド、日経BP社 2006.
 - 5) 沼上 幹：「わかりやすいマーケティング戦略」、有斐閣アルマ、2008.
- ※他、適宜特許公報、文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	イントロダクション	中村 守彦
2	知的財産概論 1 (基礎編)	中村 守彦
3	知的財産概論 2 (応用編)	中村 守彦
4	知的財産権 1 (創造)	中村 守彦
5	知的財産権 2 (保護)	中村 守彦
6	知的財産権 3 (活用)	中村 守彦
7	知的財産特論 1 (医療分野)	中村 守彦
8	知的財産特論 2 (医工連携)	中村 守彦
9	医・看工農連携による研究事例 1 (総合事例)	中村 守彦
10	医・看工農連携による研究事例 2 (島根大学の事例)	中村 守彦
11	教育研究と社会連携	中村 守彦
12	研究と開発のマネジメント	中村 守彦
13	産学連携による新事業創出事例	中村 守彦
14	看護学を核とした学際融合研究と知的財産の創出	中村 守彦
15		

機能性物質・食品の医療応用と環境影響

Medical Application and Environmental influence of Functional Materials and Foods

単位数：2単位

- 原田 守 教授：医学系研究科医科学専攻 免疫学
和田孝一郎 教授：医学系研究科医科学専攻 薬理学
川内 秀之 教授：医学系研究科医科学専攻 耳鼻咽喉科学
福田 誠司 教授：医学系研究科看護学専攻 臨床看護学
半田 真 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 物質化学
田中 秀和 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 物質化学
西垣内 寛 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 物質化学
小俣 光司 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 物質化学
中務 明 准教授：連合農学研究科生物生産科学専攻
川向 誠 教授：連合農学研究科生物資源科学専攻
鈴木 美成 准教授：連合農学研究科生物環境科学専攻

1. 科目の教育方針

医療材料の開発とそれに伴う医療技術の進歩は、医療全般の向上に大きく貢献してきた。本科目では、医学専門家の立場からは、実際に医学に応用され医療の向上に貢献している機能性物質・食品について説明する。特に、生体の恒常性の維持に必須なシステムである免疫系、内分泌系、消化器系に焦点を当て、それらの基本的な作用機序・特性などを医学的・臨床的な視点から概説する。また、理工農学専門家の立場からは、生体内において多彩な機能を発揮する物質の開発や設計、化学物質としての環境への影響について、さらに、機能性食品としての市場性などについて概説する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 生理的条件下での機能性物質の特性を理解する。
- 2) 栄養分や薬剤として有効な物質の効果を理解する。
- 3) 生体内での機能性物質の作用を説明できる。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 新規機能性物質の開発・設計・合成の手法および生体内での機能について理解する。
- 2) アレルギー疾患制御、免疫賦活などの生命現象に関与する化合物を説明できる。
機能性食品について理解する。
- 3) がん治療への機能性物質の適用を説明できる。

- 4) 栄養分輸送の媒体である水、基本的栄養素であるミネラル（微量無機元素）の生体内での機能を理解する。
- 5) 環境における機能性物質の特性と挙動、および環境への影響を理解する。
- 6) 健康維持の中心的役割を果たしている消化管への機能性物質の影響を理解する。
- 7) 内分泌かく乱物質の性質と生体への影響を理解する。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 上野川修一・清水俊雄・清水誠・鈴木英毅・武田英二編：機能性食品の作用と安全性百科、丸善出版、2012.
 - 2) 清水俊雄：食品バイオの制度と科学－遺伝子組換え食品からニュートリゲノミクス－、同文書院、2007.
 - 3) 那須正夫・和田啓爾：食品衛生学「食の安全」の科学、南江堂、2011.
 - 4) 中島泉・高橋利忠・吉開泰信：シンプル免疫学、南江堂、2011.
- ※他、適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	消化器系と機能性物質 健康維持の中心的役割を果たしている消化管への機能性物質の影響を解説する	和田孝一郎
2	アレルギー疾患の制御に向けた機能性食品の開発と現状 アレルギー性鼻炎の病態や症状について解説すると共に症状を緩和する機能性食品の開発の現状を解説する	川内 秀之
3	機能性物質による免疫応答増強	原田 守
4	機能性物質による抗がん免疫の誘導とがん治療	原田 守
5	腸内細菌叢と免疫応答	原田 守
6	腸内細菌叢とがん治療	原田 守
7	機能性物質の細胞への作用 機能性物質の正常細胞とがん細胞への効果の相違について解説する	福田 誠司
8	がん細胞の治療抵抗性と機能性物質	福田 誠司
9	化学物質の環境への影響	田中 秀和
10	新しい統計手法をつかった機能性物質の設計	小俣 光司
11	機能性色素材料としてのフタロシアニン	半田 真
12	機能性物質の有機合成	西垣内 寛
13	農作物の機能特性と利用	中務 明
14	微生物による食品サプリメントの生産と市場性	川向 誠
15	生体におけるミネラル（微量元素の機能）	鈴木 美成

看護学専攻博士課程時間割

前期

	1・2時限 8:30～10:10	3・4時限 10:25～12:05	5・6時限 13:00～14:40	7・8時限 14:55～16:35	9・10時限 16:50～18:30	11・12時限 18:30～20:00	13・14時限 20:00～21:30
月						超高齢看護開発特講 N502	安全ケアシステム 開発特講 N502
火			高齢者看護学特論 N502	母子看護学特論	母子フィジカル アセスメント方法論	看護援助学特論	
			がん看護学特論 N404	看護理論	重症者フィジカル アセスメント方法論	地域・在宅看護学特論 N601	
水						がん看護 病態生理治療学	
木			看護情報管理論	看護倫理	看護研究方法演習 N502, 情報科学演習室		
			高齢者看護実践論 N502				
金			がん薬物療法看護論 N404	臨床薬理学	病態生理学	フィジカルアセスメント	
						研究方法特講	超高齢看護学 研究演習
土	土曜日等に嘱託講師の集中講義(講義日程についてはシラバス及び掲示で確認すること)						

後期

	1・2時限 8:30～10:10	3・4時限 10:25～12:05	5・6時限 13:00～14:40	7・8時限 14:55～16:35	9・10時限 16:50～18:30	11・12時限 18:30～20:00	13・14時限 20:00～21:30
月			がん薬物療法看護援助論 N404	緩和ケア演習 N404			
			高齢者在宅ケアシステム N502	高齢者看護援助論 N502			
火			認知症看護論 N502		家族看護援助論 N404	(専門分野別 看護学演習)	
水							
木			リスクマネジメント論 N502	看護人材育成論 N502	コンサルテーション論	保健医療福祉政策論 N601	
金			緩和ケア論			超高齢看護学 研究演習	
土	土曜日等に嘱託講師の集中講義(講義日程についてはシラバス及び掲示で確認すること)						

博士前期課程	基盤科目	専門必修科目・専門選択科目
	赤字:CNS共通科目	

- * 2年次専門必修科目:「看護学特別研究」,「看護学課題研究」 随時
- * 「高齢者看護学実習」, がん看護CNSコースの各実習については別途指示

博士後期課程	専門科目
--------	------

- ※「超高齢看護学特別研究」は随時
- ※関連科目については別途指示

平成31年度 大学院医学系研究科看護学専攻 学年暦

月																															行事等予定		
4月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	2日(火) 入学式 新入生オリエンテーション 11日(木)・16日(火) 学生定期健康診断(内科) 17日(水)・23日(火) 学生定期健康診断(X線)	
	曜	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火		
			入学式																											昭和の日	国民の休日		
5月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	8日(水)・14日(火) 学生定期健康診断(X線) 15日(水) 学生定期健康診断(内科)
	曜	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
		天皇の即位の日	国民の休日	憲法記念日	みどりの日	こどもの日	振替休日																										
6月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	曜	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
7月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	曜	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
															海の日																		
8月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	曜	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
											山の日	振替休日																					
9月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	12日(木) 看護学専攻(博士後期課程)中間発表会	
	曜	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月		
																敬老の日								秋分の日									
10月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	4日(金) 医学系研究科入学試験(第1次募集) 18日(金) 看護学専攻(博士前期課程)修士論文 中間発表会
	曜	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
													体育の日											即位礼正殿の儀の行われる日									
11月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	曜	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土		
			文化の日	振替休日																				勤労感謝の日									
12月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	曜	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
1月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	20日(月) 看護学専攻(博士前期課程) 修士論文提出
	曜	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
		元日											成人の日																				
2月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	4日(火) 看護学専攻(博士前期課程)修士論文発表会 8日(土) 医学系研究科入学試験(第2次募集) 21日(金) 修士論文最終提出 28日(金) 看護学専攻(博士前期課程)研究計画発表会		
	曜	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土			
											建国記念の日													天皇誕生日(予定)	振替休日(予定)								
3月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2日(月) 医学系研究科入学試験(第3次募集) 6日(金) 看護学専攻(博士後期課程)中間発表会 19日(木) 学位授与式
	曜	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
																						春分の日											